健二 玉島 3 期 授業評価報告書 氏名 令和 前

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

①「現代社会と女性」

ジャストは云とまた」 学科・コースの担当教員及び事務局教務課の協力を得て、スムーズな運営ができた。また、「ガイダンス」、 「キャリアについて考える」、「人権について考える」、「生き方について考える」等をテーマにすえ、15回の 授業を構成した。

新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言が発令されたため、1回休講となり、レポート対応となっ

②「長崎観光入門」

令和3年度からの開講のため、前年度の成果と課題はない。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

①「現代社会と女性」

○・3.16によるとは、 前年度との大きな変更はなく、「ガイダンス」、「キャリアについて考える」、「人権について考える」、「生き方について考える」等をテーマにすえ、15回の授業を構成する。 今年度は、「消費生活支援講座」をこれまでの2年次から1年次に移行した。

②「長崎観光入門」

新規開設の授業である。長崎の歴史、文化等の理解、「長崎さるく体験」、お勧め観光スポット紹介等を柱とし て授業を進めていく。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

①「現代社会と女性」

- ・1年次:「ガイダンス」、「キャリアについて考える」、「人権について考える」、「生き方について考える」等をテーマにすえ、15回のうち11回の授業を行う。うち、「消費生活支援講座」を2年次から1年次に移 行して行う。
- ・2年次:「就職するにあたって」、「年金セミナー」、「胎児の人権を考える」、「コミュニケーション力を 高める」の4回実施。うち3回は外部講師に依頼して実施する。
- ②「長崎観光入門」
 - ・長崎の歴史・文化、「長崎さるく体験」、お勧め観光スポット紹介作成を柱に実施する。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①「現代社会と女性」

・1年次の前期は11回のうちの5回実施したが、本格的な内容に触れていないので評価は2年生よりも低い。 2年生の評価(全体的な満足度)は平均4.3となった。

②「長崎観光入門」

・新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、「長崎さるく体験」を中止した。全体的な満足度は平均4.4 5とまずまずであった。

				学生に	よる	受業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員 教え		,	生の 習意欲		学生: 理解			受業外 修時間		全体的	
現代社会と女性	20S		4. 5		4. 5	i		4. 6		4. 5			6.8分		4. 5	i
長崎観光入門	208		4. 8		4. 6	;		4. 8		4. 9		6	67.5分		4. 6	i
現代社会と女性	20L		4. 4		4. 4	ļ		4. 5		4. 3		2	28.6分		4. 4	
長崎観光入門	20L		4. 3		4. 3	}		4. 6		4. 3		2	47.0分		4. 3	}
現代社会と女性	20Y		4. 1		4. 1			4. 1		4. 1		1	17.0分		4. 1	
現代社会と女性	218		4. 0		4. 0)		3. 8		4. 0		1	17. 5分		3. 7	,
現代社会と女性	21L		3. 8		3. 9)		3. 5		3. 8		1	15.0分		3. 8	}
現代社会と女性	21Y		4. 1		4. 3	}		4. 1		4. 1		1	19. 3分		4. 0)
									•	評	価			,		
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	(3	A	4	[3	(F	=	W ()	脱落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	Д	%	人	%
現代社会と女性	20\$	必修	23	85. 2	3	13. 6%	16	72. 7%	3	13. 6%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 09
長崎観光入門	20\$	選択必修	9	75. 3	0	0. 0%	2	25. 0%	6	75. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 09
現代社会と女性	20L	必修	23	85. 1	7	30. 4%	11	47. 8%	5	21. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 09
長崎観光入門	20L	必修	23	82. 5	7	30. 4%	7	30. 4%	7	30. 4%	2	8. 7%	0	0. 0%	0	0. 09
現代社会と女性	20Y	必修	92	86. 3	18	19. 6%	66	71. 7%	8	8. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

①アクティブラーニング 「現代社会と女性」では受講者数、教室等の関係で実施できなかったが、15回目の外部講師は学生とのやりと りの中で授業を進められたので、満足度は高かった。 「長崎観光入門」は、前半はほぼ講義形式であったが、後半は自ら調べ、まとめるという形で授業を進めること

ができた。 ②「オフィスアワー」

「長崎観光入門」で、1名の学生に対し指導した。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

①「現代社会と女性」

・15回の授業内容の見直しが必要ではないかと考えている。運営委員会でも協議・検討したい。

②「長崎観光入門」

・今年度が初めての開講科目であったので、次年度は学生が積極的に取り組める内容や手法を検討していきた

令和 3 年 N 期 授業評価報告書 LA	令和	3	年 前 期	授業評価報告書	氏名	太田美代
-------------------------	----	---	-------	---------	----	------

- 1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)
- 〇全体的な満足度では、担当するほとんどの科目で4.0以上であったが、「給食経営管理論」のみ3.0だった。 〇栄養士実力認定試験における、「給食経営管理論」の正答率は70.4%と良い成績を収めることができた。
- ○実習系の科目に関しては満足度が高かったが、講義に関しては学習内容が多く、専門的な基礎知識であるにもか かわらず、その重要性を十分に認識させることができなかった。学生の実態に対して教科書のボリュームがあるた め、内容を絞って教授し、ワークシートの工夫をすることを今年度に向けての課題とした。
- 2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- ○専門職としての基礎的な力を養うため、栄養士実力認定試験の短大平均を上回る者80%以上、及びA認定6 0%以上を目指す。
- 3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)
- ○実習演習の授業において、グループや個人での自己評価の場面をつくり、認め、励ますことを通して学びに向か う主体的な態度を育成する。
- ○機会をとらえて栄養士実力認定試験の過去問にあたらせ、理解不十分な分野を把握して指導を行う。 1 年生に対
- ○版名をこうれて不要エスプロのためない過去向にのたって、本所ドーフはカラミには生くすり。「千里に対しても教材研究を丁寧に行い、授業のポイントを復習できるワークシートを作成して授業にあたる。 ○基礎学力が十分でない学生も在籍するため、学力向上の強化策として学習会を支援し、教育サポートスタッフの 活用を図る。
- ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証)
- 「給食経営管理論」を含め、すべての科目で全体的な満足度が4.0以上だった。その一方で「栄養教育指導論実 習Ⅱ」の成績ではC評価者が多かった。知識・理解が弱いところがあったので、次年度はその部分の演習を強化し て着実に身につけさせたい。
- ・知識の定着を図る確認テストへの取組が不十分だった。学習会を利用して授業で習得できなかった部分の補習を
- アンケートの結果、ワークシートは好評だった。

			!	学生に	よる打	受業評	価アン	ケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		P容や バベル		教員教え		,	生の 習意欲		学生 理解			養業外 修時間		全体的	
栄養教育指導論実習Ⅱ	208		4. 3		4. 3			4. 4		4. 2	1	7	74. 2分		4. 3	}
給食経営管理論実習Ⅱ	20\$		4. 5		4. 5			4. 6		4. 5	;	7	75. 9分		4. 5	;
学外実習総合演習	20\$		4. 5		4. 5			4. 6		4. 4		7	71. 1分		4. 5	i
ゼミナール	20\$		4. 6		4. 6			4. 8		4. 6	;	2	42.0分		4. 2)
子どもの食と栄養	20Y		3. 8		3. 7	1		3. 9		3. 6	i	2	28.0分		3. 6	;
長崎食育学	218		4. 3		4. 4			4. 4		4. 4	1	4	41. 3分		4. 4	1
給食経営管理論	218		4. 0		4. 0			4. 2		4. 0)	3	33.8分		4. 0)
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	0,	3	A	4	E	3	(F	=	W (§	悦落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
栄養教育指導論実習Ⅱ	20\$	選択	23	75. 5	3	13. 6%	9	40. 9%	1	4. 5%	9	40. 9%	0	0. 0%	0	0. 0%
給食経営管理論実習Ⅱ	20\$	選択	19	87. 1	7	36. 8%	9	47. 4%	3	15. 8%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
長崎食育学	218	必修	23	79. 3	0	0. 0%	13	54. 2%	8	33. 3%	3	12. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
給食経営管理論	218	必修	23	76. 6	5	20. 8%	8	33. 3%	1	4. 2%	9	37. 5%	1	4. 2%	0	0. 0%

- ・実習系の科目については、計画的に実施することができた。講義を中心とする「給食経営管理論」についても 「大量調理施設衛生管理マニュアル」に関する部分で一部学生に説明させる場面を作り、主体的に学習に臨む姿勢 を促した。
- と、実習の最後にKJ法を応用して、すべての学生が自ら「何を学んだか」「どんなことが身についたか」を考える機会を設けた。グループでまとめて発表することで、反省点や授業の成果を共有することができた。 ・個別相談には随時対応しているが、知識の習得にかなり時間を要する学生がいるので、学習会を利用したり、グ
- ループワークで教えあう時間を設けたりして進めていく。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・「給食経営管理論」については、学生が意欲をもって授業に臨むことができるようクイズ形式の確認テストをエ 夫する。
- ハノ。 ・実習系の科目については、現行の方針を継続しつつ、提出物の作成に苦慮する学生に対して、学習会や個別指導 で対応する。

真美 令和 3 期 授業評価報告書 氏名 桑原 前

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

栄養学Ⅰ、食品衛生学については、学生の理解度がやや低かったため今年度は授業内容および授業方法の見直しを

で 食品学基礎実験については、実験器具の扱い方やレポートの作成方法をより丁寧に指導するとともに、食品学Ⅰと の連携を図る。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

栄養学Ⅰ、食品衛生学については、学生の理解度がやや低かったため今年度は授業内容および授業方法の見直しを 行う

. 食品学基礎実験については、実験器具の扱い方やレポートの作成方法をより丁寧に指導するとともに、食品学Iと の連携をとる

公衆衛生学は今年度より担当となったため、パワーポイントスライド教材の作成に力を入れる。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

食品衛生学は昨年度まで板書形式の授業を行ってきたが、学生の理解度満足度共にやや低い傾向にあったため、パ マーポイントスライドを使用した授業に切り替えた。食品学基礎実験は直接食品学Ⅰ担当の先生と連携を図ることはなかったが、学生に食品学Ⅰの進捗状況を確認しながら導入部分の説明方法を変更した。公衆衛生学は後半8回 を担当し、栄養士実力認定試験および管理栄養士国家試験に出題されている内容を中心に授業を組み立て、教材を 作成した。

※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証)

食品衛生学、食品学基礎実験の学生アンケートにおける理解度、満足度は昨年度と比較してやや上昇したが大きな変化はみられなかった。公衆衛生学については他の科目と比較して全体的に学生からの評価は低い傾向にあった。 特にビジネス医療秘書コースの学生においては内容やレベルが4.0、理解度が3.7、満足度が3.9と低い値を示して いる。一方、一緒に授業を受けた栄養士コースの学生の評価では内容やレベルが4.3、理解度が4.0、満足度は4.2 であった。内容とレベルのの見直しが今後の課題であり、それによってその他の評価も上昇すると考えられる。

				学生に	こよる打	受業評	価アン	ケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			業外 修時間		全体的	
公衆衛生学	20S		4. 3		4. 3			4. 2		4. 0		3	31. 4分		4. 2	
学外実習総合演習	20S		4. 5		4. 5			4. 6		4. 4			71.1分		4. 5	
ゼミナール	20\$		4. 8		5. 0			5. 0		5. 0		4	42.0分		5. 0	
公衆衛生学	20L		4. 0		4. 0			4. 0		3. 7		3	38. 2分		3. 9	
長崎食育学	218		4. 3		4. 4	,		4. 4		4. 4	,	2	41. 3分		4. 4	
食品学基礎実験	218		4. 4		4. 5 4. 5			4. 4		4. 2		8	38.8分		4. 3	
食品衛生学	218		4. 4					4. 0		4. 0		4	47. 5分		4. 2	
栄養学I(基礎栄養学)	218		4. 4		4. 5 4. 5			4. 3		4. 1		4	41.3分		4. 4	
										評	価			,		
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	5	6	A	4		3	()	F		W ()	兑落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
公衆衛生学	20\$	必修	23	78. 6	5	22. 7%	6	27. 3%	6	27. 3%	5	22. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
公衆衛生学	20L	選択	22	71. 2	2	9. 1%	3	13. 6%	6	27. 3%	11	50. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
長崎食育学	218	必修	23	79. 3	0	0. 0%	13	54. 2%	8	33. 3%	3	12. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
食品学基礎実験	218	選択	23	79. 7	5	20. 8%	9	37. 5%	6	25. 0%	3	12. 5%	1	4. 2%	0	0. 0%
食品衛生学	218	必修	23	72. (4	16. 7%	4	16. 7%	4	16. 7%	11	45. 8%	1	4. 2%	0	0. 0%
栄養学 I (基礎栄養学)	218	必修	23	68. 3	3	12. 5%	2	8. 3%	5	20. 8%	12	50. 0%	2	8. 3%	0	0. 0%

アクティブラーニングは未実施。オフィスアワーは時間を設けていたが質問に来る学生はいなかった。

6.次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

食品衛生学については、学生の意欲と理解度を高める工夫を行う。また、公衆衛生学については授業内容とレベル の見直しを行う。

倫子 令和 3 期 授業評価報告書 氏名 桑原 前

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

調理学…今年度が1年目の授業ということもあり、ペース配分が思うようにいかなかった。学生からの、『教科書を読むだけの部分があった』言う意見を参考に、授業の進め方を改善する必要がある。 調理学実習Ⅰ…前年度よりも教える内容を絞り、ゆっくりと授業を進めたため、一部学生には物足りないと感じら

れた部分があった

子どもの食と栄養…授業の内容や進め方は、前年度と同様に行った。しかし定期試験の問題のレベルを上げたた め、前年度よりも成績の差が顕著になった。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

調理学…授業のペース配分を見直し、学生が復習しやすいような資料を作成する。 調理学実習Ⅰ···基本的実技・技術の習得率をより高めるため、実技練習の時間を多くとらせる。 子どもの食と栄養…穴埋め式の資料などを作成し、より簡素にポイントを絞った授業を行う。定期試験の内容を見 直す

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

調理学…重要ポイントをしぼり、ペース配分に配慮しつつ授業を行った。また、配布資料とスライドを改良した。 調理学実習 I …丁寧な示範と、技術習得が遅れている学生には積極的に関わり指導を行った。 子どもの食と栄養…新型コロナウイルス感染症予防に配慮し、前期は実習や演習を行わず、配布資料やスライドを 充実させ講義のみを行った。定期試験の内容は、前年度よりも簡単なものにした。

4. 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

調理学…授業のペース配分については、前年度よりも改善していた。配布資料とスライドの改良も、学生の理解度 上昇に貢献していたので、引き続き改良を行う。

調理学実習I…丁寧な示範や基礎的な指導を満遍なく行ったので、高度な調理技術習得はできないものの、学年全 体の基礎的技術習得に繋がった。

子どもの食と栄養…前年度よりもポイントを絞って授業を行ったつもり(保育士試験出題程度の基礎的レベル)で あったが、学生からは内容が高度過ぎる等の声が上がった。また、私自身が無意識のうちについていた 溜息 に ついての指摘もあり、これは大いに反省している。

			Ė	学生に	こよる打	授業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員 教え			生の 習意欲		学生(理解)			受業外 修時間		全体的	
学外実習総合演習	20S		4. 5		4. 5	<u> </u>		4. 6		4. 4		7	71. 1分		4. 5	
ゼミナール	20S		4. 8		4. 8	}		4. 8		4. 8		3	30.0分		4. 8	
子どもの食と栄養	20Y		3. 8		3. 7	1		3. 9		3. 6		2	28. 0分		3. 6	
長崎食育学	218		4. 3		4. 4	ļ		4. 4		4. 4		4	41. 3分		4. 4	
調理学	218		4. 4		4. 4	ļ		4. 3		4. 3		2	21. 3分		4. 4	
調理学実習 I (調理実験 を含む)	218		4. 5		4. 6	j		4. 5		4. 5		3	31. 3分		4. 4	
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点		S	/	Ф	E	3)	F	=	W ()	说落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	Д	%	人	%
長崎食育学	218	必修	23	79. 3	3 0	0. 0%	13	54. 2%	8	33. 3%	3	12. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
調理学	218	必修	23	72. 2	2 3	12. 5%	5	20. 8%	5	20. 8%	10	41. 7%	1	4. 2%	0	0. 0%
調理学実習 I (調理実験 を含む)	218	必修	23	78. 8	8 4	16. 7%	9	37. 5%	7	29. 2%	4	16. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%

スライドや、手元が写るモニターを活用し授業を行った。 オフィスアワーの実施状況については、試験前に質問に訪れる学生があったので、その都度対応した。

6. 次年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

調理学…引き続き資料やスライド、必要ならば動画等も用い、ポイントを絞った理解度の高い授業を行う。 調理学実習Ⅰ…基礎的技術習得のため、遅れている学生には積極的に関わり、きめ細やかな授業を行う。 子どもの食と栄養…まずは自己管理を見直し、万全の体調で授業に臨む。授業回数の削減(30回→15回)が検討されているので、回数に応じた簡素化を行う。

克彦 3 期 授業評価報告書 氏名 古智 令和 前

- 1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)
- ① 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(栄養教育指導論Ⅰ)② 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(臨床栄養学Ⅱ)③ 献立展開を苦手とする学生を減らす(ゼロを目指す)(臨床栄養学実習)

- (学外実習 I) 実習先評価の向上。
- 一部授業内容の見直し(講師の変更等を含めて)(長崎食育学)
- 2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- 栄養指導に必要な基本的事項の修得を目指す(栄養教育指導論I)
- 各種疾患の概要とその食事療法について理解することを目指す(臨床栄養学Ⅱ)
- 日は八本の派をしている。 全種治療食の調理方法の修得とすると同時に、献立展開の技術習得を目指す(臨床栄養学実習) 学外実習の円滑な実施を目指す(学外実習Ⅰ)
- 外部講師を多く招いて実施する長崎食育学の円滑な実施(長崎食育学)
- 3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)
- 授業内容の見直し(重要部分を重点的に指導)。また栄養士実力認定試験過去問の解説導入。(栄養教育指導 論 I)
- 授業内容の見直し(重要部分を重点的に指導)。また栄養士実力認定試験過去問の解説導入。(臨床栄養学
- II) 3 学生が苦手とする献立展開については同じ内容のレポートの繰り返し添削を実施(臨床栄養学実習)
- 4 学外実習の意義や目的を繰り返し説明した(学外実習 I) 調理実習の増加や外部講師の変更など授業内容の一部見直しを実施
- 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
- 昨年度と比較すると平均点大幅に低下し、再試験受験者は増加した。学力に問題のある学生は一定数存在して おり、これらの学生指導に苦慮した。(栄養教育指導論 I)
- 昨年度と比較すると若干平均点が低下した。今後は学習に取り組まない学生への指導が課題。(臨床栄養学 II)
- 今年度もレポート提出状況が悪い学が存在した。レポートへ取り組む姿勢は個人差が存在。(臨床栄養学実
- 習) ④ 新型コロナウイルスの影響の為、学外での実習は中止し、学内での指導に変更した。
- ③ 今年度は計画通りに開講することが出来た。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で辞退する講師が多く存在した。今後、講師陣の高齢化が予想されるため、新たな講師陣を考えていかないといけない思われた。

学生による授業評価アンケートの結果 学生の 対象 内容や 教員の 学生の 授業外 全体的な 科目名 学習意然 学修時間 学生 レベル 教え方 理解度 満足度 臨床栄養学Ⅱ(食事療法 4.5 4 4 4 1 4 4 205 4 2 31 6分 の原理) 臨床栄養学実習 4. 5 4. 6 4. 6 4. 4 55.3分 4. 5 4. 5 4. 5 4. 6 4. 4 71.1分 4. 5 学外実習総合演習 20S ゼミナール 20S 4. 5 4. 5 5.0 5.0 15.0分 5.0 4. 3 4. 4 4. 4 4. 4 4. 4 長崎食育学 218 41. 3分 学養教育指道論 T 215 4 1 3 9 4 2 4 0 27 5分 4 2 評価 履修 平均 必修 В F 科目名 S Α С W (脱落) 学生 選択 者数 人 % % 人 % 人 % 人 % % 人 臨床栄養学Ⅱ(食事療法 選択 71. 5 9. 1% 27. 3% 13.6% 11 50.0% 0 0. 09 0. 09 20S 23 の原理) 臨床栄養学実習 20S 選択 76. 8 22 79 31. 89 31 8% 9.1% 0.09 0.09 長崎食育学 218 23 79. 3 0.09 54. 29 33. 3% 12.5% 0 0.09 必修 8. 3% 12.5% 5 20.8% 13 54. 2% 0. 09 栄養教育指導論 I 21S 必修 23 66. 9 4. 29

栄養教育指導論Ⅰや臨床栄養学Ⅱなどの講義科目においてはアクティブラーニングは実施できなかった。 学内で実施した学外実習Ⅰでは、集団栄養指導等で集中的にグループワークが実施できたと思われる。 オフィスアワーに関しては可能な限り随時学生の相談を実施した。2年生は学外実習、就職活動、定期試験対策、 非常勤講師担当科目に関する質問、学友自治会活動の悩み等があり、多くの学生が質問や相談に訪れた。1年生に 関しては2年生ほど研究室を訪れない状況で、学生生活や定期試験に関する相談や質問が見られた。

- 6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- ① 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(栄養教育指導論Ⅰ)
 ② 成績下位グループを底上げし、再試験受験者の減少。(臨床栄養学Ⅱ)
 ③ 献立展開を苦手とする学生を減らす(ゼロを目指す)(臨床栄養学実習)
 ④ 実習先評価の向上。学内実施の場合は内容の充実。(学外実習Ⅰ)
 ⑤ 一部授業内容の見直し(講師の変更等を含めて)(長崎食育学)

万里子 令和 期 授業評価報告書 氏名 江頭 前

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

学生による授業評価の結果は、4.0~4.7点で、特に問題はなかったと思われる。但し、マナー学のみを見れば、点 数評価をしている全項目の平均点が4.04点であり、昨年度より0.28点、教員の教え方は4.0点で0.5点減少してい た。授業法で昨年度から変更したのは、コロナ感染症対策のため、グループディスカッション等学生同士の学び合 いの時間を減らした点である。来年度は、状況に応じて学生同士の学び合の時間を増やしていきたい。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- (1) 秘書実務2では、アクティブラーニングを行うことで学生の主体性を養う。
- (2) 秘書機論では、学生の学習意欲を上げるために、声掛けを多く行う。 (3) マナー学では、授業に集中できるように配布資料の内容を改善する。
- (4) ゼミナールでは、進捗状況が把握できるように報連相の徹底を促す。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

- (1) 秘書実務2では、秘書実務の集大成として秘書の1日を演じる総合演習(グループワーク)を行った。
- (2) 秘書概論では、正科外の「秘書検定対策講座」と関連づけ、声掛けを多く行った。 (3) マナー学では、昨年度の穴埋め資料を止め、配布資料を読んで質問に答える課題に変更した。
- (4) ゼミナールでは、授業の最初と最後に進捗状況の確認の時間をとる。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

(1) 秘書実務2では、総合演習に意欲的に取り組んでいる様子が見られたが、もう少し時間が欲しかったとのコ メントがあったので、実施方法の

検討が必要である。

- (2) 秘書概論は、学生アンケートの4項目で昨年より高くなっていた。特に「教員の教え方」は4.2点から4.7点へ上がっており、声掛けの効果とち
- えられる。但し、声掛けの目的は学生の学習意欲の向上だったが、「学生の学習意欲」は4.3点で昨年と変わ らなかった。学習意欲を上げる方 法の再検討が必要である。
- (3) マナー学では、次の時間の資料を前の授業時に渡し、予習の上、簡単な問に応えるように指示していたが、 学外学習時間0の学生が昨年度
- の3人から8人増加し、11人、0評価の学生が1人から9人増加し10人という結果だった。授業資料と授業法の検 討が必要である。

				学生に	よる打	受業評	価アン	ケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		容や ベル		教員教え			生の 習意欲		学生 理解			受業外 修時間		全体的	
秘書実務2	20L		4. 6		4. 5)		4. 4		4. 3	}	7	70. 4分		4. 5	
ゼミナール	20L		4. 5		4. 5	;		4. 7		4. 5	j	Ę	55.0分		4. 5	
マナー学	218		4. 3		4. 1			4. 0		3. 9)	2	20.0分		4. 0	
秘書概論	21L		4. 7		4. 7	,		4. 3		4. 4		8	37. 5分		4. 5	
キャリアアップセミナー 1	21L		4. 2		4. 0)		4. 1		4. 1		2	22. 5分		4. 2	
プレゼミナール	21L		4. 3		4. 2	2		4. 3		4. 2	2	Ę	55.0分		4. 1	
										評	価					
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点		3	A	4		3	()	F	-	W ()	说落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
秘書実務2	20L	必修	23	79. 2	5	21. 7%	6	26. 1%	10	43. 5%	2	8. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
マナー学	218	必修	23	75. 1	2	8. 3%	8	33. 3%	3	12. 5%	10	41. 7%	1	4. 2%	0	0. 0%
秘書概論	21L	必修	24	81. 6	4	16. 7%	11	45. 8%	9	37. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87. 1	14	58. 3%	10	41. 7%	0	0.0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

秘書実務2では、基本的にロールプレイングを用いたアクティブラーニング、秘書概論、マナー学でもできる授業 時にはペアワーク、グループワーク、ロールプレイングを用いたアクティブラーニングを行った。 オフィスアワーは、指定した時間の他、在室時は随時訪問可としていたので、教員在室時には指定の時間に関係な く訪問があった。内容は、授業内容、検定試験についての質問であった。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

目標:学生の学習意欲を上げる。

改善方法:授業資料とリアクションペーパーの改良を試みる。

令和 3 年 前 期 授業評価報告書 氏名 濵口 なぎさ

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

- ・新型コロナウイルスの影響で約3週間の休校があったが、この期間に学生たちが深く考えて取り組む課題を提示し、休校後にこの課題内容を踏まえて授業を進行したことで、前年度よりも学生の理解が深くなったと感じた。
- ・ビジネス文書作成1では、タイピング練習用カードが効果的に活用されるようになり、初心者クラス、経験者クラスともモチベーションの維持にも役立ち、全員がタッチタイピングをマスターすることができた。
- ・学生による授業評価アンケートの結果から、教員の教え方や学生の理解度、全体的な満足度が全て4以上となっており、これまでの方法を踏襲しながらも、より良い授業ができるよう工夫を重ねたい。
- ・休校の影響で、演習系科目での課題数が前年度より少なくなってしまった。取り組めなかった課題については、 後期の科目で補いたい。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・学生達が能動的に授業に参加し、授業外の学修時間を確保するように課題の出し方を工夫する。
- ・提出された課題のチェックを早めに行い、学生一人一人の理解度に合わせた効果的なフィードバックを行えるよう配慮する。

3. 今年度の活動内容・方法(D0:実行)

- ・ビジネス文書作成1は経験者クラスが4名と少なく、大部分が初心者クラスとなった。前期最後の時点で同じ内容で終了できるよう、初心者クラスの学生への課題を充実させ、空き時間を活用して取り組むような指導を心がける。
- ・ビジネス文書作成3については、昨年度に引き続き日商PC検定やMOSを題材として使用し、学生が自主的に、より応用的なレベルでのドキュメント作成ができるようになることを目指した指導を行う。
- ・情報検索については、例年以上に教科書を活用し、根拠となるデータの探し方やレポートの作成について詳しく 指導する。
- ・医事コンピュータは、2年ぶりに受講者がいたことから、一昨年度の内容を見直した上で、実践で応用できるような課題を準備して臨む。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

- ・学生による授業評価アンケートの結果を見ると、全ての科目で内容やレベル、教員の教え方が4以上となっていることから、今年度のやり方で特に問題はなかったと言えるが、より良い授業を行うための努力は続けて行きたい。
- ・ビジネス文書作成1の授業評価アンケートの自由記述欄には、タッチタイピングの技能が身についたことで自信がついたと書いている学生が多く、練習カードを利用して実力がついていることが目に見えるように工夫したことが功を奏したものと思われる。
- ・医療管理学については、学生の理解度が3.4と低く、学習意欲も3.9となっている。講義科目でどうしても一方的な授業内容になってしまったため、次年度は内容を見直し、理解度を確認するための小テストなどを活用していきたい。
- ・学期末近くになり、担当する複数の演習科目で課題を出したが、チェックに手間取り、時期に合わせた効果的なフィードバックができなかった。

フィードバックがで	きなか	った。														
			!	学生に	こよる打	受業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		容や /ベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			受業外 修時間		全体的	
ビジネス文書作成3	20L		4. 5		4. 5	,		4. 5		4. 3	3	(62.6分		4. 4	
医事コンピュータ	20L		4. 7		4. 7	,		4. 7		4. 1		Ę	51. 4分		4. 6	
キャリアアップセミナー 2	20L		4. 3		4. 3	3		4. 3		4. 3	3	3	36.5分		4. 1	
ゼミナール	20L		4. 7		4. 7	,		4. 5		4. 5	j	2	20.0分		4. 3	
情報処理演習	218		4. 2		4. 1			4. 1		4. 0)	2	27. 4分		4. 1	
ビジネス文書作成1	21L		4. 6		4. 6	i		4. 6		4. 3	}	4	41.3分		4. 5	
情報検索	21L		4. 3		4. 2			4. 3		4. 1		4	43.8分		4. 3	
医療管理学	21L		4. 1		4. 2)		3. 9		3. 4		4	48.6分		3. 9	
キャリアアップセミナー 1	21L		4. 2		4. 0)		4. 1		4. 1		2	22. 5分		4. 2	
プレゼミナール	21L		4. 3		4. 2)		4. 3		4. 2)	Ę	55.0分		4. 1	
										評	価					
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	Ç	3	A	4		3	()	F		W (A	兑落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	Д	%	人	%
ビジネス文書作成3	20L	必修	23	88. 1	13	56. 5%	4	17. 4%	4	17. 4%	2	8. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
医事コンピュータ	20L	選択	7	91. 3	6	85. 7%	1	14. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
情報処理演習	218	必修	23	79. 9	6	25. 0%	5	20. 8%	9	37. 5%	4	16. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
ビジネス文書作成1	21L	必修	24	86. 1	4	16. 7%	19	79. 2%	1	4. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
情報検索	21L	必修	24	90. 3	19	79. 2%	4	16. 7%	1	4. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
医療管理学	21L	選択	21	83. 6	4	19. 0%	9	42. 9%	8	38. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87. 1	14	58. 3%	10	41. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

- ・情報検索では、今年度根拠となるデータを元にしたレポート作成を行ったのち、その概要を発表させた。要点を 要領よくまとめて発表する経験として効果的だった。 ・各科目の欠席者や検定試験受験希望者に対して、オフィスアワーや空き時間で補習を行った(随時)。

6. 次年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・ビジネス文書作成1のタッチタイピングの練習は、5月中旬に終了するように指導し、学生たちができるだけ早い 段階でビジネス文書作成に取り組めるようにし、基礎的な知識と技能の習得を目指す。 ・医療管理学については、授業内容を見直し、理解度を確認するためのまとめプリントや小テストなどを活用す
- る。 ・学生が提出した課題のチェックをできるだけ早く行い、時期に合わせた効果的なフィードバックに努める。

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

- 1)前年度の社会心理学とビジネスデータ活用1・3の授業では、学生の基礎学力や応用力、学習意欲に二極分化の傾向が見られたため、今年度は授業の構成や教材、教授法や課題、自由研究の方法を工夫し、個々の学生の学習意欲と問題解決能力の育成に努めたい。
- 2) 可能な限りアクティブラーニングの教授法を取り入れた授業を実施し、主体性や問題解決能力、人間関係力の 育成に努めたい。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- 1) 学生に質問をしたり、自由研究で発表をさせたりして、アクティブラーニングの教授法を取り入れるようにす
- る。 2)授業中の学生の発言や態度をその場で学生にフィードバックし、学習意欲や問題解決能力の育成に努めるよう にする。

特に、社会心理学の授業の最後に、毎回授業の専門用語に関連する活用事例や感想を記述させるようにする。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

- 1) 今年度の社会心理学では、授業の前半はテキストとオリジナルのプリント教材を用いてテーマに関する用語や理論を説明し、授業の後半では教材の動画を上映してテーマの理解を深める授業構成とした。また、教員の質問に対する学生の発言をボーナス点として成績評価に加点し、学生の能動的な学習意欲の促進を図った。さらに、授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたり、演習形式の授業や学生の研究発表も授業計画に取り入れたりした。
- 2) ビジネスデータ活用1・3では、授業の前半はテキストに沿ってエクセルの機能と操作方法を説明し、授業の後半では独力で練習問題に取り組む授業構成とした。また、定期試験の数週間前には、オリジナルの応用問題を出題することで、これまでの授業内容を総合的に理解し、正確さと迅速さと問題解決能力の育成に努めた。さらに、授業の最終回には自分の理解度や弱点のフィードバックを行い、学習意欲の促進を図った。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1) 学生による授業評価アンケートの結果では、講義科目の社会心理学と演習科目のビジネスデータ活用1と3を含む全科目において、①内容やレベル、②教員の教え方、③学生の学習意欲、④学生の理解度、⑤全体的な満足度は、殆どが4.0以上の高い評価であった。しかし、ビジネスデータ活用3とゼミナールは、内容やレベル、教員の教え方、全体的な満足度は3.7であり、最も低い結果であった。同様の傾向はゼミナールでも見られた。

2)授業担当教員による成績評価の結果では、ビジネスデータ活用1が平均75.0点、ビジネスデータ活用3が76.7、社会心理学が77.2点と昨年度より約10点程度低く、S・Aの上位の成績評価を示した割合は、ビジネスデータ活用1が約4割、ビジネスデータ活用3が約7割、社会心理学が約5割で、昨年度同様にビジネスデータ活用1が非常に低い学修成果であった。これは、ビジネスデータ活用1が表計算ソフトエクセルの基礎知識として計算の公式や関数の書式を暗記する数理的な知識が必要なため、毎回の授業の復習が不可欠で、授業についてこれない学生が多いためと思われる。今後は、反復練習を多く取り入れた教授法を検討していく必要があると思う。

			:	学生に	よる	授業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象学生		P容や ノベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			受業外 修時間		全体的満足	
ビジネスデータ活用3	20L		3. 9		3. 8	}		4. 2		3. 9)		73. 0分		3. 7	
社会心理学	20L		4. 4		4. 2	2		4. 4		4. 2)	į	57. 4分		4. 2	
キャリアアップセミナー 2	20L		4. 3		4. 3	3		4. 3		4. 3	3	;	36. 5分		4. 1	
ゼミナール	20L		3. 8		3. 8	}		4. 3		4. 0)	10	05.0分		3. 7	
ビジネスデータ活用1	21L		4. 3		4. 1			4. 3		4. 0)	į	58.8分		4. 1	
キャリアアップセミナー 1	21L		4. 2		4. ()		4. 1		4. 1		:	22. 5分		4. 2	
プレゼミナール	21L		4. 3		4. 2)		4. 3		4. 2)	į	55.0分		4. 1	
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	;	S	,	4		3	(0	F	=	W (月	说落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
ビジネスデータ活用3	20L	必修	23	76. 7	1	4. 3%	16	69. 6%	3	13. 0%	3	13. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
社会心理学	20L	必修	23	77. 2	6	26. 1%	5	21. 7%	5	21. 7%	7	30. 4%	0	0. 0%	0	0. 0%
ビジネスデータ活用1	21L	必修	24	75. 0	4	16. 7%	6	25. 0%	6	25. 0%	8	33. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87. 1	14	58. 3%	10	41. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

- 1)アクティブラーニングの手法は前期のほぼ全授業で取り入れている。具体的には、グループディスカッションや自由研究のプレゼンテーションなどを実施している。
- 2) オフィスアワーに訪問する学生はいないが、それ以外の時間にパソコンの授業に関する質問が週に数件あるた め、パソコンを用いて説明している。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- 1) 今後はビジネスデータ活用1とビジネスデータ活用3の表計算ソフト・エクセルの到達目標と教授法を改善・
- T) 今後はビジネスナーダ活用「ビビジネスナーダ活用3の表計算プラト・エグセルの到達自標と教授法を改善・工夫し、学修成果の到達度と学習支援の満足度の向上に努めたい。
 2) 社会心理学の授業の最後に毎回意見や感想のレポートを提出させたことは、学生と教員のフィードバックに大変有効であった。よって、次年度も継続して実施していきたい。
 3) できるだけアクティブラーニングの手法を取り入れ、学習意欲や問題解決能力の学修成果を重視した授業と評価
- 価を実施していきたい。

令和 3 年 前 期 授業評価報告書 氏名 森 弘行

- 1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)
- ·情報技術や理論などは、学生にとってあまり興味のない分野であり、論理的思考が苦手な学生に興味を持ってもらう授業構成を目指す。
- 2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- ・学生の基礎学力、応用力が低下していることもあり、情報リテラシーではこれまでより内容を減らし、授業時間 外学習を促すためにメールを活用する。
- ・プログラミングは履修者が1人のため、学生の進度に合わせて授業を行う。
- 3. 今年度の活動内容・方法(D0:実行)
- ・情報リテラシーでは、理解を深めるためにノートを取る習慣をつけさせるとともに、メールによる毎回のレポート提出を求める。
- ・プログラミングは履修者が1人であり、学生のペースに合わせて授業を進行した。
- 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
- ・情報リテラシーでは、内容量を減らしたにもかかわらず理解度2.8、満足度3.1と十分な成果が得られなかった。 ・プログラミングではシラバスの授業計画にとらわれずに進めたが、ほぼ予定していた教材を消化できた。授業外 学修時間も十分確保できていた。

			:	学生に	よる打	受業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		容や /ベル		教員教え		,	生の 習意欲		学生: 理解			養業外 修時間		全体的	
プログラミング	20L		4. 0		4. 0			4. 0		4. 0		(90.0分		4. 0	
キャリアアップセミナー 2	20L		4. 3		4. 3			4. 3		4. 3		3	36. 5分		4. 1	
ゼミナール	20L		4. 2		4. 2			4. 2		4. 2		2	24.0分		4. 2	
情報処理演習	218		4. 2		4. 1			4. 1		4. 0		2	27. 4分		4. 1	
情報リテラシー	21L		3. 3		3. 1			3. 5		2. 8		3	30.0分		3. 1	
キャリアアップセミナー 1	21L		4. 2		4. 0			4. 1		4. 1		2	22. 5分		4. 2	
プレゼミナール	21L		4. 3		4. 2			4. 3		4. 2		Ę	55.0分		4. 1	
									•	評	価			•		
科 目 名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均点	(3	A	4	E	3	()	F	=	W ()	兑落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	Д	%	人	%
プログラミング	20L	選択	1	70. 0	0	0. 0%	0	0. 0%	1	100. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
情報処理演習	218	必修	23	79. 9	6	25. 0%	5	20. 8%	9	37. 5%	4	16. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
情報リテラシー	21L	必修	24	76. 3	1	4. 2%	9	37. 5%	8	33. 3%	6	25. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
プレゼミナール	21L	必修	24	87. 1	14	58. 3%	10	41. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

- 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
- ・オフィスアワーに訪問する学生はいないが、質問やPCトラブル等については随時対応。
- 6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- ・情報リテラシー、プログラミングとも、発表等の機会を設け、基礎的な知識と技術の習得を目指す。

令和 3 年前期 授業評価報告書 氏名 荒木 正平

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

1. 今年度アンケートの結果については、特にほぼ遠隔授業で実施することとなった1年生の満足度の低下が目立つ形となった。2年生の演習系の授業への取り組みの促しについても、コロナ対策のため、グループ演習より個別演習に比重を置く形に修正した。結果として、学生個別の取り組みの成果を明確にすることができたように思う。課題と成果を検討し、今後も授業改善を行っていきたい。

2. 実習との連動は当然ながら、就職後の実践も見据えたい。学生の苦手分野や科目の分析等を進め、取り組みやすい授業構成をさらに進めることが今後の課題となる。事例などの活用の仕方なども再検討が必要となる。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上(対面授業の制限への対応も想定する)

学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。対面授業が大幅に制限される状況も想定し、今期成果が得られた個別演習の充実を図るとともに、学生の相互感染リスクを避けつつ負担が過多にならない範囲での演習方法を活用した授業方法の検討を進める(オンデマンド、学内PCネットワークシステムの活用などを検討)。

2. 実習指導体制の確認と内容の充実

①各授業における、実習や保育現場での支援を意識した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携(新型コロナ対応体制の確認も含む)、教員間の協力・情報共有体制の強化、②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

- 1. 前年度に引き続き、対面授業の制限が必要となったため、動画配信による遠隔授業を実施した。内容としては、前年度実施した形を踏襲しながら、動画の内容をさらに充実させる形で実施した(教科書・レジュメでのまとめと確認による知識定着)。テーマに関する映像資料についても、前年同様の対応をとりつつ実施したが、やはり演習やロールプレイなどは制限が必要となった。
- 2. 授業と実習の関連について、就業後の実践も意識しつつ取り組めるよう、授業内容・構成の刷新をはかっている。ただしやはり演習についてはかなりの制限を強いられている。学生毎の個別支援は徹底して行っている。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

1. 今年度アンケートの結果については、遠隔授業の要領が(教員・学生とも)つかめてきたことや、資料の充実を図ったことなどにより、1年生の満足度が改善されているようである。2年生の演習系の授業への取り組みについては、コロナ対策をとりつつグループ演習の比重を昨年度より多めに実施した。だが結果として、学生グループ活動のやりづらさは残っており、今後さらに課題と成果を検討し授業を持っていきたい。ゼミナール活動の時間が半減したこともあり、指導が個々の学生との関わりになりがちであり、満足度も低下している。グループ活動としてのゼミの意義を学生が実感できるようなゼミ運営を心掛けたい。

2. 実習との連動は当然ながら、就職後の実践も見据えて今後も実施していく。授業研究を進め、さらに学生が理 解しやすく、実習に取り組みやすい授業を組み立てていくことが今後の課題となる。

			:	学生に	よる	受業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		容や ベル		教員教え			生の 習意欲		学生: 理解			業外 修時間		全体的	
相談援助	20Y		4. 2		4. 3	}		4. 2		4. 2		4	11. 4分		4. 3	
保育実習指導Ⅰ	20Y		4. 3		4. 3	}		4. 3		4. 3		4	10.0分		4. 3	
保育実習指導Ⅱ	20Y		4. 3		4. 3	3		4. 3		4. 3		4	11.2分		4. 3	
ゼミナール	20Y		4. 0		4. 0)		4. 0		4. 0		7	70.0分		3. 8	
社会的養護 I	21 Y		4. 5		4. 5	,		4. 3		4. 3		5	50.0分		4. 5	
保育実習指導Ⅰ	21Y		4. 5		4. 5	j		4. 5		4. 5		4	19. 4分		4. 5	
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	0,	3	1	Ą	Е	3	C		F	=	W ()	悦落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
相談援助	20Y	選択	92	84. 4	34	37. 0%	33	35. 9%	24	26. 1%	1	1. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%
社会的養護 I	21Y	選択	97	79. 4	27	27. 6%	23	23. 5%	24	24. 5%	24	24. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%

〈アクティブラーニングについて〉

、リッティングニングにないて/ 今年度も、コロナ対策のための対面授業が大幅に制限された。ただし、グループ演習については、十分な対策を取 りながら(当然、個人演習も盛り込みながら)、昨年度より多く実施することができた。オンデマンドと組み合わ せた授業についても引き続き実施し、結果として、制限された状況において、学生の意欲的な取り組みと充実した 学習成果を得ることができたと考える。1年生がこれまで実施してきたインタビュー形式の学習については、昨年 度に続き実施をやむを得ず中止としたが、オンデマンド資料の充実を試みるなどの結果、満足度がやや改善されて きている。

〈オフィスアワーについて〉

効果的に活用できた。オフィスアワーをきっかけに学生が訪室しやすくなることで、よりスムーズな学生支援の実 施につなげられた。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

1. 担当する授業の内容の充実と、学習成果の向上(対面授業の制限への対応も想定する) 学習習慣の定着を図り、基礎的知識の定着を目指す。対面授業が大幅に制限される状況も想定し、今期成果が 得られた個別演習の充実を図るとともに、学生の感染リスクを避けつつ、また過剰な負担にならない範囲での演習 方法を活用した授業方法の検討を引き続き進める(オンデマンド、学内PCネットワークシステムの活用などを検 討)。

2. 実習指導体制の確認と内容の充実

①実習指導授業の見直しと充実を中心にしながら、その他の授業においても、実習や保育現場での支援を意識 した授業のあり方の工夫と、実習施設との密な連携(新型コロナ対応体制の確認も含む)、教員間の協力・情報共 有体制の強化、を行う。

②学生ごとに異なる能力・意欲に対応できるよう、徹底した個別支援・指導の実施を継続する。

令和 3 年 前 期 授業評価報告書 │ 氏名 │ 織田 芳人

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

①保育方法論

実際に園で行われているICT活用の画像をできるだけ取り入れた。

②卒業研究

各グループが夏期休暇に入る前にアンケート調査を実施したので、後期は早々にアンケート調査結果をまとめてい く。

③生活とアート

クイズ形式で質問して次週に解答する方法や、中学校の美術で取り上げられている作品を多く紹介したことに、親しみをもってもらえたようである。受講生のアドレスへメールで動画URLを送信した。ただし受信できないと知らせてくる特定の受講生がいたので、確実な連絡方法が必要である。動画撮影時は通常よりも大きめの声で話す必要がある。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

①保育方法論

新型コロナ感染症の状況によるが、可能ならパソコンの簡単な活用を実際に体験してもらう計画である。

②子どもと玩具

受講生が10名以上の場合は講義と演習を組み合わせて実施したい。受講生が少数の場合は個別に希望の玩具製作を 実践させたい。

③ゼミナール

保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。

④生活とアート

受エルニテード 新型コロナ感染症の状況によっては遠隔授業も含めながら、中学校美術でよく紹介される作品を中心に、その歴史 的背景や作者の肖像画・肖像写真や生涯等を解説に含めて、関心をもたせたい。各回終わりに記述させるミニット ペーパーに、質問が記述された場合は次回に対応する等、学修意欲を高める工夫をしたい。

3. 今年度の活動内容・方法(D0:実行)

①保育方法論

新型コロナ感染症対策の一環として、昨年度と同様、オンデマンド授業になったので、パソコンの活用ができなかった。課題の一部に受講生の意見記述を設けて、その集計結果を円グラフで示す等のフィードバックを試みた。 ②子どもと玩具

受講生が1名だったので、本人の希望に沿った玩具製作を実践させた。

③ゼミナール

保育に関わる研究報告の班は、実習先の幼稚園と保育所の教職員あてアンケート調査用紙を配布した。保育実践の 班は附属幼稚園の預かり保育を利用してペープサートの実践を行った。

④生活とアート

のエルシャー 中学校美術でよく紹介される作品を中心に、その作者の肖像画・肖像写真ともに生活等を解説に含めた。ミニットペーパーに示された質問にできるだけ対応した。残り3回になってから、実技がしたかったという学生が複数名いたので、学修意欲が高まることを期待して、急遽、1回だけ実技を入れた。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

①保育方法論

オンデマンド授業によって、知識習得という点では、筆記試験の結果から、比較的良かったように思われる。ICT活用の内容の変化がかなり速いので、内容の精査が必要のようである。 ②子どもとだが

本人の希望に沿った玩具製作を実践させたので、教育的には意義があった。

③ゼミナール

各グループが夏期休暇に入る前にアンケート調査を実施したので、後期は早々にアンケート調査結果をまとめていく。比較的余裕をもって報告集の原稿作成ができる見込みである。

④生活とアート

ミニットペーパーに示された質問に対応して、女性芸術家に絞って1回講義し、また、実技も1回実施した。結果的に受講生が積極的に取り組んだように思われる。授業評価の面からは、シラバス通りに授業を進めることが求められるので、なかなか難しい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
保育方法論	20Y	4. 2	4. 1	4. 1	4. 1	45. 5分	4. 0
子どもと玩具	20Y	4. 0	4. 0	4. 0	4. 0	180.0分	4. 0
保育実習指導I	20Y	4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	40.0分	4. 3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	41. 2分	4. 3
ゼミナール	20Y	3. 9	3. 7	4. 0	4. 0	34. 3分	3. 9
生活とアート	218	4. 2	3. 8	4. 2	3. 7	5.0分	3. 8
生活とアート	21L	3. 5	3. 5	4. 0	3. 5		3. 5
保育実習指導I	21 Y	4. 5	4. 5	4. 5	4. 5	49. 4分	4. 5

										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	9	6	A	4	E	3	()	F		W (A	悦落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
保育方法論	20Y	選択	92	75. 1	8	8. 7%	29	31. 5%	26	28. 3%	29	31. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもと玩具	20Y	選択	1	85. 0	0	0. 0%	1	100. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%
生活とアート	218	選択 必修	5	62. 8	0	0. 0%	0	0. 0%	2	33. 3%	3	50. 0%	1	16. 7%	0	0. 0%
生活とアート	21L	選択 必修	2	77. 5	0	0. 0%	1	50. 0%	1	50. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

「子どもと玩具」では受講生自身が興味関心のある保育玩具を選択し、実際に製作する活動を行った。「生活とアート」では、事前に出した課題を、グループで集約し、不足分はスマホで検索して確認する活動を試みた。オフィスアワーを設定しているが、それ以外で尋ねてくる学生がほとんどのように思われる。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

①保育方法論

平年度からICT活用を1単位、7.5回以上に増やす必要があるので、早急に内容を詰めていきたい。パソコンの簡単な活用を実際に体験してもらうことも検討したい。

②子どもと玩具

保育実習に活用できるような玩具を中心に授業を組むことを検討する。

③ゼミナール 保育に関わる研究報告だけでなく、実践報告も含める。

④生活とアート

実技を含める等、学修意欲が高まるような工夫を加える。

令和 3 年前期 授業評価報告書 氏名 島田 幸一郎

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

特別ニーズ教育

新型コロナ感染予防のために、グループ学習は実施できなかった。毎授業後のプリント記述内容や授業評価から、大半の学生が意欲的に取り組み理解も進んだことがうかがえるが、学習意欲が乏しい一部学生への対策は引き続きの課題である。

2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

特別ニーズ教育

新型コロナ感染防止に留意しつつ、講義内容や個人発表、プリント記入等を工夫し、アクティブ・ラーニングの 一層の充実に努める。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

特別ニーズ教育

毎授業、テーマを設定して関連する映像を視聴させる。テーマに沿った講義を行い、授業終了時にテーマ等に関する意見や感想を記述させ提出させる。次の授業冒頭にプリントを返却し、自主的な発表及び授業者からの学生の 意見紹介や補足説明を行う。

なお、コロナ感染防止のため今回もグループ学習は実施しない。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

特別ニーズ教育

新型コロナ感染防止のために、授業形態や授業日及び教室等の変更を余儀なくされた。そのために、学生たちにも戸惑いが見受けられ学習意欲にも影響が出て、当初の目標を十分に達成できなかた。

I						!	学生に	よる	授業評	価アン	ノケー	トの結	果						
	科	目	名	対象 学生		P容や バベル		教員 教え			生の 習意欲		学生			養外 修時間		全体的	
	特別な教育解とそのま	な教育的ニーズの理 その支援 20Y 4.1						4. ()		4. 1		4. 1		3	32. 3分		4. 0)
I													評	価					
I	科	目	名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	• •	S	A	4	Е	3	C		F	=	W (A	悦落)
l								人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブ・ラーニング

オフィスアワー

火曜日に実施したが、ほとんど利用がなかった。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

特別ニーズ教育

新型コロナ感染が収束する気配はないが、本来の授業形態を可能な限り維持し学生に動揺を与えないように努めたい。また、テーマを具体的に示し「自分で考え決定し行動できる」力を育む授業改善に努めたい。

令和 3	年_	前	期	授業評	価報告書	氏名	髙橋	秀樹
1. 前年度の成果と	課題(CHECK	:検証)					
今年度より着任した	ため、	前年度	₹の成果 (と課題なし				
2. 今年度の目標・	改善計	·画(A(CT:改善	F、PLAN:計画)			
前年度からの引き継中で難しさがあった 義と演習にて授業の	。後期	の授業	は通年					
3. 今年度の活動内	容・方	·法(DO):実行))				
専門知識や技術の習 4. 今年度の成果と 課題に関しては、前 業を行う中で難 主体的に考え、学び	課題(年がかっ	CHECK らの引 たため	: 検証) き継ぎね)、学生(※成績分 料目(通年)に の専門知識や前	布、授業評価プ	アンケートなどを る学生の専門知	を参考に 識や能力の把握	畳がしきれず授
			学	生に トス 授業	平価アンケート	の結果		
科 目 名	対象		容や	教員の	学生の	学生の	授業外	全体的な
運動遊びの実践(指導	学生 20Y		<u>ベル</u> 4.0	<u>教え方</u> 3.8	学習意欲 4.1	<u>理解度</u> 4.0	学修時間 23.1分	<u>満足度</u> 3.9
法) 保育実習指導 I	20Y		4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	40. 0分	4. 3
保育実習指導 I	20Y		4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	41. 2分	4. 3
ゼミナール	20Y		4. 4	4. 3	4. 7	4. 3	36. 7分	4. 3
体育実技	21Y	4	4. 6	4. 6	4. 7	4. 7	7. 0分	4. 7
保育実習指導 I	21Y	4	4. 5	4. 5	4. 5	4. 5	49. 4分	4. 5
科目名	対象学生	必修選択		Z均 S	A %	評 価 B (C F % A 9	W (脱落) % 人 %
運動遊びの実践(指導 法)	20Y	必修	92 8	38. 2 46 50. 0	% 39 42.4%	7 7.6% 0	0.0% 0 0.	. 0% 0 0. 0%
5. アクティブラー	ニング	゚およひ	「オフィブ	スアワーの実施	- · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	+ +	• • •	, ,
特定の課題に関し、 内で発表し、クラス や作品として発表す 況。	全体で	ディス	(カッシ)	ョンをする場る	と設けている。	また演習科目と	し、調査内容を	ロールプレイ
6. 次年度の目標・	改善計	·画(A(CT:改善	K. PLAN:計画)			

次年度も専門知識や技術の習得に関し、学生がイメージしやすいよう画像や映像また電子器具を用い、授業を行っていけるよう計画する。また学生が主体的に考え、学びを深めれる環境を整えていけるよう授業の計画をしていく。

令	·和		3	年	前	期		授業評価	西報告書		氏	;名		中澤		伸元	
1.	前年	度の	成果。	と課題	(CHECK	:検証	()										
コロ	ナの	影響	で振り	り回さ:	れ、課是	頃につい	ハての)話し合いに	時間がなかれ	なかと	これず、	検討	できな	かった	。音	楽の知	口識と
					確かです てからの				応実習まで	こおま	およそ台	今本は	できあ	がって	はい	た。誤	果題に
X) U	, C 14	、夫	省かり	っぽつ	こからり	0 6	こなっ) /= °									
-			_ :-	-1 -16		AT -1	4- 1										
2.	今年	度の	甘標	・改善	計画(A	.CI:改	善、	PLAN:計画)									
目標	、改	善計	画につ	ついて	は、練習	習に取り	り組め	っていないた	め、今からの	の学生	E次第0	の計画に	こよる	。今年	もそ	れぞれ	この課
題に	つい	て取	り組ん	んでい	く予定で	である。											
3.	今年	度の	活動区	内容・	方法(D	0:実行	亍)										
									で多くの活動								
Б	120	。 ப		J C 180	37 67 73 1	が正。	,, , ,		ン /3 ·5/至/	EV 07 -				02.15.13			_ 0 0
4.	今年	度の	成果。	と課題	(CHECK	:検証)	※成績分和	方、授業評価	īアン	ケート	などを	参考	Ξ			
実技	なの	で、	かなり	りの意	識と成り	果の差が	がある	5。一人一人	の課題を考え	え、抄	兆戦し#	さい。 [自覚の	問題で	ある	0 0	
						a	学生に	- よる授業証	価アンケー	トの糸	≐里						
	IN		<i>h</i>	対象	į P	- P容や	T \	教員の	学生の	1.021	学生	の	授	業外	1	全体的	<u></u> りな
	科	目	名	学生	<u> </u>	ベル		教え方	学習意欲		理解	度	学	多時間	<u> </u>	満足	
ゼミ	ナール			20Y		4. 4		4. 6	4. 6		4. 6	5		3. 3分		4. 6	5
音楽》	演習			20Y		4. 4		4. 4	4. 3		4. 2	-	3	8. 2分		4. 2	-
											評	価					
	科	目	名	対象 学生	必修選択	履修 者数	平均 点	S	А		В	С	;	F		W (月	脱落)
				, _		120	7111	人 %	人 %	人	%	人	%	人	%	人	%
								データカ	ー 「ありません								
5	アク	ティ	ブニ	`,	ゲおトァ	ドナコ	/ 7 T										
٥.	77	7 1	J J-	- /	7034		1 ^ /	フーの天旭	1/1/16								
前同	1と同	じく	問題。	点. #1	司課題!	こ対1.7	て白ゲ	↑の老えを登	表し合い取	り細ん	u だっ						
	1~3	٠,		/\	2 HALVAGE I		- 11 /-			2 4911	0						
6.	次年	度の	目標	· 改善	計画(A	.CT:改	善、i	PLAN:計画)									
					•												
課題	は、	常に	興味問	関心を	持って耳	友り組ま	ませる	ることで、意	識、意欲が	目的と	≤繋がっ	っていれ	ない場	合の誘	·導σ)指導で	であ
る。																	
る。									識、意欲が て行動し、!								

令和 3 年前期 授業評価報告書 □ 氏名 □ 中村 浩美

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

個室での弾き歌い・歌唱のレッスンでは学生の必要以上の緊張や抵抗があるため、教員と学生間の距離が少しでも縮められ信頼関係を築くことを念頭にレッスンしていた。学生の性格によっての指導方法も研究し、練習の仕方を少しずつマスターして、自らの練習レベルを高めていきながら、弾けるようになったと言う事・歌えるようになったと言う事の喜びと、保育者になる気持ちを高める意識に繋げる工夫ができた。学生の意見や考え・思いを随時聞くようにもした。結果学生も少しずつ心を開いて考えや思い、疑問点や改善点を話すようになってきた。全員ではないが意欲を感じられ努力するようにもなった。基礎的な音楽理論の認知度が低い学生においては、例年通り授業時間外で同意のもとレッスンをした。歌唱法においては授業外にレッスンをして欲しい学生多く、3人~5人を1グループとしてお互いの時間を都合しながら歌うための筋肉の使い方を始めとした技能法や、歌詞の大切さ・イメ・ジ、各曲のポイントなどを丁寧に指導した。個人に対しての指導は聴いてる他の学生にも大変勉強になる。なぜ改善されたか、何が足りなかったなど、みんなで聴きあう意味も理解してのレッスンであった。何度もレッスンのアポイント取りに来てとても熱心であり、とても大きな成長がみられた事は当人達は当然の事、指導者自身も大変勉強になり今後に生かして研鑚を積みたい。ただ、声量がもともとない学生が悩んでいる点に於いて2年間で達成するのは難しいが、声量のみを先行せずとも歌う事の喜びを感じられる研究に取り組みたい。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・実技である事からオンライン授業ができないため、練習室やレッスン室、音楽室、音楽あそび室など、音楽授業に関してのコロナ感染予防を第 一に授業を行う。
- ・コロナ感染予防に当たり、練習室やレッスン室、音楽授業に使用する教室の使用方法と、学生自身が感染予防の 意識を持って練習室を使用するための指導を行う。
- ・初めてのⅡ班制を把握して学生への指導をスムーズに行う。
- ・教員間の報連相を密に、学生の進度状況を理解しておく。
- ・マスク着用だからこそマスクの下に隠されている口角から表情筋を使って、笑顔で大きな口を開けてしっかり挨拶する習慣をつける指導をする。
- ・教員として学生が成長できるための能力や個性を持ち備えている事を常に意識し、指導をする。
- ・少しの成長や達成に対しても褒めながら分析・説明をする。
- ・保育者になるための高い意識を持たせること、やる気にさせるための指導方法の工夫をする。
- ・人の前にでることへの羞恥心を軽減できるための授業展開を行う。
- ・言葉や感情や場を考慮して指導する。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

- ・学生一人ひとりの個性を早く見極めて、その学生自身に見合った指導をする。
- ・やる気にさせる言葉や授業内容及び進め方の工夫をする。
- ・メンタル面強化の励みの言葉かけをする。
- ・演奏を苦痛に思わず、奏でられる事の喜びや楽しみを感じてもらう。
- ・学生自身が自らの課題点や到達点を発見でき次のステップに生かせる助言と指導を行う。
- ・自信は勇気の積み重ねであり、失敗を恐れず一歩を踏み出すメンタル面からの勇気を促す。
- ・歌唱法のレッスンに於いては、ピアノレッスン以上に感染防止の策を考え、広い教室で、間隔とキョリを空けてマスク着脱で行った。喚起やアル コール消毒、水分補給にも常に気を配りながら行う。
- ・自分の声、歌唱法のコンプレックスを解消するためのレッスンを行う。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

どの教科においても常に学生とのコミュニケーションを大切にしてきた。教員と学生間の距離を縮めながらお互いを知り、信頼関係を築く事で極度な緊張感を和らげるための関わり方をしたと思われる。しかしマスク着用のため学生の顔と名前が一致せぬまま進行するときもあった。名前で呼ばれる方が学生も親しみを持つためマスク着用でも名前を覚えること。マスク着用のため声楽(歌唱法)の授業を行うのは大変難しく、後期も同様であるためマスク着用でも表情が明るく声も明るくなる指導を強化したい。また、いイメージ力が乏しくなっている昨今の学生に、歌詞読みを徹底させてイメージ力の大切さと、その思いを持って歌唱する指導を、学生よりの発表を主体的にしながら指導する。2年生は特に実習を終えて就職活動を行い、来年の今頃は現職の先生になる事を意識させて、積極的に気付いて・動いて・元気な挨拶ができ言葉遣いを考えられる事を常に指導していた事が実習に生きたと言う学生からの声を聞けた。今後も継続する。

		学生	生による授業評	価アンケートの	D結果		
科目名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
保育実習指導Ⅰ	20Y	4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	40.0分	4. 3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	41. 2分	4. 3
ゼミナール	20Y	4. 4	4. 4	4. 4	4. 4	30.0分	4. 4
音楽演習	20Y	4. 4	4. 4	4. 3	4. 2	38. 2分	4. 2
保育実習指導Ⅰ	21Y	4. 5	4. 5	4. 5	4. 5	49. 4分	4. 5

										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	9		A	7	E	3	(F	=	W (A	兑落)
					Д	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

音楽を通じて心の悩みを打ち明ける学生を始め、音楽に関係なく悩みや不安を打ち明けて来る学生も多く、それぞ れ抱えている悩みに時に教員として、時に人生の先輩として、心からの思いや考え、方法などを時間をかけながら 相談にのっている。相談に来た学生も時間をかけて何度も面談をする事で心のつかえが取れたり、悩みを解決しよ うと言う前向きな考えを持つようになってきたりと、悩みを克服したい一心がその学生の成長に繋がっていると感 じている。今後も学生の悩みや相談には時間をかけてじっくり話を聞き、学生の悩みの負担を軽減でき成長できる ための指導をしたい。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・ピアノレッスンに関しての不安感が強い学生、自分の声や声の出し方にコンプレックスがある学生へのメンタル面の強化や、学生自身が各々の課題を知り克服できるための指導を強化したい。
 ・マスク着用関係なく、みんなが笑顔でしっかりした声で挨拶ができるよう、褒める事も大切に指導していく。
 ・学生一人ひとりの性格を早く把握し、各々の個性を大切に教員と学生間の信頼関係を構築しながら指導したい。
 ・学生自身が自分の良さや課題点、好きな面、嫌いな面と、自分を知る事によっ今後の人生にどう繋がるかのディスカッションを設け、その機 教員も自身の人生経験を話しながら課題点を克服できるように、また良い点はさらに他がありませまし に伸びるよう指導したい。

令和	3	年 前	前 期	授業評価報告書	氏名	南條 恵

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

分かりやすい資料を作成し、授業がスムーズに進むような準備をおこなう。 話し方、学生への問いかけの仕方などをその都度振り返り、工夫する。

3. 今年度の活動内容・方法(D0:実行)

教科書を細分化したパワーポイントを作成し、スライドに添って授業を展開していく。 オンライン授業では、パワーポイントのスライドに添って音声を入力しYouTubeにアップしていった。毎回、課題 を提出することで出席とみなした。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

初めての授業ということで戸惑いも多く、授業内容も改善点が多いように思う。 今後は学生の「わからない」に細かく答えていけるような授業を作っていきたい。 また、学生がもっと興味を持つような授業の内容、進行を工夫していきたい。

学生による授業評価アンケートの結果

科目名	対象 学生	内容や レベル	教員の 教え方	学生の 学習意欲	学生の 理解度	授業外 学修時間	全体的な 満足度
子どもの保健演習	20Y	4. 0	3. 9	4. 0	4. 0	43.8分	4. 0
保育実習指導Ⅰ	20Y	4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	40.0分	4. 3
保育実習指導Ⅱ	20Y	4. 3	4. 3	4. 3	4. 3	41. 2分	4. 3
ゼミナール	20Y	4. 6	4. 6	4. 6	4. 6	38. 6分	4. 7
子どもと健康	21Y	4. 1	4. 0	4. 1	3. 9	58. 5分	4. 0
子ども家庭福祉	21Y	4. 2	4. 1	4. 2	4. 1	53.1分	4. 1
保育実習指導I	21Y	4. 5	4. 5	4. 5	4. 5	49. 4分	4. 5

										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	0)	3	A	4	[3	()	F		W ()	兑落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもの保健演習	20Y	選択	92	85. 8	34	37. 0%	41	44. 6%	14	15. 2%	3	3. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもと健康	21Y	必修	97	78. 2	8	8. 2%	37	37. 8%	36	36. 7%	17	17. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%
子ども家庭福祉	21Y	選択	97	80. 8	12	12. 2%	52	53. 1%	23	23. 5%	11	11. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

定期試験前には多くの学生が質問等に訪れたが、普段は、学生自身が主体的に学びに向き合う姿勢が少なく感じられる。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

学生の評価を参考にしながら、分かりやすく理解の深まるような授業準備ををおこない、学生の知識の定着に寄与 したい。

令和 3	年	前	期		授業評価	西報告書		氏名		福井	- E	召史	
1. 前年度の成果	-		:検証	()									
新規担当科目であ	る。												
2. 今年度の目標	・改善計	-面(AC	:T: ?⁄o	盖	PI AN:計画)								
2. 7 1 200 1 1	4 H H	<u> </u>	л · цх										
授業の目標である。	音楽及	びそれ	による	る教育	育についての	知識を学生が	が理解で	きるよう	、でき	るだけ	·体験	を通し	た学
習の展開を試みた						,,			, , , ,		11-20		
3. 今年度の活動	内容・方	法(DO):実	亍)									
学習内容の理解に を試みた。	あたって	は、創	造的机	な学習	習を取り入れ	るなどし、	牧師の一	方的な諱	義だけ	になら	ない	ような	工夫
4. 今年度の成果	と課題((CHECK	:検証	()	※成績分れ		アンケー	-トなど:	を参考し	Ξ.			
今年度初めて担当	した科目	でも!!	1777										
把握することがて			、 授事	業のは	内容に関する	学生の実態の	の把握が	十分でな	こかった	が、お	およ	その実	!能を
											およ	その実	態を
											およ	その実	態を
			その約	結果を	を次年度の指	導計画の作用	対に生か	すことか			およ	その実	態を
	来たこと	から、	その紀	結果を	を次年度の指	導計画の作 <u>原</u> 価アンケー	成に生か トの結果	すことか	で 課題で	*ある。) 		
科目名	来たこと対象学生	から、	その名	結果を	を次年度の指 こよる授業評 教員の 教え方	導計画の作 価アンケー 学生の 学習意欲	水に生かりの結果	すことか ^{全生の} <u>理解度</u>	で課題で クログラ アンドラ アンドラ アンドラ アンドラ アンドラ アンドラ アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・アン・ア	ある。 登業外 修時間)およ 	全体的満足別	な
	来たこと	から、 内: レ・ 4	その名 容や ベル 4.3	結果を	を次年度の指 による授業評 教員の 教え方 4.5	導計画の作用 価アンケー 学生の 学習意欲 4.6	水に生かりの結果	すことか <u>学生の</u> <u>異解度</u> 4.3	で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	を 業外 修時間 77.5分	およ	全体的 満足月 4.3	な <u>実</u>
科目名	来たこと対象学生	から、 内: レ・ 4	その名	結果を	を次年度の指 こよる授業評 教員の 教え方	導計画の作 価アンケー 学生の 学習意欲	水に生かりの結果	すことか ^{全生の} <u>理解度</u>	で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	ある。 登業外 修時間	およ	全体的満足別	な <u>実</u>
科 目 名 保育と音楽表現	来たこと 対象 学生 20Y	から、 内: レ 4	その名 容や ベル 4.3	結果を	を次年度の指 による授業評 教員の 教え方 4.5	導計画の作用 価アンケー 学生の 学習意欲 4.6	水に生かりの結果	すことか <u>学生の</u> <u>異解度</u> 4.3	援	を 業外 修時間 77.5分	およ	全体的 満足月 4.3	な 度
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽)	来たこと 対象 <u>学生</u> 20Y 21Y	から、 内: レ- 4 4	その名 容や ベル 4.3	結果を	を次年度の指 こよる授業評 教員の 教え方 4.5 4.3	導計画の作品 価アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2	水に生かりの結果	すことか <u>学生の 理解度</u> 4.3 4.1	援撃	※ 業業外 修時間 77.5分 26.3分	およ	全体的 満足月 4.3 4.2	な <u>を</u>
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法	対象 学生 20Y 21Y 21Y 21Y	から、 内: 4 4 4	その名 容心 1.3 1.3 1.9	学生に	E 次年度の指 こよる授業評 教員の 教え方 4.5 4.3 5.0	導計画の作用 価アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0	大の結果	すことか <u>学生の</u> <u>程解度</u> 4.3 4.1 5.0	援撃	業件 修時間 77.5分 26.3分 37.0分	1	全体的 満足 4.3 4.2 5.0	な <u>を</u>
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法	来たこと 対象 学生 20Y 21Y 21Y	から、 内: 4 4 4 4 必修	その# 容や べル 4.3 4.9	結果を	E 次年度の指 こよる授業評 教員の 教え方 4.5 4.3 5.0	導計画の作用 価アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0	大の結果	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5	援撃	業件 修時間 77.5分 26.3分 37.0分		全体的 満足 4.3 4.2 5.0	な (***
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I	対象 学生 20Y 21Y 21Y 21Y	から、 内: 4 4 4 4 必修	その名 容ベル 4.3 4.9 4.5 履修	苦果を学生に平均	E 次年度の指 こよる授業評 教員の 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作用 価アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5	トの結果	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5		業外 修時間 77.5分 26.3分 37.0分 19.4分		全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な (***
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I	対象 学生 20Y 21Y 21Y 21Y	から、 内: 4 4 4 4 必修	その名 容ベル 4.3 4.9 4.5 履修	苦果を学生に平均	E 次年度の指 こよる授業 評 教長方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作用 一個アンケー 学生の 学名: 6 4.6 4.2 5.0 4.5	トの結果	李生の <u>単解度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価	接 学 (C	業 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素		全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な医
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名	対象 学生 20Y 21Y 21Y 対象 21Y	から、 内: 4 4 4 必と と 必 と 必 を と と と と と と と と と と と と と	を を を で 本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学生!: 平点 79.8	E 次年度の指 E よる授業評 教員の 教え方 4.5 4.3 5.0 4.5 人 %	導計画の作品 一位アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5	トの結果	李生の <u>単解度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価	接	業 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を <u>を</u> (発剤)
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽)	対象 学生 20Y 21Y 21Y 対象 21Y	から、 内: 4 4 4 必と と 必 と 必 を と と と と と と と と と と と と と	を を を で 本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学生!: 平点 79.8	E 次年度の指 E よる授業評 教員の 教え方 4.5 4.3 5.0 4.5 人 %	導計画の作品 一位アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5	トの結果	李生の <u>単解度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価	接	業 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を <u>を</u> (発剤)
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽)	対象 学生 20Y 21Y 21Y 対象 21Y	から、 内: 4 4 4 必と と 必 と 必 を と と と と と と と と と と と と と	を を を で 本 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	学生!: 平点 79.8	E 次年度の指 E よる授業評 教員の 教え方 4.5 4.3 5.0 4.5 人 %	導計画の作品 一位アンケー 学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5	トの結果	李生の <u>単解度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価	接	業 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素 素	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を を を 発 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5. アクティブラ	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 対象生 21Y	から、 内 <u>レ</u> 4 4 4 必選択 必修 がおよび	その *** *** *** *** *** *** *** *	芸果 を	E次年度の指 による授業評 教員の方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5 A 人 % 45 45.9%	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を を を 発 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5. アクティブラ	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 対象生 21Y	から、 内 <u>レ</u> 4 4 4 必選択 必修 がおよび	その *** *** *** *** *** *** *** *	芸果 を	E次年度の指 による授業評 教員の方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5 A 人 % 45 45.9%	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を を を 発 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5. アクティブラ	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 対象生 21Y	から、 内 <u>レ</u> 4 4 4 必選択 必修 がおよび	その *** *** *** *** *** *** *** *	芸果 を	E次年度の指 による授業評 教員の方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5 A 人 % 45 45.9%	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を を を 発 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5. アクティブラ	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 対象生 21Y	から、 内 <u>レ</u> 4 4 4 必選択 必修 がおよび	その *** *** *** *** *** *** *** *	芸果 を	E次年度の指 による授業評 教員の方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一学生の 学習意欲 4.6 4.2 5.0 4.5 A 人 % 45 45.9%	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を を を 発 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽)	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 21Y 対学生 21Y	から、 内L 4 4 4 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	その *** *** *** *** *** *** *** *	活果 を 学生!: 平点 79.8 ター イスフラ	E次年度の指 こよる授業評 教夏方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を <u>を</u> (発剤)
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5. アクティブラ	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 21Y 対学生 21Y	から、 内L 4 4 4 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	その *** *** *** *** *** *** *** *	活果 を 学生!: 平点 79.8 ター イスフラ	E次年度の指 こよる授業評 教夏方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を <u>を</u> (発剤)
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5.アクティブラ	来たこと 対象生 20Y 21Y 21Y 21Y 対学生 21Y	から、 内L 4 4 4 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	その *** *** *** *** *** *** *** *	活果 を 学生!: 平点 79.8 ター イスフラ	E次年度の指 こよる授業評 教夏方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 一	大の結果 ・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 .7% 人	接受	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	96	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5	な を を を 発 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、
科 目 名 保育と音楽表現 子どもと表現(音楽) 子どもの歌と伴奏法 保育実習指導 I 科 目 名 子どもと表現(音楽) 5. アクティブラ	来たこと 対学 20Y 21Y 21Y 21Y 21Y カ学 21Y 	から、 内2 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4 4	その 容べ.4.3 4.9 4.5 修数 97 77 31 31 4.9 4.5 83 83 97 77 77 88 88 88 88 88 88 88 8	マー	E次年度の指 こよる授業評 教え方 4.5 4.3 5.0 4.5	導計画の作品 (価アンケー学生の数 4.6 4.2 5.0 4.5 (A	式に生か トの結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	すことか <u>学生の度</u> 4.3 4.1 5.0 4.5 評価 グループ	接換	※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※	% 0. 0%	全体的 満足月 4.3 4.2 5.0 4.5 W(勝	な (技落) % 0.0%

令和	3	年	前	期	授業評価報告書	氏名	福井	謙一郎
1 24/-	5 の仕用し	. - m e	'OLIEOK	· +◆=± \				

- 遠隔授業に関しては、学生の授業満足度が大きく下回ることはなく、比較的充実していたと考えられる。
 フィードバックの内容をより充実させる必要がある。
- 2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- 1. 学生へのフィードバックの方法について模索する。
- 2. ハイブリッド型の授業についてそのスタイルを検討する。
- 3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)
- 1. 学生に対するフィードバック方法について、動画内でのフィードバックのみならず、対面の授業においても質 問等を扱うようにした。
- 2. 講義科目に関しては、オンラインでの実施を行い、演習が必要な科目については、適宜対面での授業を行うよ う心掛けた。
- 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

授業の全体満足度も減少することなく、授業の方針や運営が効果的だったのではないかと考えられる。

			5	学生に	こよる抗	受業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員(教え)			生の 習意欲		学生(受業外 修時間		全体的	
領域「人間関係」の指導 法	20Y		4. 2		4. 3			4. 3		4. 1		(63. 3分		4. 2	
教育相談(幼児のカウン セリング理論を含む)	20Y		4. 2		4. 3	;		4. 3		4. 1		Ę	58.0分		4. 2	
保育実習指導I	20Y		4. 3		4. 3	į		4. 3		4. 3	j	1	40.0分		4. 3	;
保育実習指導Ⅱ	20Y		4. 3		4. 3	į		4. 3		4. 3	j	2	41. 2分		4. 3	;
ゼミナール	. 20,							4. 9		5. 0		Ę	52. 5分		5. 0	
子どもと人間関係	人間関係 21Y 4.3 4.				4. 4	,		4. 2		4. 1		Ę	51. 3分		4. 3	;
発達心理学	21Y		4. 4		4. 5	J		4. 3		4. 4	+	Ę	59. 7分		4. 5	,
保育実習指導I	21Y		4. 5		4. 5	J		4. 5		4. 5	i	2	49. 4分		4. 5	,
									Ţ	評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	Ę	S	A	А	[В	(0	F		W (脏	兑落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
領域「人間関係」の指導 法	20Y	必修	92	83. 2	11	12. 0%	60	65. 2%	15	16. 3%	6	6. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
教育相談(幼児のカウン セリング理論を含む)	20Y	選択	92	82. 0	12	13. 0%	59	64. 1%	15	16. 3%	6	6. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
子どもと人間関係	21Y	必修	97	74. 2	2 2	2. 0%	63	64. 3%	0	0. 0%	32	32. 7%	1	1. 0%	0	0. 0%
発達心理学	21Y	必修	97	75. 4	. 10	10. 2%	34	34. 7%	24	24. 5%	29	29. 6%	1	1. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

積極的に実施している。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

次年度は学生の理解度がより深まる授業実践を行う。

令和 3 年前期 授業評価報告書 1 氏名 1 船勢 肇

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

・幅広い教養への関心については、一見関係の無いような題材であっても、幼児教育への関わりに言及すると効果 的であった。ただ、卒業後も幅広く学ぶ態度の定着には困難を感じた。

·文章の改善はみられたが、段落をつける習慣もない学生も多くみられ、基礎的な文法が定着しているとはいいがたい。その意義づけをより丁寧におこないたい。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・引き続き、狭い視野にとらわれず、広く学ぶ意義を伝えたい。
- ・特に文章力については、実習先や就職先から指摘されているため、引き続き積極的に取り組む。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

- ・保育の仕事を通して、どのように社会的な役割が果たせるのか、理解してもらうよう講義の題材を考える。 ・文章の添削を丁寧におこない、その意義を理解できるよう工夫する。
- 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
- ・「難しい」というコメントがありながら、理解できるという評価も得られた。学生の意欲や理解度が向上しているようだが、これがもし授業の水準を下げていることに起因するのであれば、決して喜ばしいことではない。「全体的な満足度」が向上することと、教育の質が向上することとは必ずしも直結しないことに注意しつつ、あくまで指標の一つとして受け止めながら、改善に取り組みたい。

			!	学生に	よる打	受業評	価アン	ノケー	トの結	果						
科目名	対象 学生		容や ベル		教員の教えて			生の 習意欲		学生(理解)			養業外 修時間		全体的	
保育実習指導Ⅰ	20Y		4. 3		4. 3			4. 3		4. 3		2	40.0分		4. 3	
保育実習指導Ⅱ	20Y		4. 3		4. 3			4. 3		4. 3		2	41. 2分		4. 3	
ゼミナール	20Y		3. 0		3. 0			3. 3		3. 0		Ę	50.0分		3. 0	
子どもと言葉	21Y		4. 2		4. 2			4. 3		4. 2		Ę	52. 7分		4. 3	
教育原理(教育史を含 む)	21Y		4. 3		4. 4			4. 2		4. 1		Ę	50.9分		4. 3	
保育原理	21Y		4. 3		4. 2			4. 3		4. 1		Ε)	54.8分		4. 2	
保育実習指導Ⅰ	21Y		4. 5		4. 5			4. 5		4. 5		2	19. 4分		4. 5	
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	93	6	A	4	Е	3	C		F	=	W (A	悦落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
子どもと言葉	21Y	必修	97	71. 6	0	0. 0%	5	5. 1%	60	61. 2%	33	33. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%
教育原理(教育史を含 む)	21Y	必修	97	72. 4	1	1. 0%	4	4. 1%	67	68. 4%	26	26. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
保育原理	21Y	選択	97	72. 1	2	2. 0%	11	11. 2%	43	43. 9%	42	42. 9%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

- ・実習先や就職先から文章力が課題と指摘されることも多いため、レポートについて丁寧な添削を行っている。しかし、一人一人への寄り添った指導をおこなう上では時間的な制約を強く感じている。
- ・オフィスアワーはもちろんだが、学生からの質問には随時対応している。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・「難しい」というのが興味を失うことに帰結してはいけないが、難しい問題に触れもしないというわけにはいかない。短期大学にも市民教育の責任が求められていることを念頭に、学生の興味関心と深い理解を両立できるよう、引き続き改善に努める。
- ・ゼミナールについては、学生主導でおこなっているが、より学生の考えを聞く姿勢を心がける。

令和 3 年 前 期 授業評価報告書 氏名 松尾 公則

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

ヒトと生物は、生活創造学科の学生だけであるが、昨年と比較し13名と受講者が大きく減少した。そのため、標本や実物を一人ひとりにゆっくりと見せる時間が取れたことから、積極的な受講態度でもあり、講義にも十分満足してもらったと思う。栄養士の科学は受講態度が今一であり、寝たり集中できない学生が数名見られた。また、知識差や能力差が大きく、講義の展開に苦労した。毎年異なる学生集団に教材の多様な準備の必要性を感じた。卒業研究は前期からの活動により、後期にはまとめの時間をとる事ができた。同様に活動していきたい。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

ヒトと生物は、昨年度より受講者が少なかったため、受講生全員に標本や実物にゆっくりと見せることができた。 栄養士の科学は、演習の時間や多様なプリントの準備をして、多少の能力差があっても満足できるような講義につ とめたい。卒業研究は、前年通り前期に主な研究が終わるように工夫したい。

3. 今年度の活動内容・方法(D0:実行)

ヒトと生物は、標本や実物を実際に見たり触ったりする時間が増えたので、学生の意欲も高かったように思う。栄養士の科学では、昨年同様、教える内容を多少減らし、難しい分野の演習と理解につとめたが、一部の学生を集中 させることができなかった。卒業研究は、早目早目の作業を実践した

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

ヒトと生物は、全体的な満足度も高い値(コースごとに、4.7 4.5)を示しており、講義の展開や工夫にある程度の評価を得たものと思うが、昨年度よりも減少している。更に、内容の充実や工夫を図っていきたい。栄養士の科学は、全体的な満足度が4.2で昨年度よりも、0.5ポイント減少している。昨年度から必修となり全員受講となったが、学習意欲の差が顕著の中、更なる教材の工夫の必要性を感じた。内容についても簡単すぎるという意見もあれば、難しくて理解できないという意見もある。化学の基礎が分からない学生に焦点を当てながらも、学んで楽しい講義を目指したい。卒業研究は予定通りに進行している。

AVE (1 1 -	1 7 150 114 2	- / ·	1 a /4 m
学生に	よる授業計	平価アンケ-	-トの結果

科目名	対象 学生		容や ベル		教員 教え		学生の 学習意欲			学生の 理解度			業外 修時間		全体的な 満足度		
ヒトと生物	20S	4. 9			4. 9			4. 4		4. 8		6. 7分			4. 7		
ヒトと生物	20L	4. 5			4. 5			4. 5		4. 5		1	15.0分		4. 5		
ゼミナール			4. 0		4. 1		4. 7			4. 6		21. 4分			4. 7		
栄養士の科学	218		4. 2		4. 1			4. 2		4. 1		2	22. 5分		4. 2		
科目名	対象学生	必修選択	履修 者数	平均点	(S		А		評価 B		C F		:	W(脱落)		
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
ヒトと生物	20\$	選択必修	11	94. 1	10	90. 9%	1	9. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	
ヒトと生物	20L	選択 必修	2	#####	2	100. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	
栄養士の科学	218	必修	23	84. 2	13	54. 2%	3	12. 5%	1	4. 2%	7	29. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%	

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

講義と演習のためアクテイブラーニングは実施していない。オフィスアワーでは、栄養士の科学の件(講義内容に 対する質問)で来室があり説明を行なった。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

ヒトと生物は、さらに内容の精選と充実を図り、地球環境や生態系について話をしていきたい。栄養士の科学は、 栄養士を目指す学生にとって必要な化学の基礎を学ぶ時間と認識し、苦手な学生のための講義を実践していきた い。卒業研究は新たな目標を開発していきたい。

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

遠隔授業を取り入れたが、学生は対面授業とさほど変わらぬ成績であった。動画配信であるため何度も視聴できる という利点はあるが、学生によっては素早く流しただけの視聴もあった。

2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

学生が飽きることなく視聴できる、授業動画を作成する

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

授業動画での教員の話を端的に短くすること、さらに、抑揚や身振りを意識し、秋の来ない動画の作成を意識する。レジュメに関しては、1コマの授業の流れが分かるもの、また、押さえておいてほしい授業のポイントが一目でわかるものを作成する。

4.今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

遠隔授業の内容やレジュメに関しては満足度が高く、意識した点が功を奏したことがうかがえた。成績についても 予想通りと言えた。ただ、学生によっては、遠隔授業ならではの授業の仕組みについてこれないものが出てきたた め、学生指導が必要となり、特定の学生に対しての指導時間に割かれることとなった。

			É	学生に	こよる打	受業評	<u>価</u> アン	ノケー	トの結	果							
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員の教え		,	≥生の 習意欲		学生: 理解			受業外 修時間		全体的		
保育方法論	20Y		4. 2		4. 1			4. 1		4. 1			45. 5分		4. 0		
保育実習指導I	20Y		4. 3		4. 3	}		4. 3		4. 3			40.0分		4. 3		
保育実習指導Ⅱ	20Y		4. 3		4. 3		4. 3		4. 3			41. 2分		4. 3			
ゼミナール	20Y		4. 7		4. 7	,		4. 8		4. 7			46. 4分		4. 8		
子どもと環境	21Y		4. 4		4. 5	i		4. 2		4. 1			44. 4分		4. 4		
保育内容総論	21Y		4. 5		4. 5	i		4. 3	3 4. 3			Ę	51. 3分		4. 4		
遊びの文化(指導法)	21Y		4. 4		4. 6	;		4. 4		4. 4		8	39. 7分		4. 5		
保育実習指導I	21Y		4. 5		4. 5	i		4. 5		4. 5			49. 4分		4. 5		
										評	価						
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	5	S	A	А	E	В	С		F	-	W (脱落)		
					人	%	人	%	Д	%	人	%	人	%	人	%	
保育方法論	20Y	選択	92	75. 1	8	8. 7%	29	31. 5%	26	28. 3%	29	31. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%	
子どもと環境	21Y	必修	97	72. 0	6	6. 1%	15	15. 3%	22	22. 4%	55	56. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	
保育内容総論	21Y	必修	97	68. 6	3	3. 1%	14	14. 3%	16	16. 3%	64	65. 3%	1	1. 0%	0	0. 0%	
遊びの文化(指導法)	21Y	選択	97	85. 8	37	37. 8%	41	41. 8%	13	13. 3%	7	7. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	

オフィスアワーの時間以外に来室する学生がおり、時間が許す限り対応を行った。教材作成やレポート課題は、授業で学んだことに加え、参考書やインターネットを使用して学生自身で必要な知識や技能を模索しながら取り組めるようにした。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

遠隔授業を取り入れる場合、教師が対面で学生の理解度や姿を確認できない分、丁寧な説明や取り組みの進捗状況 把握にも力を入れ、学生が速やかに学びを勧められる体制を構築したい。

令和 3 年前期 授業評価報告書 │ 氏名 │ 山中 慶子

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

前年度は、授業担当初年度であったため、前任の授業内容を引き継ぎ、造形に関する内容を出来るだけ幅広く取り 上げることを念頭に授業を行った。学生のレベルや製作の進度に関して手探りであったため、授業内容を変更しな がら柔軟に進めていった。科目それぞれの、学生に合った到達目標と内容・方法が定まったことが成果である。

課題は、図工・美術に関してマイナスな感情を持つ学生が、肯定的な感情を持つようになるための授業内容、説明 の仕方、声掛けの工夫である。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

「子どもと表現(造形)」では、技法あそびを通して、学生の造形技術のスキルアップを目標とする。作品掲示・ 鑑賞にも力を入れていきたい。

「子どもの絵と製作(指導法)」では、幼児の造形計画や、幼児に指導する際のスキルについて実践を取り入れながら授業を行うことで、学生が保育技術を身につけることが目標である。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

「子どもと表現(造形)」では、個々の製作を主とし、各授業での学習内容をスケッチブックにまとめていくスタイルを考えている。

「子どもの絵と製作(指導法)」では、グループワークや模擬保育を主とし、協調性や集団での役割分担についても学ぶことができるような内容を考えている。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生の作品製作への取り組みや、発表の内容などから、主体的に取り組んでいる様子が伺えた。コメントも「分かりやすかった」との声が多かった。

席の配置の関係から、仲の良いメンバーが集まると製作中の会話が増えるため、「楽しく製作」と「雑談」の線引きをしていきたい。

				学生に	こよる打	受業評	価アン	ノケー	トの結	果							
科目名	対象 学生		容や ベル		教員教え			生の 習意欲		学生の 理解度			業外 修時間		全体的な 満足度		
子どもの絵と製作(指導 法)	20Y		4. 4		4. 4			4. 3		4. 4			35.1分		4. 4		
保育実習指導Ⅰ	20Y		4. 3		4. 3			4. 3		4. 3		4	10.0分	4. 3			
保育実習指導Ⅱ	20Y		4. 3		4. 3			4. 3			4. 3				4. 3		
ゼミナール	20Y		4. 3		4. 3	8		4. 0		4. 0		22. 5分			4. 3		
子どもと表現(造形)	21Y		4. 6		4. 7			4. 5	4. 6			- 63	38. 4分		4. 7		
遊びの文化(指導法)	21Y		4. 4			4. 6				4. 4			39. 7分		4. 5		
保育実習指導Ⅰ	21Y		4. 5		4. 5	j	4. 5			4. 5		4	19. 4分		4. 5		
										評	価						
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S		,	4	E	3			F	=	W (A	悦落)	
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	
子どもの絵と製作(指導 法)	20Y	必修	92	79. 2	6	6. 5%	45	48. 9%	39	42. 4%	2	2. 2%	0	0. 0%	0	0. 0%	
子どもと表現(造形)	21Y	必修	97	82. 5	19	19 19.4%		49. 0%	28	28. 6%	3	3. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	
遊びの文化(指導法)	21Y	選択	97	85. 8	37	37. 8%	41	41. 8%	13	13. 3%	7	7. 1%	0	0. 0%	0	0. 0%	

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

演習科目であるため、ほとんどがアクティブラーニングである。スマホでのイラスト検索も可としているため、手が進まない学生はほとんど見られない。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

「子どもの絵と製作(指導法)」は、現在1年後期~2年前期の通年科目であるが、「子どもの絵と製作(指導法)I」「子どもの絵と製作(指導法)Ⅱ」として開講することを考えている。

令和 3 年 前 期 授業評価報告書 氏名 池田 光壱

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

授業評価アンケートおよび定期試験の結果から、学生の理解度ならびに授業環境は概ね良好であると思われた。また、学修のポイントが押さえられていて確実に知識が定着したと推察された。しかしながら、一部学生の知識の定着が不十分であり、加えて授業外の学修時間が少ないので、充実した学修活動を促したい。以上のことから、良い点は現状を維持しつつ、知識の定着が不十分である学生を早い段階で認知し、学修のフォローを充実させていくことが今年度の課題である。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)

授業方法についてシラバスに「毎回予習と復習を兼ねた課題プリントを配布する。」と記載しており、受講学生全 ての理解度を授業進行にあわせて常に確認するために、今年度は予習と復習を兼ねた課題を課し、その結果を フィードバックすることで、学生一人一人の理解度を確認しながら確実な知識の定着を図る。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

「2. 今年度の目標・改善計画」に基づいて課題プリントの作成を考えていたが、他の科目の課題との兼ね合いについて学生に聞き取りを行ったところ、課題を課すことによって負担が大きくなる恐れがあったので、課題プリントによる学習は実施せず、知識の定着を重視して前回授業の復習の時間を増やした授業構成にした。また、特に知識の定着が不十分と思われる学生に対しては、授業時間内に教員から声をかけて質疑応答というかたちで対応した。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果について前年度と比較したところ、「内容やレベル」4.1 \rightarrow 4.3、「教員の教え方」4.1 \rightarrow 4.4、「学生の学習意欲」4.0 \rightarrow 4.2、「学生の理解度」4.0 \rightarrow 4.2、「全体的な満足度」4.3 \rightarrow 4.4となっており、これらに関しては改善が確認された。一方、「授業外学習時間」36.8 \rightarrow 23.8 \rightarrow 25.0分となっており改善が必要である。

	学生による授業評価アンケートの結果																		
	科	目	名	対象 学生		容や /ベル		教員の 学生の 教え方 学習意欲				学生 理解			業外 修時間		全体的な 満足度		
食品 学)	l学 I	(食品	成分の科	218		4. 3		4. 4	1	4. 2 4. 2				2	23.8分		4. 4		
		l I	名			履修 者数		評価											
	科			対象 学生	必修 選択		平均点		S	A	4		3	(2	F	=	W (A	说落)
								人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
食品 学)	l学 I	(食品	成分の科	218	必修	23	81. 8	9	37. 5%	6	25. 0%	4	16. 7%	5	20. 8%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニング(以下ALと略記)は「具体的・直接的コミュニケーション」であると捉えており、手法にこだわるのではなく、学生と教員間で具体的・直接的コミュニケーションがなされているのであれば全てそれはALであると考えている。担当授業では、常に双方向型(学生⇔教員)の展開を意識して授業を実施した。そのことによって、学生の理解度などを常にチェックしながら授業の進行をができた。しかしながら、前年度同様に全ての学生に目が行き届いていなかったことが次年度に向けての改善点である。オフィスアワーは実施していない。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

現在の授業方法で概ねうまくいっているが、結果的に今年度も授業時間外学習時間が23.8分と短いので、次年度は 先ず学生の学習状況を把握した上で、授業外学修に活かせるような教育支援の方法を考えていきたい。授業外学修 の時間は約60分を考えている。

令和	3	年	前	期	授業評価報告書	氏名	井上 靖久
----	---	---	---	---	---------	----	-------

1 前年度の成果と課題(CHFCK: 検証)

解剖生理学、すなはち人体の構造や機能、あるいは健康の維持や疾病の成り立ち等に対する興味や理解の助けになるように、実習を行った。その為の自分自身に当てはめる態度や環境の変化に対する順応性についての理解は前々年度よりは深まった。また、ある程度は自分自身への客観的態度は身についてきた。また、他者へ説明するいよくもみえてきた。しかし他者を納得させるにはどうするかは今後の課題である。

2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

前年度からの最も大きな課題は人体構造や機能にたいする理解を進めることに加えて、客観的な興味を、他者に説 明するに際しての、説得する力というより、説得する意欲の不足と、そのためのより確かな理解と熱意、あるいは 説明することへの喜びを伝えられないものかと思っているところである。このことが今年度の目標となる。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

実習の目的の周知に始まって、特にレポートの準備に必要なことを実習前から意識させることが重要である。また、レポートの評価帆基準を十分理解させておくことにも留意しなければならない。学生の意識や力にばらつきはあるが、出来ればグループでの共通理解を実習項目そのものだけではなく、提出するレポートの内容についても協力して作り上げるたいどを養ってもらいたい。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は昨年度と大きくは変わらなかった。授業外の学修時間が83.6時間から 112.1分に大幅に増えたのは、レポートの評価基準をある程度は伝えられたかと思うが、まだまだ不十分であると 考えている。また、理解できなかった・あまり理解できなかったを合計すると10%程度いるので、解剖生理学の講 義も含めて次年度の課題である。授業の満足度は全体平均よりはわずかに上回っているものの、難解な科目とはい え、さらに努力したい。最後にA評価の割合が大幅に下がり、B評価が増えているのは学生の成績低下を指している のではなくて、到達目標を高めた為で、学生の成績がっ下がったことを意味しないことを付け加えておく。

学生による授業評価アンケートの結果																	
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員(教え)		学生の 学習意欲			学生(理解)			業外 修時間		全体的な 満足度		
解剖生理学実習	208		4. 4		4. 4	ļ		4. 4		4. 1		112.1分		4. 4			
										評	価						
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	Ç	S		А		В)	F	-	W(脱氢		
					人	%	人	%	人	%	Д	%	Д	%	人	%	
解剖生理学実習	208	選択	23	76. 5	3	13. 6%	5	22. 7%	9	40. 9%	5	22. 7%	0	0. 0%	0	0. 0%	

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

実習に際して、グループとしてレポートの準備に必要なことを実習前から意識させることやレポートの評価基準を十分理解させておくことにも留意した。グループでの共通理解を実習項目そのものだけではなく、提出するレポートの内容についても協力して作り上げるために、より多くのやり取りを実習前・後、レポート提出まえ・後にも行った。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

年毎に、学生の取り組みの格差が大きくなっていっており、これを如何に乗り越えるかが困難であり、また同時に 価値の高い課題でもある。学ぶことの喜びとその価値の高さを少しでも伝えてゆきたい。

令	·和		3	年	前	期		授業評価	西報告書		氏	;名		鵜川	佐	由身	€
1.	前年	F度 <i>0</i>	成果と	課題((CHECK	:検証	(<u> </u>						
			に に に に に				身の演	奏レベル到	達までかか	る時間	を日に	頁の練	習・記	式験でℓ)結果	から言	計画を
Λ (. ත c	- 6 13	`誄瓼[〜	めかつ	((()	Ξ.											
2.	今年	E度σ)目標·	改善計	·画(A	.CT:改	善、F	PLAN:計画)									
								ようになる)弾き歌いを									
∠)1 3	1月ガ	であり	必安な	生活の	,ш. я	刃児の) 120,	/押さ歌いを	首付9つ								
3.	今年	E度σ	活動内	容・方	法(D	0:実1	行)										
- س	, <u>, ;=</u>	b≠=++	道/四	h Φ 1	(N II 1 -	- <u> </u>	ァ エ・	に佳 _ 世	生生 ナ 、	ı <i>=</i> =	: 法 +ビュ	首 マ	. ビナ ^	カ頭をしょり	ل≢ ≁	.佃	- 🛆 =
			『導⋯個 ∃し奏法		ハルド	- 百つ -	エテユ	_ード集・曲	未守を選別	し、葵	☑扣	_学 、	C + 0	ク 歌 と 旨	⊢∕安を	同へ	一百つ
歌唱	指導	لے …ٍ إ	う体を	使って	歌うた	か、伴	奏とう	たのバラン	スを指導す	る							
4.	今年	E度O	成果と	課題((CHECK	:検証	-)	※成績分を	方、授業評価	アング	ケート	などる	を参考	·1=			
4.	今年	E度σ)成果と	課題((CHECK	:検証	()	※成績分布	市、授業評価	アンク	ケート	などる	を参考	·IC			
4.	今年	E度0)成果と	課題((CHECK	:検証	<u> </u>	※成績分名	节、授業評 価	5アング	ケート	などる	生参考	·IC			
					•											1	⊢ 7
アン	ケー	<u>-</u> ト糸	黒より	、特に	:問題に	まない。	と思わ	つれる。例年	より学生の	学習意	*************************************	上がっ	ている	るのは良			
アンたた	·ケー :、授	- ト 糸 受業タ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、特に間が昨	: :問題に :年の1	まない。 20~13	と思れ 80時間		より学生の:	学習意かる。	*************************************	上がっ	ている	るのは良			
アンたた	·ケー :、授	- ト 糸 受業タ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、特に間が昨	: :問題に :年の1	まない。 20~13	と思れ 80時間	oれる。例年 引から減って	より学生の:	学習意かる。	*************************************	上がっ	ている	るのは良			
アンたた	·ケー :、授	- ト 糸 受業タ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、特に間が昨	: :問題に :年の1	まない。 20~13	と思れ 80時間	oれる。例年 引から減って	より学生の:	学習意かる。	*************************************	上がっ	ている	るのは良			
アンたた	·ケー :、授	- ト 糸 受業タ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、特に 間が昨 応じて	問題に 年の1 もう2	まない。 20~13 少し課題	と思れ 80時間 題を与	oれる。例年 ∄から減って ≨えても良い こよる授業評	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー	学習意 かる。 い。	微が_ 課題が 課題が	上がっなが少な	ているかつか	るのはほど学生だ		かもし	しれな
アンたた	·ケー :、授	- ト 糸 受業 ケ E の レ	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	、特に間が昨応じて	:問題に (年の1): もう2	はない。 20~13 少し課品	と思れ 80時間 題を与	oれる。例年 引から減って i えても良い こよる授業評 教員の	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学生の	学習意 かる。 い。 トの結	一次では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、これを表現しています。 できる こうしん はいい はい	上がっな が少な の	ているかった	るのはほ た学生 <i>た</i> 受業外		かもし	りな
アンたたい。	· ケー だ、授 学生	- ト 糸 受業 ケ E の レ	5果より 学習時 パベルに 名	、特に 間が昨 応じて	:問題に (まない。 20~13 少し課題	と思れ 80時間 題を与	oれる。例年 ∄から減って ≨えても良い こよる授業評	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー	学習意 かる。 い。 トの結	微が_ 課題が 課題が	上がっな が少な <u>の</u> 度	ているかっ ナ	るのはほど学生だ		かもし	りなした
アンたい。	・ケー ・ケー ・ケー ・ケー ・ケー ・クー ・クー ・クー ・クー ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	- ト糸受業タート 日	ま果より 学習時 バベルに 名	、特に 間が が が 対 象 学生 20Y	問題に 年の1 もう2	はない。 20~13 かし課 か で で ベル 4.1	と思れ 80時間 題を与	かれる。例年 引から減ってい まえても良い こよる授業評 教員の 教え方 3.9	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学生の 学習意欲 4.0	学習意 かる。 い。 トの結	: (((((((((((((上がっな が少な の <u>度</u>	ているかったかった	るのは丘 七学生な 受業外 180.0分		かも l 全体 満足 4.()	り の の の の の
アンたい。	・ケー ・ケー ・ケー ・ケー ・ケー ・クー ・クー ・クー ・クー ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	- ト 糸 受業 の し 目	ま果より 学習時 バベルに 名	、特に 間がじて 対象生	問題に 年の1 もう2	まない。 20~13 少し課 り で で ル	と思れ 80時間 題を与	oれる。例年 引から減って i えても良い こよる授業評 教員の 教え方	より学生の: いるのが分: かもしれな 価アンケー 学生の 学習意欲	学習意 かる。 い。 トの結	: (欲が」 : 果 学 理 4.0 4.5	上がっな が少な の <u>度</u>)	ているかったかった	るのは E ご学生 t 受業外 修時間		かもし	り の の の の の
アンたい。	- ケー 技 ・	- トギタレト 表表 大 と伴	吉果より時 学習に 名	、特に 間が昨 応じて 対 <u>学生</u> 20Y 21Y	:問題に :年の1 :もう2	はない。 20~13 20~13 シし課題 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	と思わ30時間を与	かれる。例年 引から減ってい えても良い よえても 最 数 表 方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学生の 学習意欲 4.0 4.5	学習意い。	:欲が_ 課題が 3果 学 <u>理解</u> 4.0 4.5	上がっかな の度) ; 価	ているかった	るのはほ た学生な 受業外 180.0分 84.0分	(いる)	かも 「 全体 満足 4. (4. 4	の 度 0 4
アンたい。	・ケー ・ケー ・ケー ・ケー ・ケー ・クー ・クー ・クー ・クー ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ 大一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	- ト糸受業タート 日	ま果より 学習時 バベルに 名	、特に 間が が が 対 象 学生 20Y	問題に 年の1 もう2	はない。 20~13 かし課 か で で ベル 4.1	と思れ 80時間 題を与	かれる。例年 引から減ってい まえても良い こよる授業評 教員の 教え方 3.9	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学生の 学習意欲 4.0	学習意い。	: (欲が」 : 果 学 理 4.0 4.5	上がっかな の度) ; 価	ているかったかった	るのは丘 七学生な 受業外 180.0分	(いる)	かも 「 全体 満足 4. (4. 4	り の の の の の
アンたい。	- ケー 技 ・	- トギタレト 表表 大 と伴	吉果より時 学習に 名	、特に 間が昨 応じて 対象 学生 20Y 21Y	: 問題に : 年の1 : もう2 必修	まない。 20~13 20~13 20~13 20~13 20~20 4.1 4.5	と80時を与	かれる。例年 引から減ってい えても良い よえても 最 数 表 方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学生の 学習意欲 4.0 4.5	学習意い。	:欲が_ 課題が 3果 学 <u>理解</u> 4.0 4.5	上がっかな の度) ; 価	ているかった	るのはほ た学生な 受業外 180.0分 84.0分	(いる)	かも 「 全体 満足 4. (4. 4	の 度 0 4
アたたい。	- ケー 技 ・	- トギタレト 表表 大 と伴	吉果より時 学習に 名	、特に 間が昨 応じて 対象 学生 20Y 21Y	: 問題に : 年の1 : もう2 必修	まない。 20~13 20~13 20~13 20~13 20~20 4.1 4.5	と80時を与	のれる。例年 引から減ってい による授業評 教え方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな: 価アンケー 学生の 学習意欲 4.0 4.5	学習意 かる。 トの結	: 微が_ 課題 / : : : : : : : : : : : : :	上がっな の <u>度</u>) ; 価	ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 保子 ど	・ケート 大子	- ト総学と 日 表現	き果より時 大学ルベルに 名 奏法	、特に間応じて 対対象生 20Y 21Y 対象生	問題にもうなが、	はない。 20~13 ひし課 ひし課 を イン 4.1 4.5 修数	と思わける と思わける と思わける と思わける 学生に 対点	のれる。例年 引から減ってい による授業評 教え方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学習意欲 4.0 4.5	学習意 かる。 トの結	: 微が_ 課題 / : : : : : : : : : : : : :	上がっな の <u>度</u>) ; 価	ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 保子 ど	・ケート 大子	- ト総学と 日 表現	き果より時 大学ルベルに 名 奏法	、特に間応じて 対対象生 20Y 21Y 対象生	問題にもうなが、	はない。 20~13 ひし課 ひし課 を イン 4.1 4.5 修数	と思わける と思わける と思わける と思わける 学生に 対点	かれる。例年 行から減って 「元」でも良い 「こよる授業評 教表方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学習意欲 4.0 4.5	学習意 かる。 トの結	: 微が_ 課題 / : : : : : : : : : : : : :	上がっな の <u>度</u>) ; 価	ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アンたい。 【保】子ど	・ケート 大子	- ト総学と 日 表現	き果より時 大学ルベルに 名 奏法	、特に間応じて 対対象生 20Y 21Y 対象生	問題にもうなが、	はない。 20~13 ひし課 ひし課 を イン 4.1 4.5 修数	と思わける と思わける と思わける と思わける 学生に 対点	かれる。例年 行から減って 「元」でも良い 「こよる授業評 教表方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学習意欲 4.0 4.5	学習意かる。い。	: 微が_ 課題 / : : : : : : : : : : : : :	上がっな の <u>度</u>) ; 価	ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アンたい。 【保】子ど	・ケート 大子	- ト総学と 日 表現	き果より時 大学ルベルに 名 奏法	、特に間応じて 対対象生 20Y 21Y 対象生	問題にもうなが、	はない。 20~13 ひし課 ひし課 を イン 4.1 4.5 修数	と思わける と思わける と思わける と思わける 学生に 対点	かれる。例年 行から減って 「元」でも良い 「こよる授業評 教表方 3.9 4.4	より学生の: いるのが分: かもしれな! 価アンケー 学習意欲 4.0 4.5	学習意かる。い。	: 微が_ 課題 / : : : : : : : : : : : : :	上がっな の <u>度</u>) ; 価	ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 保子 5.	アクラ おり かん	ート業を 受業のレ を表えと伴	5果より時に 名 表法 名	、特に 間応 対 <u>学生</u> 20Y 21Y 対象生	問題にもうながし、必選が修択し、必選がある。	はない。 20~13 かし、課題 でベル 4. 1 4. 5 修数	と800度を生に	かれる。例年 行から減って 「元」でも良い 「こよる授業評 教表方 3.9 4.4	より学生の:いるのが分:かもしれな!	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 保子 5.	アクラ おり かん	ート業を 受業のレ を表えと伴	5果より時に 名 表法 名	、特に 間応 対 <u>学生</u> 20Y 21Y 対象生	問題にもうながし、必選が修択し、必選がある。	はない。 20~13 かし、課題 でベル 4. 1 4. 5 修数	と800度を生に	のれる。。例年 行かでも良い による授業評 教え方 3.9 4.4	より学生の:いるのが分:かもしれな!	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 保子 5.	アクラ おり かん	ート業を 受業のレ を表えと伴	5果より時に 名 表法 名	、特に 間応 対 <u>学生</u> 20Y 21Y 対象生	問題にもうながし、必選が修択し、必選がある。	はない。 20~13 かし、課題 でベル 4. 1 4. 5 修数	と800度を生に	のれる。。例年 行かでも良い による授業評 教え方 3.9 4.4	より学生の:いるのが分:かもしれな!	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 保子 5.	アクラ おり かん	ート業を 受業のレ を表えと伴	5果より時に 名 表法 名	、特に 間応 対 <u>学生</u> 20Y 21Y 対象生	問題にもうながし、必選が修択し、必選がある。	はない。 20~13 かし、課題 でベル 4. 1 4. 5 修数	と800度を生に	のれる。。例年 行かでも良い による授業評 教え方 3.9 4.4	より学生の:いるのが分:かもしれな!	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 (保)子 (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日)	アクラ 対 と もの 科 アク 後 、	ト業の 目 表 伴	5果より時に タウベルルに 名 表 法 る フ う ら 出 さ さ い ら ら し う し う し う し う し う ら う し う し う し う	、間応 対学生 20Y 21Y 対学生	問題のから、アレールの選がある。	はない1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~	と1000頭 学 平点 ス 業 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	のれる。。例年 行かでも 記述 日本教員方 3.9 4.4 アワーの実施	より学生の いるのはかない 価アンケー 学習意 4.0 4.5	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 (保)子 (日)	アクラ 対 と もの 科 アク 後 、	ト業の 目 表 伴	5果より時に タウベルルに 名 表 法 る フ う ら 出 さ さ い ら ら し う し う し う し う し う ら う し う し う し う	、間応 対学生 20Y 21Y 対学生	問題のから、アレールの選がある。	はない1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~	と1000頭 学 平点 ス 業 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	のれる。。例年 行かでも良い による授業評 教え方 3.9 4.4	より学生の いるのはかない 価アンケー 学習意 4.0 4.5	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 (保)子 (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日) (日)	アクラ 対 と もの 科 アク 後 、	ト業の 目 表 伴	5果より時に 名 表法 名 ブー さ	、間応 対学生 20Y 21Y 対学生	問題のから、アレールの選がある。	はない1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~	と1000頭 学 平点 ス 業 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	のれる。。例年 行かでも 記述 日本教員方 3.9 4.4 アワーの実施	より学生の いるのはかない 価アンケー 学習意 4.0 4.5	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい。 (保)子 (日)	アクラ 対 と もの 科 アク 後 、	ト業の 目 表 伴	5果より時に 名 表法 名 ブー さ	、間応 対学生 20Y 21Y 対学生	問題のから、アレールの選がある。	はない1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~1320~	と1000頭 学 平点 ス 業 の の の の の の の の の の の の の の の の の の	のれる。。例年 行かでも 記述 日本教員方 3.9 4.4 アワーの実施	より学生の いるのはかない 価アンケー 学習意 4.0 4.5	学 習 る。 ト の 結 人	欲課題 を課題 を課題 4. (を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	上がつなの度 の度 () () () () () () () () () () () () () (ているかった かった 学	るのはほ を学生な 受業外 修時間 80.0分 84.0分	*************************************	全体的 満足 4. (内な 度 0 4 脱落)
アたい 保 子 5 授 6	アード 学 科 音 の 利 アー・ 後 、 次 中	- 分子 日 - 一	結果学べ 名 表 名 方 出 標	、間応 対学 20Y 21Y 象生 ンク 辞書	問年も 問知のうなが、 を収 が表 の選 が表 の表 の表 の表 の表 の表 の表 の表 の表 の表 の	は20~ な~は で イ. 1 4. 5 修数 フ・ は さ て て て て て て て て て て て て て て て て て て	と30頭 学	のれる。。例年 行かでも 記述 日本教員方 3.9 4.4 アワーの実施	より学生の: いるのがかない 「価アンケー 学習意欲 4.0 4.5 A 人 % 「ありません 状況	学かい。	欲課 果 学理 () 4. () 4. () 3	上が の度) ; 価 人 た。	ている かっ	3 のはほか 一 で学生が 素時のの分 84.0分	**************************************	全体体 満足 4. (4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4. 4	内な度 0 4 脱落) %

令和		3	年	前	期		授業評価	報告書		氏	名		内	Ħ	誠	
1. 前年	₽度 <i>σ.</i>	成果と	課題((CHECK	:検訓	E)										
苦手意詞	散を持	またせな	い事が	るまた のまま でんしょう まんしょう いっぱい まんしん しゅうしん まんしん はいま しんしん はいま しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しんしん しん	D課題											
					a= -											
2. 今年	F度σ.)目標・	改善計	·画(A	CT : ₽	坟善、 F	PLAN:計画)									
自主的に	に練習	習できる	よう意	識付け	ナと言	葉かけ	トに工夫									
3. 今年	FŒσ	/ 活動内	灾.七	:生 (D	∩ · =	仁)										
							でなる意欲向	上を目指す								
4. 今年	E度σ)成果と	課題(CHECK	: 検訂	F)	※成績分布	5、授業評価	アン・	ケート	などを	- 参考に	:			
					常に残	念です 	-1度の中で、 -。より丁寧	なレッスンを	を心抽	トける必					と音楽	養表
			1 +1.45			学生に	よる授業評	W 11 -	トの結		T)	+巫:	₩ <i>I</i> N		△/∤↑	h+>
科	目	名	対象学生		容や		教員の 教え方	字生の 学習意欲		字生(理解)			葉外 8時間		全体的 満足	
保育と音楽	柴表現		20Y		4. 1		4. 0	4. 1		4. 1		100	0.0分		4. ()
			-1. <i>6</i> -	N W	尼佐	77 H				評	価				1	
科	目	名	対象 学生	必修選択	履修 者数	平均点	S	Α		В			F		W (脱落)
							人 %	人 %	人	%	人	%	人	%	人	%
г э 4		. <i>→</i> -	_ \ _	°4× 1. 7	r + -			ありません								
b. アク	ノナイ	ノフー	ニング	および	ハオフ	ィスア	7ワーの実施									
なし																
6. 次年	F度σ)目標・	改善計	·画(A	CT : ₽	女善、 F	PLAN:計画)									
							- ローにも力	をそそぐ								

令和 1. 前年	3	午	前	期		授業証値	西報告書		氏名		大野	陽子
133 1		· ·				及未可用			7 11		7(1)	P90 J
	2 - 7 / 30 / 1	CDINZ	(0112011	17(11117)								
							識が見られた					
学生一人 に一歩ず					る姿	勢が、より	高い表現力や	技術の向	上へと	結びつ	き、目標	票へ向けて確実
					導を	心がけてい	きたい。					
2. 今年	度の目標	・改善計	·画(A	CT:改善	售、 P	LAN:計画)						
①基礎理	論を理解	!し、読譜	きできる	るように	なる							
②バイエ	ル教則本	を終了す	る				± 333.43 ± 3					
③保育規 ④簡易伴					狕児	の弾き歌い	を習得する					
⑤表現豊	かに明る	く楽しく	歌える	るように	なる							
3. 今年	度の活動	内容・方	法(D	0:実行)							
今年度け	「心典	かに笙顔	で生き	き生きレ!	歌う	ことしによ	り重点を置き	宝珠.	指道す	ること	になっナ	- 『弾き歌
い」に伴	う「ピア	ノを弾く	」技術	も必須	だが	、「歌う」	「弾く」こと	のバラン	スをう	まくと	りながら	の限られた時間
を有効に	使つて、	より高い	を現力	りを目標	(C ·	・・個人又	はグループで	ごのレッス	ンを進	めてい	· < 。	
4. 今年	度の成果	:と課題((CHECK	:検証)		※成績分科	f、授業評価 ————————————————————————————————————	アンケー	トなどを	を参考!	Ξ	
している	深く気を	,つけて補	講をし	したりし	たが	、それでも	なかなか成果	具の出ない	学生も	いた。	今後その)学生は、後日)ような学生に 見であると実感
S (V . V)		,つけて補	講をし	したりし	たが	、それでも	なかなか成果	具の出ない	学生も	いた。	今後その	
		,つけて補	講をし	ったりし 可気ない	たが会話	、それでも や声かけ、	なかなか成果	見の出ない ドバイス、	学生も	いた。	今後その	つような学生に
		かけて補配り、普 対象	講をした	したりし 可気ない 学 1容や	たが会話	、それでも、や声かけ、よる授業評 教員の	なかなか成果 具体的なアト 価アンケート 学生の	せの出ない バイス、 - の結果 - 一 学	学生も寄り添	いた。つた指	今後その 導が必要 業外	Oような学生に 長であると実感
科	目 名	つけて補配り、普	講をした。	ンたりし 可気ない 学	たが会話	、それでもや声かけ、	なかなか成果具体的なアト	秋の出ない バイス、 への結果 学 理	学生も寄り添	いた。 った指 授 学	今後その	のような学生に そであると実感
科 保育と音楽	目 名表現	,つけて補 配り、普 対象 学生 20Y	講をした。	ンたりし 可気ない 学 1容や ンベル 4.8	たが会話	、それでも や声かけ、 よる授業評 教員の 教え方 4.6	なかなか成果 具体的なアト 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8	その出ない ドバイス、 の結果 学 理	学生も 寄り あ 取度 7	いた。 った指 授 学(今後その 導が必要 業外 <u>8時間</u> 3.3分	Oような学生に 要であると実感 全体的な 満足度 4.6
科	目 名表現	のけて補 配り、普 対学生	講をした。	アンナリし 可気ない 学	たが会話	、それでも、 や声かけ、 よる授業評 教員の 教え方	なかなか成果 具体的なアト 価アンケート 学生の 学習意欲	その出ない ドバイス、 への結果 学理 4	学生も添 を を を を を を を を そ り の の の り り り り り り り り り り り り り り り	いた。 った指 授 学(今後その 導が必要 業業外 修時間	Oような学生に 是であると実感 全体的な 満足度
科 保育と音楽 子どもの歌	・ ・ 表現 と伴奏法	対象 対象 20Y 21Y 対象	i講をし ・段の何	デ 対 学 で や ベル 4.8 4.9	たが会話	、それでも や声かけ、 よる授業評 教員の 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 価アンケート 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 の結果 学理 4 4	学寄 の <u>度</u> 7 9 価	いた。 った指 <u>授学</u> <u>学</u> (今後その 導が必 業 等 等 等 等 等 り り り り り り り り り	Oような学生に 要であると実 を 全体的な 満足度 4.6 4.9
科 保育と音楽 子どもの歌	目 名表現	かり、 普 対象 学生 20Y 21Y	i講をし ・段の何	レたりしい 可気ない 学 1容や ルベル 4.8 4.9	たが 生に し し ー	、それでも や声かけ、 よる授業評 教 <u>え方</u> 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一 学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌	・ ・ 表現 と伴奏法	対象 対象 20Y 21Y 対象	i講をし ・段の何	レたりしい 可気ない 学 1容や ルベル 4.8 4.9	た 生 <td>、それでも や声かけ、 よる授業評 教<u>表方</u> 4.6 4.9</td> <td>なかなか成果 具体的なアト 一 学生の 学習意欲 4.8 4.6</td> <td>その出ない。 の結果 学理 4 4</td> <td>学寄 の<u>度</u> 7 9 価</td> <td>いた。 った指 <u>授学</u> <u>学</u>(</td> <td>今後その 導が必 業外 8.33分 78.8分</td> <td>Oような学生に 要であると実 を 全体的な 満足度 4.6 4.9</td>	、それでも や声かけ、 よる授業評 教 <u>表方</u> 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一 学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 の結果 学理 4 4	学寄 の <u>度</u> 7 9 価	いた。 った指 <u>授学</u> <u>学</u> (今後その 導が必 業 外 8.33分 78.8分	Oような学生に 要であると実 を 全体的な 満足度 4.6 4.9
科 保育と音楽 子どもの歌 科	。 目 名 表現 と伴奏法 目 名	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科	。 目 名 表現 と伴奏法 目 名	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教 <u>表方</u> 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科	。 目 名 表現 と伴奏法 目 名	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科	。 目 名 表現 と伴奏法 目 名	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科保育と音楽子どもの歌科	目名 表現 と伴奏法 ティブラ	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科保育と音楽子どもの歌科	目名 表現 と伴奏法 ティブラ	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科	目名 表現 と伴奏法 ティブラ	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科 5. アク	目名 表現 と伴奏法 ティブラ	対象	語講を し	アンドリンド アンドラ で アンベル 4.8 4.9 	た会 生 P点 P点	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 具体的なアト 一でサート 一で学生の 学習意欲 4.8 4.6	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科 5. アク 実施して	B 名 表現 と伴奏法 ティブラ いない。	つけて、普 対象生 20Y 21Y 対象生	諸詩のの「内」「必選」がおよび、および、	ア ア ア ア イ 4.8 4.9 履者 ア イ イ イ イ ア イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ	た会 生 P点 ス ア	、それでも や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9	なかなか成果 体的なアト 価アンケート 学生意欲 4.8 4.6 A % がありません 状況	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9 W(脱落)
科 保育と音楽 子どもの歌 科 5. アク 実施して	B 名 表現 と伴奏法 ティブラ いない。	つけて、普 対象生 20Y 21Y 対象生	諸詩のの「内」「必選」がおよび、および、	ア ア ア ア イ 4.8 4.9 履者 ア イ イ イ イ ア イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ	た会 生 P点 ス ア	、それでも、 や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9 S 人 データカ ワーの実施	なかなか成果 体的なアト 価アンケート 学生意欲 4.8 4.6 A % がありません 状況	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9
科 保育と音楽 子どもの歌 科 5. アク 実施して	B 名 表現 と伴奏法 ティブラ いない。	つけて、普 対象生 20Y 21Y 対象生	諸詩のの「内」「必選」がおよび、および、	ア ア ア ア イ 4.8 4.9 履者 ア イ イ イ イ ア イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ イ	た会 生 P点 ス ア	、それでも、 や声かけ、 よる授業評 教え方 4.6 4.9 S 人 データカ ワーの実施	なかなか成果 体的なアト 価アンケート 学生意欲 4.8 4.6 A % がありません 状況	その出ない。 のお果 学理 4	学寄り を	いた。 った指 <u>授学</u> 11	今後その 導が必 業 外 <u>8</u> 8.8分	全体的な 満足度 4.6 4.9
科 保育と音楽 子どもの歌 科 5. アク 実施して	。 <u>目 名</u> 表現 と伴奏法 日 イブラ	つけて、 対学生 20Y 21Y 対学生	諸詩段の「「内」」 ・必選択 ・およて ・画(A	に で で で で で で で で で で で で で	た会 生 P点 ス	、それでも、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	なかなかなアト 「価アンケート学習意欲 4.8 4.6 4.6 4.8 4.6 4.6 4.8 4.6 4.6 4.8 4.6 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.8 4.6 4.8 4.6 4.8 4.8 4.6 4.8 4.8 4.6 4.8 4.8 4.6 4.8 4.8 4.8 4.6 4.8 4.8 4.8 4.8 4.8 4.8 4.8 4.8 4.8 4.8	ROHA (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A) (A	学寄 の <u>度</u> 7 9 <u>値 人</u>	いた。 	今後その 事が必 事 第 8 8 8 8 6 7 8 8 6 7 8 8 7 8 8 8 8 7 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8 8	全体的な 全体及度 4.6 4.9
科 保育ともの歌 科 5. アク て 4. アク	。 目 表 と 目 表 と 目 ホステート またい の 目 い の まいい 。 目標 で 田 い の またい か に 世帯 で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 田 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で 日 か で	つ	i講をの	に対 で で で で で で で で で で で で で	た会 生 P点 ス P 「 P 「 P 「 P 」 P 」 P 」 P 」 P 」 P 」 P 」	、それかけ、 よる授の方 4.6 4.9 S 人 データか ワーの実施	なかなかなアト 「価アンケート学習意数 4.8 4.6 4.6 4.8 4.6 4.6 4.8 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6	Rの出ない、	学寄 の度 7 9 価 () 声は	いた。指 	今後で - 学 - 学 - 学 - 学 - 学 - 学 - 学 - 学	全体的な 満足度 4.6 4.9

令和 (3 年	前	期		授業	(評估	田報台			氏	名		尾崎	<u> </u>	好子	
. 前年度の成	(果と課題	(CHECK	:検証)												
前年度は学生に をもよく、 意欲						ò講義	方法に	大きな	問題	点はな	く成	績分布	もほほ	铲好評	ⁱ 化で受	詩意
2. 今年度の目	目標・改善詞	十画(A	CT:改	善、F	PLAN:	計画)										
(1)どんな質 (2)受講生の						小板書	を行う	0								
3. 今年度の活	5動内容・ス	方法(D	0:実行])												
(1) 今回も遠 るさ、字の大き (2) 遠隔でも (3) 講義資料 こ。	さ、音声が 受講生とこ	が受講生	ミにスト ニケーシ	·レス ·ョン	の無いを取り	いよう リ、気	こまめ 軽に質	にチェ 問がで	ック きる	をした雰囲気	いがら 「づく	進める りを行	ことを った。	心が	けた。	
・. 今年度の成	対果と課題	(CHECK	:検証)	※成	績分布	万、授	業評価で	アング	ァート	などを	・参考1	ī.			
生による授業 受業の要望、履いたのので、 とか、となり、 をた、授業が をた、その でなり、 でなり、 でなり、 では、 では、 できる。 できる。 できる。 できる。 できる。	想で講義し き取れない 見えず、で もしかったと	こ対して い部分が すべての と答えた	「満足頂 「ありま)受講生 -2名の	負いた ミした 三に快 受講⊴	:感想が :」と : :適に * * * * * * * * * * * * * * * * * * *	が多い 気にな 楽しん いて、	中、「 る感想 で授業 何が!	こちらい を頂い 誰しいと	た。 て頂 : 感し	対面で くこと ごたの	ごはす : がで か、直	ぐに注 きなか [接話:	意を行ったこ	fえる ことが	が、遠 残念に	隔(思
			Ä	生に	よる打	受業評	価アン	ケート	の結	果						
科目名	対象 学生		容や ベル		教員(教え)			生の 習意欲		学生(理解)			業外 修時間		全体的満足	
療事務実技	20L		4. 6		4. 6			1. 8		4. 6		4	19.5分		4. 5	
科目名	対象 対象 学生		履修 者数	平均 点	, ,	6 %	,	%	E	評 3 %	価 (C %	F	. %	W(朋 人	说落)
療事務実技	20L	選択	17	90. 3	12	70. 6%	1	5. 9%	3	17. 6%	1	5. 9%	0	0. 0%	0	0.
5. アクティフ	ブラーニング	ブおよて	バオフィ	<i>、</i> スア	ワーの	の実施	状況					ı				
♪からないこと 頁いた質問は全						るよう	にした									

6. 次年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

前回同様に積極的な受講生は気軽に質問をしてきたが、今回のアンケートで難しいと感じた2名のように難しいと 感じた部分を質問に来れない受講生まで対応できていなかったと反省している。 次年度は控え目な受講生への対応を念頭に置き、全員にしっかりと理解して頂き楽しく診療報酬明細書について学 んで頂き、医療機関で働きたいと思えるような授業を展開していけるよう、受講生ひとりひとりに声をかけていき たい。

授業評価報告書 氏名 英泰 令和 前

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

本科目の授業・教育目標は、アンケートの結果および授業成績からも、おおむね到達していると思われる。小テス トなどを取り入れ、各自の習得レベルを確認しながら、授業を展開する。

ハングルの教科書の内容を各自で声を出して読ませている。一方的に教員の発音を聴くのではなく、学生自らも実際に発音し、教員のアドバイスをその都度、受けている。このような参加型学びが効果を上げていると思われる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)

- ①授業中に小テストやグループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる。 ②文化体験として、韓国の料理作りを体験する。文化祭等で韓国料理を創作・発表など参加型体験を行う。
- ③学生の参加型授業をさらに充実させ、ひとりひとりにきめ細やかな指導を行う。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

語学の授業であることから、読み、書き、話す、聞く、の基本的なリテラシーに重点を置きながらも、楽しく、親 しみやすいように、韓国音楽、映画、伝統文化などもとりいれる。また、学生が主体的に調べて発表する形式もと り入れていく。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価によるアンケートの平均では、内容やレベル3.8、教員の教え方3.9、学生の学習意欲3.9、学 生の理解度3.6、全体的な満足度3.9であった

語学においては、各人の関心度によって、科目の到達目標に対する到達度が違っている。授業の目標に向かって、 学生全員が努力できるような教育環境を整える。今後も、導入段階から、各人の理解度を確認しながら、授業を展 開していく。授業の具体的工夫としては、テキストの内容について十分に理解できるよう、教員が大きな声を出しながら学生に読み聞かせている。さらに、すぐに学生に復唱させ、正しいハングルの発音ができるまで確認してい る。また、その都度、大きな文字を板書し、ハングルの発音構造を説明している。今後もこのようにきめ細やかに 授業を行っていく。

学生による拇業評価アンケートの結果

				T	-0.01	× × n			1 07 ME							
科 目 名	対象学生		容や /ベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			發業外 修時間		全体的	
韓国語	218		3. 7		3. 9			3. 8		3. 5	i	1	15.0分		3. 9)
韓国語	21L		3. 9		3. 9			3. 9		3. 6		2	20. 5分		3. 8	3
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	,	3	A	7	Е	3	(F	=	W ()	悦落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

データがありません

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

アクティブラーニングとしては、一方的に教えるのではなく、学生の参加型の授業を展開している。具体的には、 韓国語の発声を自ら行わせ、正確にできるまで、練習をさせている。また、インターネットを使った教員とのやり 取り、課題提出を必須としている。オフィスアワーとしては、毎回の授業後に設定している。授業について、学生 から質問等があればその場で詳しく説明し、一緒に演習している。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ①すべての学生が理解できるように、基本的な事項を重点的に授業に取り入れる。
- ②初期段階から、授業中に小テストを導入する。
- ③グループ学習等を導入し、主体的な学びを取り入れる、課題発表など。
- ④文化体験として、韓国の料理作りなど、参加型を体験する。(文化祭等で韓国料理を創作・発表)

令	和	3	年	前	期		授業評価	報告書		氏	名		堺	薕		
1.	前年度	の成果と	課題((CHECK	: 検証)										
		意欲を評 思います		:いと思	思います	⁻ 。健	健康上の問題:	で、計画通	りにっ	できませ	せんで	したが	、後期は	にしっ	かりし	て
2.	今年度	の日標・	改善計	·画(A	CT : ₹⁄	盖 . F	PLAN:計画)									
	7 172	У Д М	W III		01 - 52	<u> </u>										
しっ	かり補	講を行い	、出来	るだけ	ナ学生さ	んた	こちの要望を〉	満足させ、	目標を	を達成し	たい	と思い	ます。			
3.	今年度	の活動内	容・方	法(D	0:実行	Ē)										
毎回	の実用	会話を実	施し、	より交	効果があ	る講	蕎養をしたい	と思います。								
4.	今年度	の成果と	課題(CHECK	:検証))	※成績分布	、授業評価	iアン	ケート	などを	参考	_			
今ま	でと同	じように	語学以	外の中	中国文化	公など	:も取り組ん [:]	で授業を進る	みたし	ハと思い	います。	,				
			1			生に	よる授業評		トの約		•	140			\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
	科目	名	対象 学生]容や <u>/ベル</u>		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生(理解)			業外 8時間		≧体的な 満足度	
中国記	Ē		218		1. 0		4. 0	3. 0		4. 0		3	0.0分		4. 0	
中国記	Ē		21L		3. 0		3. 0	4. 0		4. 0		6	0.0分		3. 0	
										評	価					
	科 目	名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S	Α		В	(F	١	N (脱落	客)
							人 %	人 %	人	%	人	%	人 9	%	人	%
							データが	ありません								
5.	アクテ	ィブラー	ニング	゚およて	バオフィ	スア	7ワーの実施:	大況 								
実施	なし															
6.	次年度	の目標・	改善計	·画(A	CT:改章	善、F	PLAN:計画)									
		な会話を														

下瀨 期 授業評価報告書 氏名 和枝 令和 前

- 1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)
- ・講義部分の難易度が課題
- ・配席は出席番号順としたが、後方の学生が積極的に授業に向き合えるかが課題
- ・正確に語彙を増やすことを目標に、小テストの回数を増やす
- ・コロナ禍により前年度開催できなかった、コミュニケーション体験を必ず実施し、通じる喜びを経験してもらう
- 2. 今年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)
- ・実技が中心となるので学生同士でのコミュニケーション体験を多用する
- ・講義テキストの内容もPPTで表示し、視線を上げて受講できるように工夫する ・ろう者が使う視覚的言語を、直接見ることで手話を身近に感じてもらう
- ・ろう者とのコミュニケーション体験を通して、社会人となった時に積極的に手話を使いコミュニケーションでき ることを目指す
- 3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)
- ・学生同士2~3名でコミュニケーション体験、手話での発表を毎回取り入れた
- ・コロナ禍のため、席移動はせずに遠い席同志などでペアを入れ替えながらコミュニケーション体験を行った
- ・手話のDVDを活用し、様々なろう者の手話を見てもらった ・シミュレーションで聴覚障害者への対応を学ぶ際の想定を具体的に設定し、手話の語彙数を増やす
- ・試験が手話実技の読み取りなので、学生が見やすい様に講師が移動して表現した
- 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に
- ・年度当初は消極的だった学生が、コミュニケーション体験を経験する中で、積極的に手を動かすようになった ・その反面、コロナ禍により席移動をしなかったことで後方の席の学生は、終始見え辛かったのではなかったかと 思う
- ・手話実技指導の折に、つい手話のスピードが速くなり、学生からは見辛い、理解し辛い時もあったかと、反省 ・聞こえないろう者とのコミュニケーション体験が実施できたことで、習ってきた内容の確認、復習や達成感に繋 がった

				:	学生に	よる	受業評			トの結							
目	名	対象 学生															
		21L		4. 3		4. 0)		4. 3		4. 1		3	32. 5分		4. 1	
											評	価					
目	名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均点		3	A	4		3	(F		W (A	兑落)
						人	%	Д	%	人	%	人	%	人	%	人	%
		21L	必修	24	73. 9	1	4. 2%	9	37. 5%	5	20. 8%	9	37. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%
			日 名 学生 1 21L 財象 学生	日名 学生 21L 財象 必修 選択	目名 対象 内容やレベル 21L 4.3 財象 必修 選択 履修 選択 者数	目名 対象 内容やレベル 21L 4.3 目名 対象 必修 履修 選択 者数 点	目名 対象 内容や 数長 数元 21L 4.3 4.0 対象 ウギ生 選択 者数 点 人	目名 対象 内容や レベル 教員の 教え方 21L 4.3 4.0 日名 対象 必修 履修 平均 点 分 点	目名 対象 内容や	目名 対象 内容や	目名 対象 内容や レベル 教え方 学生の 教え方 学習意欲 21L 4.3 4.0 4.3 目名 対象 必修 履修 学生 選択 者数 点 S A 点	目名 学生 レベル 教え方 学習意欲 理解 21L 4.3 4.0 4.3 4.1 財象 必修 履修 平均 S A B 大 分 人 % 人 % 人 %	目名 対象 内容や レベル 教え方 学習意欲 理解度 21L 4.3 4.0 4.3 4.1 正 名 対象 必修 履修 学生 選択 者数 点 S A B (公本) 日名 日本	目名 対象 内容や レベル 教え方 学習意欲 理解度 学記 学習意欲 理解度 学記 (本)	目名 対象 内容や レベル 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 21L 4.3 4.0 4.3 4.1 32.5分 目名 対象 必修 履修 学生 選択 者数 点 S A B C F 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人	目名 対象 内容や レベル 教え方 学習意欲 学生の 学権的 学修時間 21L 4.3 4.0 4.3 4.1 32.5分 日名 対象 必修 履修 学生 選択 者数 点 S A B C F 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 %	目名 対象 内容や レベル 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足所

- 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況
- ・小テストや定期試験前には、積極的に質問があったので、学習の重要個所を伝達した ・毎日の生活の中でも、新聞や図書館の活用を勧めるようにして、個別の質問に対応した
- 6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
- ・配席は今年同様出席番号順とし、後方の学生も積極的に授業に向き合えるように、途中で前方との入れ替えを行
- ・正確に語彙を増やすことを目標に、小テストの回数を増やす
- ・コミュニケーション体験を必ず実施し、通じる喜びを経験してもらう

令和	3	年	前	期		授業評価	西報告書		氏:	名	高柳	篤江
1. 前年度	₹の成果と	課題((CHECK	:検証	E)							
	こしてはマ											確実に力をつける力が問われる
2. 今年度	医の目標・	改善計	·画(A	CT : 라	善、	PLAN:計画)						
1. 人前での 2. マスクで				ーショ	ンが取	えりにくいた	め、話の組み	み立て	方に力	を入れ, オ	わかりやす	⁻ く伝える。
3. 今年度	Fの活動内	突・ち	法 (D	0:宝	行)							
J. 7-13	C ~ / / LI 3// / S	<u>а</u> Л	7 <u>4</u> (D	V . X	137							
毎回短時間もらうよう							をつける。[直後に	的確な	評価、ア	ドバイス	をし、納得して
4. 今年度	その成果と しゅうしゅう かんしょう かんしょう かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ かんしょ しゅうしゅう かんしょ しゅうしゅう しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゃ しゅうしゅう しゅうしゃ しゃりん しゅうしゃ しゅう	課題(CHECK	:検証	E)	※成績分布	F、授業評価	アング	ケートな	などを参え	考に	
話の組み立	て方もし	つかり	理解し	取り.	入れる	学生がほと	んどであった	た。表	情によ	る助けが	期待でき	ようになった。 なくても、わか 取り方などを体
					学生に	よる授業評	価アンケー	トの結	果			
科目	1 名	対象学生		容や /ベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生の 理解度		授業外 学修時間	全体的な 満足度
スピーチコミ ション	ュニケー	21L		4. 7		4. 5	4. 5		4. 5		16. 3分	4. 5
									評	価		
科目	1 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	S	А	Е	3	С	F	W (脱落)
						人 %	人 %	Д	%	人 %	Д	% 人 %
スピーチコミ ション	ユニケー	21L	必修	24	87. 6	8 33.3%	16 66. 7%	0	0. 0%	0 0.	0% 0	0. 0% 0 0. 0%
	ーィブラー	ニング	゚およて	バオフ	ィスア	プワーの実施	状況			,		
質問は授業 た。	——— 美終了時、	ミニレ	- -	_ _ へで受	<u>-</u>	ーーー	た。ミニレ	- 	二2件、	質問がも	あったので	テアドバイスし
6. 次年度	その目標・	改善計	·画(A	CT : 改	養、I	PLAN:計画)						
								上げる	ように	する。ま	た己を知っ	るによい時期な
2. マスク着	計用でのコ	ミュニ	ケーシ	ション	に必要	に指導する なことを身 やる気を毎	に着ける。	よう努	力する	o		

令和 3	年	前	期		授美	業評信	田報台	書		氏	名	タ、	ッド	+	ナン	/ダ-	ース
1. 前年度の成果と	課題(CHECK	:検証	()													
l improved on my o			o+do	·	mara .	+:	+im		mar		~+:	+:	+	ماممماد	Гъс	·liah	
l improved on my g	Dai Lu	give	Stude	ents i	niore p	oracti	ce tiii	ie ariu	IIIOI	e oppo	rtuni	Lies	to s	beak	Elig	,11811.	
2. 今年度の目標・	改善計	·画(Ai	CT:改	善、	PLAN:	計画)											
It's important to	give s	tuden [.]	ts and	d muc	h time	e as p	ossibl	e to	use	Englis	h.						
3. 今年度の活動内 3. 今年度の活動内	容・方	·法 (D(0: 宝	行)													
O: / 中及の//is/ir j·	. \\	Д (В	0 . X1	117													
l let then give pr	esenta	tions	and p	oract	ice ir	n pair	S.										
4. 今年度の成果と	課題(CHECK	· + <u>+</u> >=⊤	-)	X rt	法法人为	1 / 1 / 1	ᆇᇒᄺ	アン	ケート	かどる	よ糸老	-1-				
		OFFICER	・快証	-/	/N/II	(特別1)	ا ۱۷۰	業評価	, -	/ 1	·& C 2	- 9 7	I-				
		OFFICER	・快証	-/	/ . \}		אני זען אַנן	表評1四		<i>/</i> 1°		- 2 7	I-				
		OHEOR	・作品	-/	/ · / / /	(小良 ノブイ)	1 X X	表計1四		<i>y</i> 1°	-& C 2	- 2 7	I-				
l need all my ohie	ctives				ענו איר	(神) (月 7 1 1	, JX:	表 計1四	, _	, 1		- 9 7					
l need all my obje	ctives				7		× 1×2	表 計1四		, 1		- 9 7					
l need all my obje	ctives				719		<u> ۲</u> ۷۱ کا	<u> </u>		7 1			Ic .				
l need all my obje	ctives				719	(小女 力 生		<u> </u>		, 1			I				
l need all my obje	ctives	this	year.		こよる	授業評	価アン	・ケー		吉果							
I need all my obje	ctives 対象 学生	this	year.			授業評の	価アン 学				₽ D		受業外		1	全体的満足脈	
科目名	対象	s this	year.		こよる [、] 教員	授業評 の <u>方</u>	価アン 学 学	·ケー 生の		吉果 学生	の度		受業外		1		隻
科目名	対象学生	s this	year. 容や ベル		こよる; 教 <u>義</u>	授業評 の <u>方</u>	価アン 学 学	·ケー 生の <u>営意欲</u>		吉果 学生 <u>理解</u> 4.6	の度		受業外		4	満足月	隻
科目名	対象 <u>学生</u> 21L 対象	s this 内レ!	year. 容や 5.0 履修	学生に	こよる; 教 <u>教え</u> 5.(授業評 の <u>方</u>	価アン 学 学	·ケー 生の <u>智意欲</u> 1.8	トの# 	吉果 学生 <u>理解</u> 4.6	の度		受業外			満足月	芰
科 目 名オーラルイングリッシュ	対象 <u>学生</u> 21L	s this	year. 容や ベル 5.0	学生に	こよる; 教 <u>教え</u> 5.(授業評 の <u>方</u>	価アン学	·ケー 生の <u>智意欲</u> 1.8	トの# 	吉果 学生 <u>理解</u> 4.6	の度	- 1 	受業外	引 分 F		<u>満足</u> 5.0	芰
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名	対象 <u>学生</u> 21L 対象	s this 内レ 必選択	year. 容や 5.0 履修	学生(こよる 教 <u>教</u> え 5.(授業評 の <u>方</u>)	価アン学	ケー 生の <u>習意欲</u> 1.8	トの# 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の度	: 学	受業外後時 24.0分	引 F		<u>満足</u> 5. 0 W ()	<u>度</u>
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ	対象 <u>学生</u> 21L 対象 学生	this 内レリッツ 必選択 選択	year. 容ペル 5.0 履者数	学生に 平均 点 95.6	こよる。 教表え 5.(授業評 の方 つ S % i 100.0%	価アン 学学 (A)	ケー 習 <u>意</u> 欲 4.8	トのA	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (: 学	受業外後時 24.0分	引 F	%	満足原 5.0 W(服	<u></u>
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ	対象 <u>学生</u> 21L 対象 学生	this 内レリッツ 必選択 選択	year. 容ペル 5.0 履者数	学生に 平均 点 95.6	こよる。 教表え 5.(授業評 の方 つ S % i 100.0%	価アン 学学 (A)	ケー 習 <u>意</u> 欲 4.8	トのA	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (: 学	受業外後時 24.0分	引 F	%	満足原 5.0 W(服	<u></u>
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ	対象 <u>学生</u> 21L 対象 学生	this 内レリッツ 必選択 選択	year. 容ペル 5.0 履者数	学生に 平均 点 95.6	こよる。 教表え 5.(授業評 の方 つ S % i 100.0%	価アン 学学 (A)	ケー 習 <u>意</u> 欲 4.8	トのA	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (: 学	受業外後時 24.0分	引 F	%	満足原 5.0 W(服	<u></u>
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	s this 内レ 必選 形 および	year	学生に 平点 95.6	こよる 教 <u>教</u> え 5.(授業評の 方 つ S % 100.0% の実施	価アン学者 A 人 0 状況	生の 生の <u>習意欲</u> 4.8	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	s this 内レ 必選択 および fice I	year. 容やル 5.0 履権 が オフ	学生に 平点 95.60	こよる。 教教え 5.()	授業評の 方) S 100.0% の実施	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>単直の</u> <u>引意欲</u> 1.8	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	s this 内レ 必選択 および fice I	year. 容やル 5.0 履権 が オフ	学生に 平点 95.60	こよる。 教教え 5.()	授業評の 方) S 100.0% の実施	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>単直の</u> <u>引意欲</u> 1.8	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	s this 内レ 必選択 および fice I	year. 容やル 5.0 履権 が オフ	学生に 平点 95.60	こよる。 教教え 5.()	授業評の 方) S 100.0% の実施	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>経動</u> 1.8 0.0%	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were students needed to	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	が を選択 が が が が が が が が が が が が が	year. 容ペル 5.0 履者 がオフィ nours, rs to	学生に 平点 95.67 イスフ	こよる。 教教 5.() 人 5.()	授業評の方 つ S 100.0% の実施 tudent by th	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>経動</u> 1.8 0.0%	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	が を選択 が が が が が が が が が が が が が	year. 容ペル 5.0 履者 がオフィ nours, rs to	学生に 平点 95.67 イスフ	こよる。 教教 5.() 人 5.()	授業評の方 つ S 100.0% の実施 tudent by th	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>経動</u> 1.8 0.0%	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were students needed to	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	が を選択 が が が が が が が が が が が が が	year. 容ペル 5.0 履者 がオフィ nours, rs to	学生に 平点 95.67 イスフ	こよる。 教教 5.() 人 5.()	授業評の方 つ S 100.0% の実施 tudent by th	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>経動</u> 1.8 0.0%	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were students needed to	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング	が を選択 が が が が が が が が が が が が が	year. 容ペル 5.0 履者 がオフィ nours, rs to	学生に 平点 95.67 イスフ	こよる。 教教 5.() 人 5.()	授業評の方 つ S 100.0% の実施 tudent by th	価アン 学学 人 り 状況	生の <u>経動</u> 1.8 0.0%	トの糸 	吉果 学生 理解 4.6 評 B	の 度 価 (人	7 7 8 0.0°	受業外 24.0公	F 0 0	%	<u>満足</u> 5.0 W (B	支 % 0.0%
科 目 名 オーラルイングリッシュ 科 目 名 オーラルイングリッシュ 5. アクティブラー Because there were students needed to	対象 学生 21L 対象 学生 21L ニング no of find	数 を を を を を を を を を を を を を	year. 容ペル を表示した。 を表示したたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたに、 を表示したたたたたたたに、 を表示したたたたたに、 を表示したたたたたたたたに、 を表示したたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたたた	学生に 平点 95.6 イス 「 g ques * 善、 「	こよる。 教 <u>教</u> え 5.(授業評の方 つ S % 100.0% の実施 tudent by th	価アン 学 学 人 り 状況 s time emselv	ケー 生の <u>習意欲</u> 4.8 0.0%	トの糸 人 (吉果 <u>理解</u> 4.6 評 B % 0.0%	の を は し し し し し し し し し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に し に に に に に に に に に に に に に	TO % 0.00	受業外 24.0分	F 0 0 0	% . 0% Ve I	<u>満足</u> 野 5.00 W (B 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	度 % 0.0%

令和	3	年	前	期		授業証何	五報告書		氏名		寺谷	 陽子
	 E度の成果。	<u>_</u>)	以未可用			10,11		,1 .D.	1,501,1
155	1 /2 * 7 /2 / 1		(0112011	IXIII.								
	果題達成に∂ ことが課題Ⅰ				け、	身につける	こと。出来が	た喜びを	感じ、根	気強く	く取り組め	る姿勢を身に
21) & C	- C 小味趣!	- 00 /J · - 2) (())	-0								
2. 今年	F度の目標	・改善計	+画(A	CT:改善	善、「	PLAN:計画)						
/1\ → n+	ᄼᆖᄪᇎᄼᄽ	. 4- / == r		> = - I	l. -			+ + +	+ 11.7			
							旨をし課題達 挨拶や身なり				ようにさ	せる。
	-											
3. 今年	F度の活動[内容・方	i法(D	0:実行	-)							
(1) = :	- 334 (1 : 1 : 1	·		317 -1		NO 11 4 11 1 1 1	. 102-1-1-		=== :			
(1)日々 た。実お	の学生生活 まに関して!	iの課題 は個々σ	も含め) レベノ	、学生の	か状だ せ	況や気持ち <i>な</i> 少しずつで	などを把握出 も出来たと(来るよう ハう達成	に話し ⁴ ダを得ら	ρすい れる-	雰囲気作 よう取り糾	りを心掛け flんだ。
(2)常に												ことを意識さ
せた。												
4 0 6		1 -0 PT	/OUE 01/	. 44==1		*\ __*\= \ \ _	<u> </u>		1 4. 18 =	- 4 +		
4. 今年	F度の成果。	と課題	(CHECK	: 検証))	※成績分科	市、授業評価	アンケー	トなど	を参考	15	
+	h + 1+ - 224 i				- ,	· - 1 1	一儿服人		<u> </u>		. ~)
												こた。まだ、保 「一番大切なの
			けけなと	ごの声掛	けも	していきた	い。自分なり	りの練習:	方法を見	つけら	られるよう	に練習方法を
旋供し	こいきたい。											
				学	生生に	よる授業評	価アンケー	トの結果				
∓ si	Р	対象		容や	<u> </u>	教員の	学生の		生の	Ŧ	受業外	全体的な
<u>科</u>		学生		ベル		教え方	学習意欲		解度		·修時間	満足度
保育と音楽	¥表現 —————	20Y		4. 4		4. 4	3. 9		1. 1		73. 3分	4. 4
子どもの哥	かと伴奏法	21Y		4. 9		4. 9	4. 6		1. 9	1	01. 3分	4. 9
								İ	平 価			
科	目 名	対象 学生	必修 選択	履修 ³ 者数	平均 点	S	А	В		С	F	W (脱落)
		7	送八	当数	/m	人 %	人 %	人 9	, <u> </u>	%	Д.	% 人 %
							がありません					
F - '	,>-	,	* + . 1 -	e4 =								
5. P	/ ナイフラ-	ーニング	/およて	ハオフィ	スア	7ワーの実施	状 况					
個々のL	/ッスンで!	よあるヵ	š, 2.3	人のグル	レー	プになってに	いるので、課	題達成に	向けで≜	学生同	士でのコ	ミュニケー
							合いがおき、					•
0												
▶ 6. 次年		7/ 24 -		OT - 7/ -	<u>.</u>	DL AN . =!						
/ (F度の目標	・改善計	十画(A	CT:改氰	善、「	PLAN:計画)						
	F度の目標 	・改善計	十画(A	CT:改氰	善、F	PLAN:計画)						
	F度の目標 -	・改善計	十画(A	CT:改穀	善、 F	PLAN:計画)						
少しずつ	つではある	が上達し	ていく	〈姿が見	, 6 1	にた。子とも	達が常にその					ごピアノを弾く
少しずっ ことに必)ではある; が死になる(が上達し のではな	していく よく、ま	く 姿が見 長情であ	らわった	にた。子とも こり、気配り	達が常にその	余裕も持っ	てるよう	な指導		_{ごピアノを弾く} ごきたい。その

一 前年度の成果と課題 (OHEOX:検証) 「横基本技能の習得を目標としてきたが、隔過授業による軽置内容の法理化と及び技能定策の低下は否めない。 ま、学生には練習方法を十分に指導しており、今後なお、粘り強く技能習得できるような自己研鑚と努力に期待 「クキ度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画) 「前期同様、基礎理論を理解し、語面から正しく話譜する。保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 「会・学生の個性力量に相応しい適曲をする。保育現場で必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 「今年度の成果と課題 (OHEOX:検証) ※成種分布、授業評価アンケートなどを参考に 「学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 「・今年度の成果と課題 (OHEOX:検証) ※成種分布、授業評価アンケートなどを参考に 「アンケート結果に、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アナート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予密・復習の解剖時間を効率的かつ有意観に確保させ、表の方、学童音歌 理解度 学覧時間 湯足底 (基定をよる) は、1 4 3 4 2 66 7分 4.1 ともの歌と伴奏法 27 3 4 0 3.9 66 0分 3.7 第 1 4 0 3.9 66 0分 3.7 アラティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 「東本の変と特徴、 「東本の変し、 「東本の変し	令和 3	年	月川	期		授業評価	報告書	Ė	氏	;名		中嶋	浜子	-
 大学生には練習方法を十分に指導しており、今後なお、粘り強く技能習得できるような自己研鑚と努力に期待さる。 今年度の目標・改善計画 (ADT: 改善、PLAN: 計画) 前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく読譜する。保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) 学生の個性力量に相応しい選曲をする。保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 ・今年度の成果と課題 (OHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・ク年度の成果と課題 (OHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔過授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予否・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ、要がある。 学生の表した事業の 学生の 要性の 学生の 要素に確保させ、数え方 学面質飲 理解度 学健時間 通足衰に含とき余表現 20 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 4.3 4.2 6.2 6.2 7分 4.1 4.3 4.2 6.2 7分 4.1 4.3 4.2 6.2 7分 4.1 4					()	J >>>			1 -	<u> </u>		19	<i>"</i> (3	
、学生には練習方法を十分に指導しており、今後なお、粘り強く技能習得できるような自己研鑚と努力に期待る。 ・今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画) 前期同様、基礎理論を理解し、錯面から正しく誘端する。 保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 ・今年度の活動内容・方法(DO:実行) 学生の個性力量に相応しい適曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 ・今年度の成果と課題(CNECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・ 今年度の成果と課題(CNECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・ 少ケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ 要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生のの変と得異は、学生の 教え方 学望変数 理解度 学時時間 通足質 自と音楽表現 201 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 4.3 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 データがありません ・ アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 屋体みや空き時間、学生からの相談に応じるとともに補充指導も行った。														
 大学生には練習方法を十分に指導しており、今後なお、粘り強く技能習得できるような自己研鑚と努力に期待る。 ・・今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画) ・・ 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) 学生の個性力量に相応しい選曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意はこついて指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 ・・ 今年度の成果と課題 (CHECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・・ 今年度の成果と課題 (CHECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・・ ク年度の成果と課題 (CHECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・・ ク年度の成果と課題 (CHECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・・ ク年度の成果と課題 (CHECX:検証) ※成績分布、授業評価アンケートのおりでは、できままままままままままままままままままままままままままままままままままま														
(ACT:改善、PLAN:計画) (ACT:改善、PLAN:計画) 前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく読譜する。 保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 (条育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 (条育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 (条育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 (条育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 (条育現場での言葉がけるに対して、検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に (条育現場での言葉がけるに対して、検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に (本学生) ※大力 ※大力 ※大力 ※学生の素質に関係させ ※表方 ※学生のよる検索評価アンケートの結果 (本学生) ※表方 ※学生の表別では、学生の歌と作奏法 207 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 どもの歌と作奏法 217 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 第一個 ※表方 ※表方 ※表方 ※表別														
前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく誘語する。 保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 学生の個性力量に相応しい運曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 ・ 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・ 一ク年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績字音楽の声音・復習の練習時間変かの参考に確保させ ・ 要生の表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表記を表						, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		35 11.0						
前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく誘譜する。 保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 ***********************************														
前期同様、基礎理論を理解し、譜面から正しく誘語する。 保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 学生の個性力量に相応しい選曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や簡意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 ・ 今年度の成果と課題(GHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に ・ 7ンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔過授業と授業外学習時間減少の影響は明らか。アート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の歌と伴奏法 217 4 6 4 1 4 3 4 2 66.7分 4.1 2.5 60.7分 4.1 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 3.7 3.7 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7 3.7		· 改善計	h画(Ai	CT:改	善.	PLAN:計画)								
保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 3. 今年度の活動内容・方法(DO:実行) 学生の個性力量に相応しい選曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ、要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の歌さらを表現 207 46 41 43 4.2 66.7分 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.	. , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	4 G III	П (27.11 11 11 17								
保育現場に必要な生活・季節の曲を表現豊かに弾き歌う。 3. 今年度の活動内容・方法(DO:実行) 学生の個性力量に相応しい選曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ、要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の歌さらを表現 207 46 41 43 4.2 66.7分 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.														
 学生の個性力量に相応しい選曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 今年度の成果と課題 (CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ、要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の大学の教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 信き音素表現 207 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 どもの歌と伴奏法 217 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 料 目 名 対象 必修 履修 平均 名数 A B C F W (脱落 を生 を) A B C F W (脱落 を) A B C F W (脱落 を) A B C F W (脱落 を) A B C F W (ルネ A B A B C F W (ルネ A B A B C F W (ルネ A B B C B A B C F W (ルネ A B B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C B A B C														
学生の個性力量に相応しい適曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 *** ** ** ** ** ** ** ** **	保育現場に必要な	¥生活·	季節の)曲を	表現豊	₿かに弾き歌 ∙	ð.							
学生の個性力量に相応しい適曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 *** ** ** ** ** ** ** ** **														
学生の個性力量に相応しい適曲をする。 保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 *** ** ** ** ** ** ** ** **	2 会年度の活動に	5灾,七	注 (Di	n·宝/	<i>≔)</i>									
保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 - 今年度の成果と課題(CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に - アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アアート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ - 予生による授業評価アンケートの結果 - 学生の数を含まままままままままままままままままままままままままままままままままままま	7. 7 千皮 57 / 1 到 7	14 /	1/A (D	0·天1	1)									
保育現場での言葉かけの仕方や留意点について指導する。 学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かすようにする。 - 今年度の成果と課題(CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に - アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アアート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ - 予生による授業評価アンケートの結果 - 学生の数を含まままままままままままままままままままままままままままままままままままま														
学生自らのアイデアを具体的な伴奏法に生かずようにする。 アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アケート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ必要がある。 科 目 名 対象 内容や 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させ必要がある。 料 目 名 対象 内容や 学生による授業評価アンケートの結果 学生の 教え方 学面意欲 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 教え方 学面意欲 学生の 特別度 学性時間 満足度 第1合と音楽表現 207 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 まどもの歌と伴奏法 217 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 科 目 名 対象 必修 履修 学生 選択 者数 点 日本						いておばす:	7							
アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アケート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる要がある。														
アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アケート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる要がある。														
アンケート結果は、学生の高い満足度を示しているものの、隔週授業と授業外学習時間減少の弊害は明らか。アケート結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる要がある。	4	-m er /	/OUEOU	. 10==	- \	*__*\	. 152 Alt = T	— — .	, ,	4. 184	4 + 1	_		
r — ト結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 科 目 名 対象 内容や 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 「育と音楽表現 207 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 「どもの歌と伴奏法 217 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 「評 価 科 目 名 対象 必修 アウス 4.0 3.9 66.0分 3.7 「評 価 「科 目 名 対象 必修 アウス 4.0 3.9 66.0分 3.7 「評 価 「アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 「ロータがありません 「アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 「国際を持ちます」を表現します。 「日本の表現では、1.3 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4	- 9年度の成果と 	:課題(CHECK	:検証	:)	※ 成績分布	授業評	lmh ア ` ノ	ケート	などを	参考	Ξ		
r — ト結果の高評価に満足することなく、さらに授業外の予習・復習の練習時間を効率的かつ有意義に確保させる要がある。 学生による授業評価アンケートの結果 科 目 名 対象 内容や 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 「育と音楽表現 207 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 「どもの歌と伴奏法 217 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 「評 価 科 目 名 対象 必修 アウス 4.0 3.9 66.0分 3.7 「評 価 「科 目 名 対象 必修 アウス 4.0 3.9 66.0分 3.7 「評 価 「アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 「ロータがありません 「アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 「国際を持ちます」を表現します。 「日本の表現では、1.3 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4 1.4							· IXAII	画 ア フ						
学生の							·	<u>ш</u> , , ,						
科目名 対象 学生 Depth Name 教員の 教え方 学生の 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 場合と音楽表現 20Y 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 さどもの歌と伴奏法 21Y 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 科目名 対象 学生 選択 者数 学生 選択 者数 点 S A B C F W (脱落 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人						ているものの	の、隔週技	受業と摂						
科目名 対象 学生 Depth Name 教員の 教え方 学生の 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 場合と音楽表現 20Y 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 さどもの歌と伴奏法 21Y 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 科目名 対象 学生 選択 者数 学生 選択 者数 点 S A B C F W (脱落 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人	ァート結果の高評値					ているものの	の、隔週技	受業と摂						
科目名 対象 学生 Depth Name 教員の 教え方 学生の 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 場合と音楽表現 20Y 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 さどもの歌と伴奏法 21Y 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 科目名 対象 学生 選択 者数 学生 選択 者数 点 S A B C F W (脱落 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人	rート結果の高評値					ているものの	の、隔週技	受業と摂						
付日 石 学生 レベル 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 建育と音楽表現 20Y 4.6 4.1 4.3 4.2 66.7分 4.1 まどもの歌と伴奏法 21Y 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 科目名 対象 学生 選択 者数 平均 点 S A B C F W (脱落 人) メータがありません 5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 昼休みや空き時間、学生からの相談に応じるとともに補充指導も行った。	rート結果の高評値				<	,ているものの らに授業外の	か、隔週技 か予習・後	受業と摂 関習の網	東習時間					
さともの歌と伴奏法 21Y 3.4 3.7 4.0 3.9 66.0分 3.7 科目名 対象 学生 選択 者数 点 S A B C F W (脱落 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人	√ ― ト結果の高評値 必要がある。	一 対象	するこ	ことな [。]	<	,ているものの :らに授業外の こよる授業評(の、隔週技 の予習・ 値 m アンケー	受業と摂 関習の終 - トの糸	東習時間 ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ま	間を効薬	を的か 	つ有意義	に確保	させる
科目名 対象 学生 選択 者数 原修 選択 者数 点 S A B C F W (脱落 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人	r — ト結果の高評値 必要がある。 科目名	一対象 学生	するこ	容や・ベル	<	ているものの らに授業外の まる授業評価 教員の 教え方	の、隔週技 の予習・ 後 画アンケー 学生の 学習意名	受業と 関習の を - トの #	東習時間 果 学生 理解	の度	を的か 授学(での有意義 業外 修時間	に確保全体満り	させる 的な ² 度
科 日 名 学生 選択 者数 点	7 一ト結果の高評値 必要がある。 科目名 R育と音楽表現	対象 学生 20Y	内レ	ごとなっ : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	<	ているものの ららに授業外の こよる授業評価 教員の 教え方 4.1	の、隔週技 の予習・ 位 m アンケー 学習意名 4.3	受業と 関習の を - トの #	吉果 学生 4. 2	『 の 	を的か 授 <u>学(</u>	で で で で で で で を に で で で で で で で で で で で で で	に確保 全体 る 4.	させる 的な 1
人 % 人 % 人 % 人 % 人 9 データがありません	7 一ト結果の高評値 必要がある。 科目名	対象 学生 20Y	内レ	ごとなっ : : : : : : : : : : : : : : : : : : :	<	ているものの ららに授業外の こよる授業評価 教員の 教え方 4.1	の、隔週技 の予習・ 位 m アンケー 学習意名 4.3	受業と 関習の を - トの #	吉果 学 <u>理解</u> 4.2	『で効≥』 の 度 !	を的か 授 <u>学(</u>	で で で で で で で を に で で で で で で で で で で で で で	に確保 全体 る 4.	させる 的な 1
5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況 昼休みや空き時間、学生からの相談に応じるとともに補充指導も行った。	7 一ト結果の高評値 必要がある。 科目名 程を音楽表現 そどもの歌と伴奏法	対象 学生 20Y 21Y	- 大 - ト 	で 1 2 3 4 6 3 4 6	学生に	ているものの ららに授業外の こよる授業評価 教員の 教え方 4.1 3.7	の、隔週指 の予習・位 一 一 学習意 4.3 4.0	受業と摂習の網ートの糸	表	の度 2	を的か 授 学 6	で ※業外 ※修修時間 36. 7分 36. 0分	に確保 全体 満 4. 3.	させる <u> </u>
昼休みや空き時間、学生からの相談に応じるとともに補充指導も行った。	7 一ト結果の高評値 必要がある。 科目名 程を音楽表現 そどもの歌と伴奏法	対象 学生 20Y 21Y	- 大 - ト 	で 1 2 3 4 6 3 4 6	学生に	ているものの らに授業外の こよる授業評価 教員の 教え方 4.1 3.7	の、隔週打 の予習・位 一 一 学生の 学習意ぞ 4.3 4.0	受業と授習の総 - トの糸 次	書 書 学 理 名 . 2 3 . 9 平 B T	の 度 2 () () ()	を的か 授 学化 6	で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・	全体 為 4. 3.	させる <u> </u>
	アート結果の高評価 必要がある。 科目名 程育と音楽表現 	対象 学生 20Y 21Y	- 大 - ト 	で 1 2 3 4 6 3 4 6	学生に	ているものの ららに授業外の よる授業評価 教員の 4.1 3.7	の、隔週技 の予習・位 一 一 学習意 4.3 4.0	受業と授習の総 - トの糸 次	書 書 学 理 名 . 2 3 . 9 平 B T	の 度 2 () () ()	を的か 授 学化 6	で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・	全体 為 4. 3.	させ <u>お度</u> 1 7 <u>脱</u>
	7 一ト結果の高評価 2 要がある。 科 目 名 経育と音楽表現 そどもの歌と伴奏法 科 目 名	対象 学生 20Y 21Y 対学生	上するこ 内レー 必修選択	で 本 本 を 4.6 3.4 履者数	く、 さ 学 <u></u>	ているものの ららに授業外の まらに授業評価 教員の 教え方 4.1 3.7	D、隔週打 D予習・位 mアンケー 学習意ぞ 4.3 4.0	受業と授習の総 - トの糸 次	書 書 学 理 名 . 2 3 . 9 平 B T	の 度 2 () () ()	を的か 授 学化 6	で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・	全体 為 4. 3.	させる <u> </u>
	7 一ト結果の高評価 2 要がある。 科 目 名 経育と音楽表現 そどもの歌と伴奏法 科 目 名	対象 学生 20Y 21Y 対学生	上するこ 内レー 必修選択	で 本 本 を 4.6 3.4 履者数	く、 さ 学 <u></u>	ているものの ららに授業外の まらに授業評価 教員の 教え方 4.1 3.7	D、隔週打 D予習・位 mアンケー 学習意ぞ 4.3 4.0	受業と授習の総 - トの糸 次	書 書 学 理 名 . 2 3 . 9 平 B T	の 度 2 () () ()	を的か 授 学化 6	で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・	全体 為 4. 3.	させる <u> </u>
練習を毎日継続すること、疑問点は、すぐに質問してくるよう促した。	7 一ト結果の高評価 2 要がある。 科 目 名 経育と音楽表現 そどもの歌と伴奏法 科 目 名	対象 学生 20Y 21Y 対学生	上するこ 内レー 必修選択	で 本 本 を 4.6 3.4 履者数	く、 さ 学 <u></u>	ているものの ららに授業外の まらに授業評価 教員の 教え方 4.1 3.7	D、隔週打 D予習・位 mアンケー 学習意ぞ 4.3 4.0	受業と授習の総 - トの糸 次	書 書 学 理 名 . 2 3 . 9 平 B T	の 度 2 () () ()	を的か 授 学化 6	で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・ で ・	全体 為 4. 3.	させ <u>お度</u> 1 7 <u>脱</u>

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

・限られた時間の中、忙しい学生の意欲喚起へとつながるような声掛けをする。 ・楽曲演奏から得た豊かな感性を子供達の指導に還元できる保育者を育てる。

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

前年度はコロナ禍のため授業の連続性が崩れ心配したが最終的には学期内に終了することができた。特に半期終了の時事研究は5週間ほどにまたがる個別のプレゼンテーションがほぼ予定通りに終わり安堵した。アンケートの結果からも学生の達成感がある程度感じられる。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)

時事研究の授業では社会の仕組みやシステムを理解することを目指している。その手段として新聞に目を通すこと を勧めており、毎回授業の初めには当日の新聞一面を紹介するようにもしている。課題として上記のプレゼンテー ションと新聞の投書欄に関するレポートを課している。レポートのテーマについては今一度考えてみたい。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

コロナ禍の終息が見られず一部授業の時間変更等を余儀なくされたが、全般的にはほぼ問題なく完了することができた。半期終了の時事研究では例年より欠席が少なかったこともあり、授業ごとに六人の発表を4週できっちり終了した。レポートに関しては各人が新聞の投書欄から興味のある手紙を選び、その内容に関して意見・感想を書いてもらった。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

英語科目は前期が終わったところである。アンケートの結果を昨年度と比較して見ると幼児教育は余り差がないが、食物・ビジネス医療の方は全般的に今年度の評価が高い。おそらく昨年と比べて履修者数が若干減ったことが原因ではと思っている。個別に行っている会話練習は人数が少ない方が時間が取れるので、この点を後期も活かしていかれればと思っている。

				学生に	よる	授業評	価アン	ノケー	トの結	課						
科目名	対象 学生		P容や ノベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			發業外 修時間		全体的	
英語	20Y		3. 7		3. 6	3		3. 9		3. 6	;	3	30. 3分		3. 7	7
英語	218		4. 5		4. 5	5		4. 3		4. 3			30.0分		4. 5	<u>.</u>
英語	21L		4. 4		4. 6	3		4. 3		4. 1			37. 5分		4. 3	3
時事研究	21L		4. 4		4. 3	3		4. 2		4. 0)		32. 5分		4. 2)
				,						評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	,	S	1	Α		3			F	=	W (§	脱落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	Д	%	人	%
時事研究	21L	必修	24	80. 0	4	16. 7%	14	58. 3%	6	25. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

英語の授業内容に関しての質問は授業直後に受けることが多い。欠席連絡をきちんとするように自分のメールアドレスを学生に周知しているため、そちらに質問が入ることもある。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- ・幼児教育の英語は英文プリント解説に半分強の時間を使っている。プリントは主にアメリカの幼稚園・保育園について書かれた新聞記事等でA4裏表以内の長さのものを選んでいる。残りの時間に会話練習をしているがプリントと会話のバランスは試行錯誤の状態である。
- ・時事研究では毎年一人ずつテーマを決めてプレゼンテーショをしてもらっている。それ以外に通常授業の中で学 生が発言できる機会を増やせないか考えている。

仐	和		3	年	前	期		授美	集評 信	西報·	告書		氏	名		西田]	聖子	
1.	前年	度σ	成果と	課題((CHECK	:検証	<u> </u>												
認定	'試験	(の過	去問題	を参考	たし、	講義(の中で	で話す	ように	心がし	ナた。								
2.	今年	達σ)目標:	改善計	·画(A	CT:改	善、	PLAN:	計画)										
			kの基礎 こパワー				表の植	幾会を	作る。										
3.	今年	度σ	活動内	容・方	法([00:実	行)												
務に	おい	ても	:置いて 減り、 となる:	PCのソ	フトの	の利用の	となっ	ってい	るので	何か舞	疑問がと	出たと	きはス	マホ					
4.	今年	度σ	成果と	課題((CHECK	(:検証	(※月	 技績分れ	方、授	業評価	アン・	ケート	などを	参考	Ξ			
かも	しれ	なし	,、教え \。 'ツチボ					ちてい	る。講	義中、	パワ-	ーポイ	ントを	を使っ [*]	て一方	的な詞	舌にな	ってし	ハたの
				1 +1.45			学生に				ンケー	トの結	W 11	T)	+22	₩ N	-	∆/tr	V1 +>
	科	目	名	対象学生		P容や ノベル		教員 教え		学	字生の 習 <u>意欲</u>		字生(理解)			業外 <u>多時間</u>		全体的	
図書	管理論	i		20L		4. 2		4.	2		4. 2		4. 2		6	6.0分		4.	2
				+1.75	N. life	= 45	- 14-						評	価					
	科	目	名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均 点		S		A		В	()	F	=	W (脱落)
								人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
	管理論			20L	選択	5	90.		80. 0%		20. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	0	0. 0%	(0. 0%
5.	アク	ティ	ブラー	ーニング	および	ゾオフ.	ィスフ	アワー	の実施	状況									
なし																			
6.	次年	度σ)目標·	改善計	·画(A	CT:改	善、	PLAN:	計画)										
次年	度講	義予	定なし																

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考え、学生自ら考え動き楽しみながら向上し ていける授業を行う。

講義は、わかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

2. 今年度の目標・改善計画 (ACT:改善、PLAN:計画)

- (1)実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。
- (2) 学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
- (3)講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

- (1) 実技科目活動目標を各グループであげて、授業の終わりに自己評価するようにさせた。 (2) 活動意欲が沸くような課題を出したり、特に苦手な実技科目に対して意欲の低い学生には、動きの分析をしてわかりやすい説明・実技指導をしながら、一緒に楽しみながら課題克服を目指した。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学習記録で目標を決めさせることでより活動意欲高まり、授業終わりに活動の振り返りをし自己反省をすることで次の授業の意欲につながった。学習記録をチェックすることで学生の困っていることや意見など把握でき、コメントを書くことでより良いアドバイスをすることできた。実技を見せながら説明したり、動きの分析をすることによりスムーズに課題克服し、できると自信につながった。グループ活動を増やした結果、学生同士のコミュニケーションも上手にとることができ互いに教え合いながら習得をしていく後もの場合の場合で表現した。 た。学生ともさらにコミュニケーションが取れるようになった。体育講義の授業の後に学習記録を書かせることで しっかりと復習をすることができた。

労ナルトス 極業証体マン た L の 仕田

				T	-0.01	XXIII			「マン小口							
科 目 名	対象学生		容や /ベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			發業外 修時間		全体的	
生涯スポーツ	218		4. 6		4. 7	1		4. 6		4. 7		1	13.6分		4. 7	,
生涯スポーツ	21L		4. 8		4. 7	,		4. 4		4. 5			7. 5分		4. 7	'
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	,	3	A	4	E	3	(F	=	W (A	悦落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

授業後に実技課題など上手くできないと質問・相談があり、運動の分析の仕方・習得の方法を指導し、一緒にその | 技業像に美技味風なとエチトできないと見向、相談があり、建刻のカガレにカー 自行の力はを指导し、 帽にてい 課題克服を目指した。できるようになりそれが自信となって楽しんで活動する姿が見られるようになった。授業以外でも運動をする習慣が増えてきている。コミュニケーションを上手く取れないとの相談にもアドバイスをして授業中も見守りながら声掛けをして楽しく授業ができるように導いた。体育講義は、身近なものや実体験を通してわ かりやすく話すことで共感して悩みや疑問に思っていたことなど話に来るようになり、学生が求めている内容を授 業に取り入れて向上につながった。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

- (1)実技科目に対して意欲の低い学生やコミュニケーションをとるのが苦手な学生の対応を考える。(2)さらに学生自ら考え動き楽しみながら向上していけるように課題工夫してを授業を行う。
- (3)講義は、実体験やわかりやすく興味を持つ内容を取り入れて学習意欲向上を目指す。

	. 前年度の成果と	- 1	前	期		授業評価	西報告書		氏名		宮﨑	洋子	
かったようである。試験が見えてくると上向きになりそうでないときのモチベーションとは差があり気になると みである最初の取り組みから自分なりにコツコツと作り上げていった学生は結果につながっていたと感じた。 . 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) 年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていた ければならない。一人当たりの1回の栄養時間が長くなったので、成果が表に出るように学びを考えていた よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生してくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できようにしていく。そのためには、時間配分をし、総習と授業を可能に取り結り返し行う、その時だけの課題だけ 目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (OHEOX: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業つても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲はきと変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の教と伴奏法 207 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 2.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.5 0.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4			(CHECK:	検証)									
かったようである。試験が見えてくると上向きになりそうでないときのモチベーションとは差があり気になると みである最初の取り組みから自分なりにコツコツと作り上げていった学生は結果につながっていたと感じた。 . 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) 年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていた ければならない。一人当たりの1回の栄養時間が長くなったので、成果が表に出るように学びを考えていた よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生してくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できようにしていく。そのためには、時間配分をし、総習と授業を可能に取り結り返し行う、その時だけの課題だけ 目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (OHEOX: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業つても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲はきと変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の教と伴奏法 207 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 2.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.5 0.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4													
かったようである。試験が見えてくると上向きになりそうでないときのモチベーションとは差があり気になると みである最初の取り組みから自分なりにコツコツと作り上げていった学生は結果につながっていたと感じた。 . 今年度の目標・改善計画 (ACT: 改善、PLAN: 計画) 年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていた ければならない。一人当たりの1回の栄養時間が長くなったので、成果が表に出るように学びを考えていた よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生してくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO: 実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できようにしていく。そのためには、時間配分をし、総習と授業を可能に取り結り返し行う、その時だけの課題だけ 目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (OHEOX: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業つても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲はきと変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の教と伴奏法 207 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 2.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.5 0.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4.5 4													
スである最初の取り組みから自分なりにコツコツと作り上げていった学生は結果につながっていたと感じた。													
年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていたければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できょうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (CHEOK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でしても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生のからが表現である。 1 年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6													
年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていたければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できょうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (CHEOK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でしても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生のからが表現である。 1 年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6													
年度より授業の形態が変わり、今まで以上に時間の制約があるなかで、成果が表に出るように学びを考えていたければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できょうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (CHEOK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でしても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生のからが表現である。 1 年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6													
ければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できようにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけるに向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でつても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲はおと変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容やレベル 教え方 学習意欲 理解度 学権時間 適足度 音と音楽表現 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7	. 今年度の目標・	改善計	-画(ACT	:改善	善、 P	LAN:計画)							
ければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できようにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけるに向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でつても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲はおと変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容やレベル 教え方 学習意欲 理解度 学権時間 適足度 音と音楽表現 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7													
ければならない。一人当たりの1回の授業時間が長くなったので、問題点をあらかじめ明らかにしておき、場合よっては集中的に1つの事柄に取り組む必要も生じてくるのではないか。 . 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できようにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけるに向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題 (CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でつても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲はおと変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容やレベル 教え方 学習意欲 理解度 学権時間 適足度 音と音楽表現 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7 9.7	・ 年 上 川 塔 業 の 形	能が赤	5 h ll ≰	ムまで	151 F	に時間の割	約があるか	かで	式里 が実り	- 山 ス	トコー学が	「た老ラフ	-114
- 今年度の活動内容・方法 (DO:実行) までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できょうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 - 今年度の成果と課題 (CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でつても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲は抱と変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の教え方 学型賞数 理解度 学修時間 選足度 自とき承表現 207 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 ともの取と伴奏法 217 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 ともの取と伴奏法 217 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 科目名 対象 必修 履修 平均 5 A B C F W (股階) データがありません アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況	ければならない。	一人当	たりの1	回の批	3業	持間が長くな	よったので、	問題点	〔をあらか				
までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できまうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。	よっては集中的に	. 1つの	事柄に具	区り組	心必	要も生じて	くるのでは	よいか。)				
までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できまうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。													
までより、1回の授業での学生とのレッスン時間が長くなったので、その授業時間の中で小さな課題を解決できまうにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。	 . 今年度の活動内	容・方	i法(DO:	: 実行	-)								
ようにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題(CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業であっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。 1 年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の教え方 学習意欲 理解度 学生的 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 育と音楽表現 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 ともの歌と伴奏法 217 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 ともの歌と伴奏法 217 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 3.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0													
ようにしていく。そのためには、時間配分をし、練習と授業を可能な限り繰り返し行う、その時だけの課題だけ目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。 . 今年度の成果と課題(CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業であっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。 1 年生の学習意欲は多と変わらず向上心が見受けられる。 学生による授業評価アンケートの結果 学生による授業評価アンケートの結果 学生の教え方 学習意欲 理解度 学生的 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 育と音楽表現 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 ともの歌と伴奏法 217 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 ともの歌と伴奏法 217 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 2.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 3.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0													
目を向けず、習得できずに時間経過してしまった内容も少しずつ取り入れてやっていく。													
- 今年度の成果と課題(CHECK: 検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に 生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業であっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1年生の学習意欲は往と変わらず向上心が見受けられる。												ごけの課題	夏だけ
生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1 年生の学習意欲は役と変わらず向上心が見受けられる。			10年4月日刊	土地し		よりたけ石	09090	W 27/	10 (1-)	(0.00			
生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1 年生の学習意欲は役と変わらず向上心が見受けられる。													
生による授業評価アンケートの結果が、全体的に後期よりの数値が低くなっている。同じ内容やレベルの授業でっても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。1 年生の学習意欲は役と変わらず向上心が見受けられる。	今年度の成果と	理題 (CHECK:	給証)		※成績分れ	5 授業証価	アンケ	ートなど	を参考	1		
つても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。 1 年生の学習意欲は名と変わらず向上心が見受けられる。													
つても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。 1 年生の学習意欲は名と変わらず向上心が見受けられる。													
つても、今年度からの新しい授業方法がまだ定着しておらず、より慎重さが求められる。 1 年生の学習意欲は名と変わらず向上心が見受けられる。			- 1.0%	·+ == 13	, ,	LL 46 1 - 24 +n	1. 11 0 % / +	1815 1	4. —	, _–	·	.» 	T 244
学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 学生の 学生の 学生の 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 学修時間 満足度 育と音楽表現 20Y 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 どもの歌と伴奏法 21Y 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 科目名 対象 学生 選択 者数 学生 選択 者数 学生 選択 者数 学生 選択 者数 財産 大力 場合 A B C F W (脱落) アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況	っても、今年度か	らの新	fしい授業	業方法									
科 目 名 対象 内容や	と変わらず向上心	が見受	けられる	5.									
科 目 名 対象 内容や													
科 目 名 学年 レベル 教え方 学習意欲 理解度 学修時間 満足度 育と音楽表現 207 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 どもの歌と伴奏法 217 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 科 目 名 対象 影像 アウライブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況				学	生に	よる授業評	価アンケー	トの結	果				
育と音楽表現 20Y 4.6 4.6 4.6 4.7 113.3分 4.6 E もの歌と伴奏法 21Y 4.6 4.6 4.6 4.8 90.0分 4.6 科 目 名 対象 学生 選択 層像 平均 点 S A B C F W (脱落) ボータがありません アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況	科目名					*****							
科 目 名 対象 必修 履修 平均 S A B C F W (脱落) 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人	育と音楽表現			_									
科 目 名 対象 学生 選択 者数 平均 点 S A B C F W (脱落) データがありません . アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況	どもの歌と伴奏法	21Y	4.	6		4. 6	4. 6		4. 8		90.0分	4. 6	3
Y							L		評価				
人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 %	科目名					S	А	В		С	F	W (§	脱落)
. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況		, _			7111	人 %	人 %	人	% 人	%	Д	% 人	%
					-	データが	ありません						
		ニンク	゚およびフ	オフィ	スア	ワーの実施	大況 状況						
業終了後、簡易楽譜の対応や伴奏形態についての質問があり、昼休みやSNSを通じて解答した。	. アクティブラー					2 4.00							
業終了後、簡易楽譜の対応や伴奏形態についての質問があり、昼休みやSNSを通じて解答した。	. アクティブラー												
業終了後、簡易楽譜の対応や伴奏形態についての質問があり、昼休みやSNSを通じて解答した。	. アクティブラー												
	. アクティブラー												
		譜の対	応や伴寿	奏形態	につ	いての質問	があり、昼 ^ん	木みや	SNSを通じ	て解答	した。		
		譜の対	┝応や伴奏	奏形態	につ	いての質問	があり、昼	木みや	SNSを通じ	て解答	した。		
. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)		譜の対	応や伴	奏形態	につ	いての質問	があり、昼	木みやり	SNSを通じ	て解答	した。		
グナスッロ1株 以古川県 (N∪1・以古、I LAN1・川県)	業終了後、簡易楽							木みや !	SNSを通じ	て解答	した。		
	業終了後、簡易楽							木みや !	SNSを通じ	て解答	した。		

短期間ですぐに結果が出る授業ではないので、日々の積み重ねの重要性をいかに理解してもらうか毎回学生と一緒 に取り組んでいき、小さなステップアップを大事に進めていきたい。

令和	3	 年	前	期		授業評価	西報告書	氏	;名		村川	千佳	
		果と課題(32274411					,,,,,		
1. ピアノ	/ の定期	试験に向け	ての指	1導と並	:行し	,て、保育の	現場で役立つ	内容も取り	ノ入れ:	た。			
							に実力の向上			-0			
2. 今年	F度の目 [‡]	票・改善計	·画(A	CT:改善	善、「	PLAN:計画)							
立ぶの‡	t T林 h/n ナヽ・	もの本代 は	++ 1-	曲 かわ	ᆇᄻ	が主用につ	ハナナ北湾ナ	- 7					
百栄の基	を隠りなり	月の育成と	共に、	豊かな	百栄	的表現につ	いても指導す	ি					
3. 今年	手度の活動	動内容・方	法(D	0:実行	-)								
1. ピアノ	/・歌唱(こおいて、	技術の)向上及	び音	「楽的表現の	充実						
2. 歌唱に	こついて、	保育の現	場で活	舌かせる	発声	法・発語・	表現の指導						
4. 今年	F度の成 ^り	果と課題((CHECK	: 検証)		※成績分布	F、授業評価 [®]	アンケート	などを	参考	Ξ		
							生のピアノの						
に取り組 たい。	且む姿勢を	を感じられ	た。~	う後も学	生名	ト々のレベル	を見極め、必	労会な指導で かんこう かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん	を行い、	各人	、のレベル	アップ	に努め
			_		生に		価アンケート				7 AW. 1-1	.	
科	目 名	対象 学生]容や ,ベル		教員の <u>教え方</u>	学生の 学習意欲	学生 理解			養業外 修時間	全体 満5	
保育と音楽	 楽表現	20Y		4. 4		4. 5	4. 6	4. 5	5		71. 3分	4.	6
子どもの歌	かと伴奏法	21Y		4. 5		4. 5	4. 5	4. 6	6	(92. 7分	4.	5
								評	価				
科	目 名	対象 学生	必修 選択		平均 点	S	А	В	C)	F	W	'n\/ ++ \
										%			. 脫洛)
						人 %	人 %	人 %	人	70	人 9	% 人	.脫洛)
							人 % の	人 %	Λ	70	人 9	% 人	
5. アク	フティブ ⁻	ラーニング	゛およて	バオフィ	スア		ありません	X %		76	人 9	6 人	1
5. アク	7ティブ ⁻	ラーニンク	゛およて	バオフィ	スア	データか	ありません	Х %	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	70	人 9	6 人	1
5. アク	7ティブ ⁻	ラーニンク	゛および	 	スア	データか	ありません	X %		70	人 9	% 人	1
						データが アワーの実施	状況						%
	間に熱心!	こ質問に訪				データが アワーの実施	ありません						%
空き時間	間に熱心!	こ質問に訪				データが アワーの実施	状況						%
空き時間	間に熱心!	こ質問に訪				データが アワーの実施	状況						%
空き時間 取り、補	引に熱心! 浦講に努る	こ質問に訪 かた。	うれる当	学生に対	· して	データが 7ワーの実施 7は、極力時	状況						%
空き時間 取り、補	引に熱心! 浦講に努る	こ質問に訪 かた。	うれる当	学生に対	· して	データが アワーの実施	状況						%
空き時間 取り、補	引に熱心! 浦講に努る	こ質問に訪 かた。	うれる当	学生に対	· して	データが 7ワーの実施 7は、極力時	状況						%
空き時間取り、補 6.次年	引に熱心(輔講に努る 手度の目	こ質問に説 めた。 票・改善計	īれる学 ·画(A	学生に対 CT:改書	· して	データが プワーの実施 では、極力時 PLAN:計画)	状況						%
空取り、補 6.次年 1.音楽	引に熱心(精講に努る 手度の目 を を を よ を よ を よ も に を も に を も に を も に を も に を も に を も に を も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も に も も に も に も に も も に も に も も も に も も に も も も も も も も も も も も も も	こ質問に訪 めた。 票・改善計 或のため、	うれる学 一画(A 理解し	学生に対 CT: 改善	・して	データが フーの実施 ては、極力時 PLAN:計画)	状況	また、授美	業を欠)				%

令	和	3	年	前	期		授業評価	西報告書		丑	:名		村田	実智	冒代	
		の成果と			:検証	E)										
基本	的な楽	典の理解														
テク弾き	ーツク 歌いへ	の向上 の興味関	心の強	化												
2.	今年度	の目標・	改善計	·画(Ai	CT:改	善、	PLAN:計画)									
個人	に見合	った教材	選びと	スピー	-ドに	配慮す	する									
⊐-	ド奏法	との関連	強化													
3.	今年度	の活動内	容・方	法(Di	0:実	行)										
	の基礎 方法の															
		_飢 底 ら工夫す	る													
4.	今年度	の成果と	課題((CHECK	:検証	E)	※成績分布	F、授業評価	5ア:	ンケート	などを	を参考!	Ξ			
指使	いを自	ら決め、	効率的	な練習	の強々	化										
		配慮した														
					!	学生に	こよる授業評		トの							
	科目	名	対象学生		容や ベル		教員の 教え方	学生の 学習意欲		学生 理解			受業外 修時間		:体的な 満足度	
保育。	と音楽表	現	20Y		4. 0		4. 3	4. 3		4. ()	12	20.0分		4. 0	
子ども	もの歌と	半奏法	21Y		4. 1		3. 7	4. 4		4. 2	2	-	78. 0分		3. 7	
										評	価	1				
	科目	名	対象学生	必修 選択	履修 者数	平均 点	S	А		В	(3	F	V	V(脱剂	客)
			+-	送扒	日奴	<i>™</i>	人 %	人 %	人	. %	人	%	人	%	Д	%
								ありません								
5.	アクテ	ィブラー	ニング	およれ	バオフ	ィスコ	アワーの実施									
J.		, - /		33 04 0		, , , ,	,	, (70								
学生	のモチ	ベーショ	ンに見	合った	こスピ-	ードに	こ配慮する									
-	., , .		=1 -4 -		O T	44	DI AN									
6.	次年度	の目標・	改善計	·画(Ai	CT:改	善、	PLAN:計画)									
	方法の		\ = - ·	. //												
弾き	歌いへ	の興味関	心の強	i1Ľ												

_	·和		3	年	前	期		授業評価	西報告書		氏	名		山浦	Ì	直子	
١.		隻の	成果と)										
前在	· ret のも	四米	·≣v/≖÷c₄	生聿で	ı+ z	こわごも	n	かし向き合	い、学ぶワク	7 🗆 🗁	成ねる	リキ山	ı 11	: 445 D/D +:	一	- た口も	5국 -
			で述べ			. 1671	υυ) - j	- 生 乙 円 己 百	い、子かりり	,,,,	必でり	пеш	U、 fx	71小日774	니미그	_& H 1	B 9 C
2	今年[生の	日煙・	小盖 計	· 面 (A(CT: 水	盖	PLAN:計画)									
۷.	7 - 7.	χ 07	H IN I	<u> Д</u>		01 - 4											
								ドバイスのた るような指導	上方も工夫す ┋を行う。	る。							
(=)	,,	` -		-3/() -		, ,	_ 0.	001 > 01][1	13 > 0								
_	^ /- -	tr	イチュー	<u>ب</u>	× /5/	٠ . -	- \										
3.	今年	支の	活動内容	谷・方	法 (D)	J:実行	1)										
								の授業との別 につける。	関連を考慮す	る。							
(2)	±ε	±ο	2 2 0/3	- 10 T %	公、 ソ 、	ヘム松	で対	にりりる。									
4.	今年月	隻の	成果と	課題(CHECK	:検証)	※成績分布	F、授業評価	アンク	ァート	などを	参考	に			
学ぶ	11																
									生それぞれに	三適し	た対原	ふがで	きてい	いるか、	いこ	りも自分	全自全
									生それぞれに 再認識する。	適し	た対応	☆がで *	きてい	いるか、	いこ	りも自分	計自身
										適し	た対所	ふ がで	きてい	いるか、	いっ	りも自分	計自身
										道し	た対所	ふがで 。	きてい	いるか、	いっ	りも自分	}自身
				忘れず	授業を	進める	5 = 8	この大切さを	再認識する。		果				L\-		
	·観視。				授業を	進める	5 = 8	: の大切さを	再認識する。			<u>の</u>	授	いるか、 受業外 <u>修時間</u>	راء ا	全体的 満足	りな
を客 	裙視。	する	ことを	忘れず	授業を	進める	5 = 8	c の大切さを こよる授業評 教員の	再認識する。 価アンケート 学生の		:果	の 度	· 授	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	L)-	全体的	りな度
を客 	科	する	ことを	忘れず 対象 <u>学生</u> 21Y	授業を	進める 容や ベル 4.5	生生に	c の大切さを こよる授業評 教員の 教え方	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲		果 学生 理解 4.8	の 度	· 授	受業外 修時間	():	全体的	りな度
· を客	科 もの歌と	目と伴う	ことを	対象学生	授業を	進める 容や ベル 4.5	5 = 8	c の大切さを こよる授業評 教員の 教え方	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲		·果 学生 理解 4.8	の度	授 学·	受業外 修時間		全体的	りな 度 <u></u>
· を客	科 もの歌と	目と伴う	名	忘れず 対 <u>対</u> 21Y 対象	授業を 内レ 必修	進める マベル 4.5 履修	学生に	c の大切さを による授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8	の結	·果 学生 理解 4.8	の度	授 学·	受業外 修 <u>時間</u> 32.5分		全体的 満足 4.7	りな 度 <u></u>
· を客	科 もの歌と	目と伴う	名	忘れず 対 <u>対</u> 21Y 対象	授業を 内レ 必修	進める マベル 4.5 履修	学生に	- よる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
·を客	科 もの歌る	目と伴う目	ことを 名 奏法 名	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	- よる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
·を客	科 もの歌る	目と伴う目	ことを 名 奏法 名	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
·を客	科 もの歌る	目と伴う目	ことを 名 奏法 名	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
·を客	科 もの歌る	目と伴う目	ことを 名 奏法 名	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
· を客 子 ど 5.	科 もの歌る	目 日 ティ	ことを 名 奏 名 ブラー	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
· を客 子 ど 5.	翻視・科 アクラー	目 日 ティ	ことを 名 奏 名 ブラー	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
· を客 子 ど 5.	翻視・科 アクラー	目 日 ティ	ことを 名 奏 名 ブラー	忘れず 対 <u>学</u> 生 21Y 対象生	授業 内レ 必選 必選	主進める容べル4.5履者数	学生に 平点	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
を客 	翻視。 科 I アクラ	する目と伴見目・インな	ことを 名 ブラー.	忘れず 対象 <u>+</u> 21Y 対象生 ニング	授業を必選がある。	を を 4.5 を が オフィ	学生に 平点 スプ	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
を客 	翻視。 科 I アクラ	する目と伴見目・インな	ことを 名 ブラー.	忘れず 対象 <u>+</u> 21Y 対象生 ニング	授業を必選がある。	を を 4.5 を が オフィ	学生に 平点 スプ	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
を客 	翻視。 科 I アクラ	する目と伴見目・インな	ことを 名 ブラー.	忘れず 対象 <u>+</u> 21Y 対象生 ニング	授業を必選がある。	を を 4.5 を が オフィ	学生に 平点 スプ	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	への 結	果 学生 理解 4.8 評	の度	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
を名 	観視・ 料・ 料・ アー・ にし 次 年 月 次 年 月 次 年 月 次 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日 1 日	する目と伴う目のなりの	ことを 名 表 A ブ い。 目標・i	忘れず 対 <u>象生</u> 21Y 対学 ニング 数善計	授業を放送している。	を を 4.5 修数 フィ	生 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	こよる授業評 教員の 教え方 4.7	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A % ありません 状況	- への結 	果 学生 理解 4.8 8 3 %	(人)	授 <u>学</u> (受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)
を客 	観 科 もの 科 ア し 次 各学	する	こ 名 奏 名 表 ブ い 目 心理を	忘れずず 対 <u>学</u> 21Y 対学 ニング 変善計 落落	授 内レ 修択 ひ (A(な	を 本 を を を を を を を を を を を を を	E	こよる授業評 教 <u>教え方</u> 4.7 S 人 データが プワーの実施	再認識する。 価アンケート 学生の 学習意欲 4.8 A 人 %	で授	果 学生 理解 4.8 評 3 %	の度	学() %	受業外 修 <u>時間</u> 92.5分		全体的 満足 4. 7	りな 度 7 脱落)

令和	3	年	前	期		授美	業評信	西報台	吉書		氏	名		山田	加	奈子	
1. 前年度	の成果と	課題((CHECK	:検証	E)								,				
前年度担当	なし																
0 4-5		¬/ -/ = 1	T /A	OT - 7/		DI ANI -	=1 = >										
2. 今年度	の目標・	改善計	·画(A	.CI∶ d\$	(書、	PLAN:	計画)										
「公衆衛生 ・「公衆衛 などを例と	生」は私											ないた	め、日	々の <u>生</u>	E活と	重なる	箇所
3. 今年度	の活動内	容・方	法(D	0:実	行)												
・学生に理 ていく形式		てもら	うため	か、授	業で配	配付す	る資料	は穴坦	∄め形₃	犬とし	ン、スラ	うイド	の説明	をした	こがら	書いて	覚え
4. 今年度	の成果と	課題((CHECK	:検証	E)	※成	え積分を	下、授:	業評価	アン	ケート	などを	を参考!	Ξ			
・授業が早	い プリ	`, L 18	·												,.		
くのことを る必要性が ・毎回、授 ロ頭かつ授 業の最初に	学んでも ある。 業の中で 業の最後	らおう 重点箇 に紙媒	とした i所につ 体等で	と結果 O いて I で再確認	によれば伝:認し、	るもの: えてい: 、資料	だと考 たが、 としさえ	える。 広範囲 保管さ て聴講	そのか 目かつぎ せて間 すべる	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き か る き た る る る る る る る る る る る る る る る る る	もう少し のプリン 見直す を項目こ	ンポイ ノトを ト時間	ントを ただ毎 を与え	:絞り、 :回渡す :る必要	内容 トだけ	を簡潔 ではな	!化す :く、
る必要性が ・毎回、授 口頭かつ授	学んでも がある。 中で 業の最後 は「本日	らおう 重点箇 に紙媒	とした 所にで 体等で リ」をデ	:結果 ついてI で再確 示し、 容や	によれば伝:認し、	るものに、 を を で を で が に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の に な の	だと考 たと押 ―	える。 広保で 価ア	そのかではすべる	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き か る き た る る る る る る る る る る る る る る る る る	もう少し のプリン 見項目 き項 き果 学生	ノポイト時間に の	ントを たちを明確に 接	絞り、 回渡必ずる。 業外	内容 トだけ	を簡潔 ではる。 全体的	化す : く、 : た授
る必要性が ・毎回、授 口頭かつ授 業の最初に	学んでも がある。 中で 業の最後 は「本日	らおう 重紙の目的 対象	とした 所にで は体等を うし	に結果! ついて! で再確! 示し、	によれば伝:認し、	るもの; えてい; 、資料	だ たと押 授の方と がしさ 業	えな、年代では、一位では、一位では、一位では、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	そのかませて最かてますべる	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き か る き た る る る る る る る る る る る る る る る る る	もう り プリロマ 見項 ま項 ま果	プレード でき でき のまれ を間に のま	ン たちの だらない だらり だらり だらり でんし アンドラ でんし アンドラ アン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	絞り、 回渡す る必要 する。	内容 トだけ	を簡潔ではなる。ま	化す :く、 :た授 な <u>な</u>
る必要性が ・毎回、授 ロ頭かつ授 業の最初に 科 目	学んでも がある。 中で 業の最後 は「本日	ら 重にの 対学 対学	とした 「所にて 体等で 」」 	き結果 OV 再で Note Note Note Note Note Note Note Note	によれば伝:認し、	る え、箇 に 教教 に 教教	だ たと押 授の方3	える。 佐保て 価ア 学	そのかませずでも	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き か る き た る る る る る る る る る る る る る る る る る	もう プリンマ ア 見項 日 こ	パート時と の変イーを間に の変	ン たを明	絞 回るする。	内容 トだけ	を簡潔ではる。ま全体足の	化す : く、 た授 <u>な</u> <u>な</u>
る必要性が・毎回、短短点の最初に 対して できない できない できない おいまい はいまい かいまい おいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい か	学んでも がある。 中で 業の最後 は「本日	ら 重にのの 対学生 20S	とした 「所にて 体等で 」」 	結果のでは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、<li< th=""><th>によれば伝:認し、</th><th>るもの え、箇 に 教教え 4.0</th><th>だ たと押 授の方3</th><th>える。 佐保て 価ア 学</th><th>その# 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</th><th>さめ⁴ 多 る き か る き か る き た る き た る る る る る る る る る る る る る る</th><th>5 つ プ 見項 サリ 直目 こ サ 単 単 単 年 (4.00 年) 1</th><th>パート時と の変イーを間に の変</th><th>ン たを明</th><th>絞り、 回渡 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3</th><th>内容 トだけ</th><th>を簡潔 ではる。 全体 4.2</th><th>化す : く、 た授 <u>な</u> <u>な</u></th></li<>	によれば伝:認し、	るもの え、箇 に 教教え 4.0	だ たと押 授の方3	える。 佐保て 価ア 学	その# 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き た る き た る る る る る る る る る る る る る る	5 つ プ 見項 サリ 直目 こ サ 単 単 単 年 (4.00 年) 1	パート時と の変イーを間に の変	ン たを明	絞り、 回渡 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	内容 トだけ	を簡潔 ではる。 全体 4.2	化す : く、 た授 <u>な</u> <u>な</u>
る必要性が・毎回、短短点の最初に 対して できない できない できない おいまい はいまい かいまい おいまい かいまい かいまい かいまい かいまい かいまい か	学んで。 でもるのの の で き 業 は 「 本 名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	ら 重にのの 対学生 20S	とした 「所にて 体等で 」」 	結果のでは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、ででは、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、<li< td=""><td>によれば伝:認し、</td><td>るもの えて 資所 を 教 教 え 、 も 、 も も も も も も も も も も も も も も も も</td><td>だ たと押 授の方3</td><td>え 広保で 価 学</td><td>その# 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td><td>さめ⁴ 多 る き か る き か る き た る き た る る る る る る る る る る る る る る</td><td>5 う プ見項 ・ プ見項目 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・</td><td>パート トート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</td><td>ン たを明</td><td>絞り、 回渡 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3</td><td>内容けだけあ</td><td>を簡潔 ではる。 全体 4.2</td><td>化す :く、 だ 形 <u>な</u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u></td></li<>	によれば伝:認し、	るもの えて 資所 を 教 教 え 、 も 、 も も も も も も も も も も も も も も も も	だ たと押 授の方3	え 広保で 価 学	その# 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き た る き た る る る る る る る る る る る る る る	5 う プ見項 ・ プ見項目 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	パート トート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ン たを明	絞り、 回渡 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3 3	内容けだけあ	を簡潔 ではる。 全体 4.2	化す :く、 だ 形 <u>な</u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>
る必要性が・毎回かつ授業の最初に 料 目 公衆衛生学 公衆衛生学	学んで。 でもるのの の で き 業 は 「 本 名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	らおう 重にのの目的 対象生 20S 20L 対象	とした 所にで 体等で 引」を	を結果 () でで、	に よ は 伝 は は 伝 は は は は な の (i) 学 生 i	るもの えて 資所 を 教 教 え 、 も 、 も も も も も も も も も も も も も も も も	だ たと押 授の方 3 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	え 広保で 価 学	その f を f かつ c を f す で c を f す で c を f す で c を f す で c を f を f を f を f を f を f を f を f を f を	さめ ⁴ 多 る き か る き か る き た る き た る る る る る る る る る る る る る る	5 7 見頃 サリ直耳 サリ直耳 サ理解 4.0 7 評	パート トート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ン た	絞り、 回渡必 。 する。 業 <u>等時間</u> 31.4分 38.2分	内容けだけあ	を簡潔 でる。 全体及 4.2 3.9	化す :く、 だ 形 <u>な</u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u> <u></u>
る必要性が・毎回かつ授業の最初に 料 目 公衆衛生学 公衆衛生学	学んで。 でもるのの の で き 業 は 「 本 名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	らおう 重にのの目的 対象生 20S 20L 対象	とした 所にで 体等で 引」を	を結果 () でで、	には認ど学・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	るもの: えて()料を: () () () () () () () () () () () () ()	だ たと押 一授の方3) SI	え、広保で価グラダー	その かせべ を かせて で を シケ生意欲 4.2 4.0	さい く く さ く さ く さ く で 人 一 人 一 人 一 人 一 人 一	5 か 見	プト時と の度 価 (ン たを明	絞り、 (回るする。 業 <u>等時間</u> 31.4分 88.2分	内容トだけあがあ	を簡潔ではます。 ではままでも 全体及 4.2 3.9	化す : く、授 な な な な を ・
る必要性が 接回 なっ 一	学んで。 でもるのの の で き 業 は 「 本 名 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	s 重にの 対	としたであり、必選としたである。	を お に に に に に に に に に に に に に	に は伝: は 伝: 学生 - 平点 - 78.	るもの えて資料を: による員 4.: 4.(だと押 授の方 3 0 8 9 22.7%	える。広保で聴きます。	そのか 目かせてでき シケー 生生の 音音欲 4.2 4.0	と く く さ く で く で く で く で く で く で く で く で く	きうプリュー		ン たを明	絞り、 回るす の必る。 業 等時間 31.4分 88.2分	内容けある ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	を簡潔ではる。 全体的 4.2 3.9 W(B	化す : く、 : た : た : を : : た : を : : : : : : : : : : : : :
る必要性が授っている。	学んでも でも のの のの の の で も で も で も る の の の の の る の の る る る の し る る り る る し る る し る る る る る る る る る る	s 重にの 対象	と所体」を対している。	を結果して確認しています。	による は伝え 学生 平点 78. 71.	るもの: えて()料を: () () () () () () () () () () () () ()	だと がしさ 接	える。広範ではは、大学学	そのが ませて ませて ますべる シケー 全生の 図意欲 4.2 4.0	と く く さ く で く で く で く で く で く で く で く で く	きう少し のプリ直言 記事 主事 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		ント だ 毎 え に	絞り、 回渡で 事 事 所間 11. 4分 ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト ト	内容 + だけを 要があ % - 0.0%	を簡潔 なま 全体以 4.2 3.9 W (服 人 0	代す : く、 : た接 : を変 (を落) (0.0%)
る・ロ業 必毎頭の最初に 科生学 公衆衛生学 日 公衆衛生学 日 公衆衛生学 子 ・つい のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの	学あ業業は	ら重にの 対学 お点紙目 対学 20s 20L 対学 20s 20l ケ 4 全 20s 20L 20s 20L	と所体」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	た D で R P P P P P P P P P P P P P P P P P P	に は認ど 学生 平点 78. 71. イ てし	る え、箇 に 教教え 4. (4. ()	だ たと押 授の方3 C S % で 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	え 広保で 価 学 / / 6 3 状況	そのかつきませて最新ないケー 空生の 型意欲 4.2 4.0 27.3% 13.6%	さら、 そう	きう少し プリ直言 記事 手 理解 4.0 3.7 評 B 8 6 27.3% 6 27.3%	・パト時と ・パト時と ・パト時と ・の変 価 (人 5 11	ント だ 毎 え に	絞り、 回渡で多いである。 業件 所 131.4分 6 0 0	内容 + だけ をがあ 0.0% 0.0%	を簡潔 なま 全体及 4.2 3.9 W (M) 0 0	化す : く、授 : た 接 (本落) (3.0% (0.0%)
る・ロ業 必毎頭の最初に 本株 本株 本株 本株 本株 本株 本株 本株 大学 大学 <td>学あ業業は</td> <td>ら重にの 対学 お点紙目 対学 20s 20L 対学 20s 20l ケ 4 全 20s 20L 20s 20L</td> <td>と所体」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</td> <td>た D で R P P P P P P P P P P P P P P P P P P</td> <td>に は認ど 学生 平点 78. 71. イ てし</td> <td>る え、箇 に 教教え 4. (4. ()</td> <td>だ たと押 授の方3 C S % で 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1</td> <td>え 広保で 価 学 / / 6 3 状況</td> <td>そのかつきませて最新ないケー 空生の 型意欲 4.2 4.0 27.3% 13.6%</td> <td>さら、 そう</td> <td>きう少し プリ直言 記事 手 理解 4.0 3.7 評 B 8 6 27.3% 6 27.3%</td> <td>・パト時と ・パト時と ・パト時と ・の変 価 (人 5 11</td> <td>ント だ 毎 え に</td> <td>絞り、 回渡で多いである。 業件 所 131.4分 6 0 0</td> <td>内容 + だけ をがあ 0.0% 0.0%</td> <td>を簡潔 なま 全体及 4.2 3.9 W (M) 0 0</td> <td>化す : く、授 : た 接 (本落) (3.0% (0.0%)</td>	学あ業業は	ら重にの 対学 お点紙目 対学 20s 20L 対学 20s 20l ケ 4 全 20s 20L 20s 20L	と所体」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	た D で R P P P P P P P P P P P P P P P P P P	に は認ど 学生 平点 78. 71. イ てし	る え、箇 に 教教え 4. (4. ()	だ たと押 授の方3 C S % で 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	え 広保で 価 学 / / 6 3 状況	そのかつきませて最新ないケー 空生の 型意欲 4.2 4.0 27.3% 13.6%	さら、 そう	きう少し プリ直言 記事 手 理解 4.0 3.7 評 B 8 6 27.3% 6 27.3%	・パト時と ・パト時と ・パト時と ・の変 価 (人 5 11	ント だ 毎 え に	絞り、 回渡で多いである。 業件 所 131.4分 6 0 0	内容 + だけ をがあ 0.0% 0.0%	を簡潔 なま 全体及 4.2 3.9 W (M) 0 0	化す : く、授 : た 接 (本落) (3.0% (0.0%)
る・ロ業 必毎頭の最初に 科生学 公衆衛生学 日 公衆衛生学 日 公衆衛生学 子 ・つい のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの のの	学あ業業は	ら重にの 対学 お点紙目 対学 20s 20L 対学 20s 20l ケ 4 全 20s 20L 20s 20L	と所体」 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	た D で R P P P P P P P P P P P P P P P P P P	に は認ど 学生 平点 78. 71. イ てし	る え、箇 に 教教え 4. (4. ()	だ たと押 授の方3 C S % で 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	え 広保で 価 学 / / 6 3 状況	そのかつきませて最新ないケー 空生の 型意欲 4.2 4.0 27.3% 13.6%	さら、 そう	きう少し プリ直言 記事 手 理解 4.0 3.7 評 B 8 6 27.3% 6 27.3%	・パト時と ・パト時と ・パト時と ・の変 価 (人 5 11	ント だ 毎 え に	絞り、 回渡で多いである。 業件 所 131.4分 6 0 0	内容 + だけ をがあ 0.0% 0.0%	を簡潔 なま 全体及 4.2 3.9 W (M) 0 0	化す : く、授 : た 接 (本落) (3.0% (0.0%)

令和 3 年前期 授業評価報告書 氏名 吉井学

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

前年度の課題はこの科目が後期の生化学実験に連結するものであるから学生が前向きに興味がある分野を示し、下調べを行い、他者へ教授することができるようにすることであったが。授業評価をみると授業への取り組みについては75%の学生が意欲が出たと回答している。しかし、授業の理解については理解できたものは約30%程度と低迷している。理解ができた学生は週に1時間半以上の授業外学習をしていると考える。授業の満足度は約55%程度が満足としている。45%の満足できない学生の満足を促す授業を実施するための方法を探りたい。 昨年度より5次A評価の学生が増加し、C評価の学生が減少していることを踏まえると学生の興味はやや向上したものと推察する。C評価の学生が興味を持てる講義にしたい。

2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

生化学の解説に使用される専門用語の解説を丁寧に実施し、学生の理解度を向上させたい。そのために教科書の講義前の読み込みおよび理解できない文言の抽出と質問頻度を上げる。 学生が質問したいときにいつでも対応できるようにする。また、ヒトの体のメカニズムについて興味を持たせるためのQ&Aを増やしていきたい。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

授業開始前に質問の時間を設けた。質問に答えながら当日の講義内容へ連結させていった。さらに、自宅での学習 中の質問についてはメールアドレスを公開し常に学生からの質問を受け付ける体制を整えた。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

前年度に比してC評価の学生が減少しS及びA評価の学生が倍増した。学生が人体のメカニズムに興味が持てたことの結果と考える。この現象をさらに上昇させるため学生の意見を細やかに取り入れる工夫を考え、実践したい。メール等による質問の受付を今まで以上に拡大させる。学生の全体的な要望が一致すれば補習の実施等も考慮する。

						学生に	こよる打	授業評	価アン	ノケー	トの結							
科	目	名	対象 学生		P容や ノベル		教員 教え			生の 習意欲		学生 理解			養外 修時間		全体的	
生化学Ⅱ			20\$		3. 6		3. 8	3		4. 1		3. 3		8	34.0分		3. 7	1
												評	価					
科	目	名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点		S	A	4	[3	(F		W (§	脱落)
							人	%	人	%	人	%	人	%	Д	%	人	%
生化学Ⅱ			208	選択	23	74. 9	4	18. 2%	4	18. 2%	4	18. 2%	10	45. 5%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

メールによる質疑は常に受信し、回答を繰り返した。その結果、一部の学生には教科書の読み込み、参考図書によ る調べができた学生が増加した。質問も多く出るようになった。試験前には学習まとめのための補習を実施した。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

前年度の比して成績評価のグラフが左方推移している。次年度はさらなる左方推移してC評価の学生を減少させたい。知らなかったことを調べる。教える。質問を受ける。と一連の作業として捉えさせることで、興味を導き出すようにしたいと考える。

令和 3 年 前 期 授業評価報告書 │ 氏名 │ 吉田 高文

1. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)

前年度は、科目名「簿記会計学1」では、A評価以上の履修者割合が65.2%と高く、全体的に理解が進んでいるという結果であった。

一方、前年度の課題は、日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら授業を進めていくこと、および理解が遅れている履修者に対しては、高校ですでに簿記を学習している履修者から教えてもらうといった学生同士の「相互学習」を促すことであった。

2. 今年度の目標·改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

科目名「簿記会計学1」では、以下の4つの目標を掲げた。

- 1. 複式簿記の構造を理解する。
- 2. 簡単な財務諸表を作成できる。
- 3. 商業簿記と工業簿記の違いを理解する。
- 4. 日本商工会議所簿記検定試験3級の取得を目指す。

3. 今年度の活動内容·方法(D0:実行)

科目名「簿記会計学1」では、日商簿記検定試験3級の内容理解を進める授業を行った。また、2級の内容である工業簿記や原価計算の基礎についても説明した。具体的な活動内容は以下の通りである。まず説明プリントと練習問題のプリントを配布し、必要なつど電卓を貸し出して計算させながら授業を進めた。練習問題のプリントは毎授業後回収し、理解度を確認後、翌週に一部添削して返却した。また、欠席した学生には、次週にプリントを配布して理解度を確認させながら授業を進めた。ここまでは前年度と同内容であったが、今年度は空き時間を利用して、希望学生に問題練習を中心とした補習の授業を行った。

4. 今年度の成果と課題(CHECK:検証) ※成績分布、授業評価アンケートなどを参考に

学生による授業評価アンケートの結果は、前年度とほぼ同様で、全体的な満足度は4.0で変わらなかった。ただし、授業外学習時間が前年度の45分から37.5分と減少しているため、この点の改善が今後の課題である。成績分布は、引き続きFは0人で問題なく、Cが8.3%と前年度の26.1%を下回り改善がみられたが、逆にSの割合が39.1%から8.3%と減少した。前年度よりも期末試験がやや難しかったかもしれないが、この点の改善を課題とする。

			:	学生に	よる打	受業評	価アン	ケー	トの結	果						
科 目 名	対象 学生		容や /ベル		教員 教え			生の 習意欲		学生(理解)			業外 修時間		全体的	
簿記会計学1	21L		4. 1		4. 1			4. 1		3. 7		3	87. 5分		4. 0	
										評	価					
科 目 名	対象 学生	必修 選択	履修 者数	平均点	0)	3	A	4	Е	8			F	=	W (§	兑落)
					人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
簿記会計学1	21L	必修	24	79. 3	2	8. 3%	11	45. 8%	9	37. 5%	2	8. 3%	0	0. 0%	0	0. 0%

5. アクティブラーニングおよびオフィスアワーの実施状況

科目名「簿記会計学 I 」では、教員による一方向的な講義ではなく、学生に電卓で計算しながら問題を解かせるように進めた。

ストラック ファイス アワーについては、規程 どおり設けて、授業終了後の教室や非常勤講師控室で学生からの質問を受け付けた。とくに期末試験直前の質問が多かった。また、上述のように、空き時間を利用して補習も行った。

6. 次年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)

科目名「簿記会計学1」では、以下の2点を次年度の目標とする。

- (1) 今年度に引き続き、科目名「簿記会計学I」では日本商工会議所簿記検定試験3級の受検を念頭に置きながら 授業を進めていく。
- (2) 高校で商業を学んだ学生と普通科の学生とでは、学習開始時点ですでに差がついている。そこで、教材をより一層工夫しながら、既習者と初習者のそれぞれに満足できるような授業を目指す。

. 前年度の成果と課題(CHECK:検証)
F年度の授業評価報告書では、実技は具体的な練習方法を伝え、練習の大切さを伝える、そしてレッスンではコ
F 中度の投業計画報告書では、美技は具体的な練音方法を伝え、練音の人切さを伝える、そしてレッスノではコ : ユニケーションをとりながら練習の大切さを伝えることが課題に挙がっていた。
2. 今年度の目標・改善計画(ACT:改善、PLAN:計画)
. ラギ度の日信・改善計画(ACI・改善、FLAN・計画)
(1) 現場ですぐに使えるような演奏力、歌唱力を少しでも向上させる練習方法を伝える。(2)練習の大切さく 意識が低い学生への対応を考える。
kmpが心が十工、vの対心を与える。
3. 今年度の活動内容・方法(DO:実行)
(1)伴奏付けなどアレンジなど工夫することにより、弾きやすくまたかっこよくなることなど伝えることを心ヵ
けた。 (2) 私自身の経験談を話し、練習の大切さを伝えるよう心がけた。
・ フナタソル大(赤原(いじい)が発信) -
・ 7 十反 VIAA木 C 訴及(VIILVIN・1次証)
・ 7 十反い成本と訴題(UILUN・1次証)
ミ習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる & じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと 帰
≷習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる
ミ習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる & じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと 帰
ミ習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる 感じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと原 。
長習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる なじた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと う。 学生による授業評価アンケートの結果
民習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる 成じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思 う。 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 教員の 学生の 学生の 授業外 全体的な 学生 の 学生の 学生の 学等所 温足度
民習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる 感じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと あ。 学生による授業評価アンケートの結果 利日 タ 対象 内容や 教員の 学生の 学生の 授業外 全体的な
民習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる 成じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思 う。 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 教員の 学生の 学生の 授業外 全体的な 学生 の 学生の 学生の 学等所 温足度
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる 及じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと 学生による授業評価アンケートの結果 科 目 名 対象 内容や 学生の 教員の 学生の 学生の 授業外 全体的な 学生の 学生の 学生の 学修時間 満足度 育と音楽表現 207 4.1 4.1 4.2 4.0 73.3分 4.0
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる。
E習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる 感じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 学生の 教え方 学生の 学生の 授業外 全体的な 学生の 学生の 学作時間 満足度 第6と音楽表現 207 4.1 4.1 4.2 4.0 73.3分 4.0 ともの歌と伴奏法 217 4.9 4.9 4.9 107.1分 4.7
 民習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる。 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらなじた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思う。
 民習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だる。 技業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見る。 学生による授業評価アンケートの結果 科 目 名 対象 内容や 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらなじた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思う。
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらなじた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思う。
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だら 成じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見 学生による授業評価アンケートの結果 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらなじた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと思う。
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だら 成じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見 学生による授業評価アンケートの結果 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だら 成じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見 学生による授業評価アンケートの結果 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の
程習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だら 成じた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見 学生による授業評価アンケートの結果 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の
 記書習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらないた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見る。 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 教員の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学を時間 満足度 当会と音楽表現 207 4.1 4.1 4.2 4.0 73.3分 4.0 どもの歌と伴奏法 217 4.9 4.9 4.9 107.1分 4.7 科目名 対象 必修 履修 平均 点 S A B C F W (脱落) 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人
 記書習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらないた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見る。 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 教員の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学を時間 満足度 当会と音楽表現 207 4.1 4.1 4.2 4.0 73.3分 4.0 どもの歌と伴奏法 217 4.9 4.9 4.9 107.1分 4.7 科目名 対象 必修 履修 平均 点 S A B C F W (脱落) 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人
 記書習に行く前と終えた後では、学生の意識が1人1人違うので、実習後はコミュニケーションを取ることが必要だらないた。授業アンケートでは、今回は2年生の満足度が低いのでコミュニケーションを取るように心がけようと見る。 学生による授業評価アンケートの結果 科目名 対象 内容や 教員の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学生の 学を時間 満足度 当会と音楽表現 207 4.1 4.1 4.2 4.0 73.3分 4.0 どもの歌と伴奏法 217 4.9 4.9 4.9 107.1分 4.7 科目名 対象 必修 履修 平均 点 S A B C F W (脱落) 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人 % 人